

第 2 編

平成 28 年度 ながくて幸せ実感アンケート 調査報告書

序章 調査の概要

(1) 調査の目的

本市では、地域自治の構築に向けた仕組みづくりの一環として、①市民生活や地域社会の状況はどうか、②まちづくりは目指す方向に向かって上手く進んでいるのか、について、市民とともに確認していく「尺度＝道具」としてのモノサシが必要ではないかと考え、市民目線による「ながくて幸せのモノサシづくり」を平成 25 年度から取り組んでいます。

そして、「ながくて幸せのモノサシづくり」を進めるにあたって、長久手の姿や市民の皆様の暮らしの状況等を確認することを目的に、市民の皆様の日常生活や地域生活の実感をお聞きする「ながくて幸せ実感アンケート」の実施を平成 26 年 2 月から 3 月にかけて実施しました。

調査の実施にあたっては、市民目線による「ながくて幸せのモノサシづくり」に取り組むために、公募して集まった有志の市民と市職員による「ながくて幸せ実感調査隊」（以下「調査隊」という）を結成し、『今の「ながくての幸せ」を測ってみよう！』をキャッチフレーズに、計 10 回のミーティングの開催を通じて、「幸せ」に欠かせないことや大切なこと、確認すべきことについて、何度も議論を重ねてアンケート調査票を作成しました。また、調査結果の分析においても、ワークショップの開催を通じて調査隊のメンバー参加型で進めました。

こうした「ながくて幸せ実感アンケート」の実施から 3 年経過する中、長久手市民の幸せ実感がどのように変化したのかその実態を明らかにすることを目的に、この度、平成 28 年度版「ながくて幸せ実感アンケート」を実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

①調査対象者

- ・住民基本台帳から無作為に選んだ市内在住の満 18 歳以上の市民と前回のアンケートで次回もアンケートの協力をしてもよいと回答した市民を合わせた 5,000 人。

②調査方法

- ・郵送による配布・回収

③調査期間

- ・平成 28 年 12 月 22 日～平成 29 年 1 月 16 日

※その後 2 月末までに回収できた調査票についても極力集計するよう努めた。

(3) 調査票の回収状況

- ・回収状況は、下表のとおり。

表-1 回収状況

A : 配布数	B : 回収数	C : 有効回収数	D : 有効回収率 $D = C / A$
5,000	2,570	2,569	51.4%

(4) グラフの見方等

- ・グラフは、原則として単数回答は帯グラフ、複数回答は横棒グラフやダンゴ形のグラフを用

いて表現しています。また、評点については、横棒グラフや折れ線グラフを用いて表現しています。

- ・基数となる実数はnとして掲載し、各グラフの構成比(%)はnを母数とした割合を示しています。
- ・図中の構成比(%)は、複数回答、単数回答ともに、小数点以下第2位を四捨五入しています。その関係で合計は必ずしも100.0%にはなりません。
- ・一部のグラフにおいては、「回答なし」は省略してあります。また、設問のカテゴリー(選択肢)などの表現は、一部省略してある場合があります。

(5) 本文のコメントについて

- ・**要点**は、各設問の調査結果のポイントを簡潔に記述しています。
- ・**全体**は、各設問の単純集計の結果や、設問内における各項目との比較などについて記述しています。また、必要に応じて平成25年度調査結果との比較を記述しています。
- ・**年齢別**は年齢別にクロス集計を行った結果について記述しています。
- ・**小学校区別**は小学校区別にクロス集計を行った結果について記述しています。

(6) 問3(P.68)及び問8～問18(P.93～P.154)の評点の算出方法

各分野における生活の実感や実態については、次の方法により5段階の得点をつけて、回答者の平均となる評点を算出しました。生活の実感や実態の分析はこの評点をもとに行っています。なお、算出した評点については、小数点第3位で四捨五入しています。

選択肢	選択肢	選択肢	得点
1. 満足している	1. そう思う	1. ある	5点
2. どちらかといえば満足している	2. まあそう思う	2. まあある	4点
3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3点
4. どちらかといえば不満である	4. あまりそう思わない	4. あまりない	2点
5. 不満である	5. そう思わない	5. ない	1点

選択肢	選択肢	選択肢	得点
1. そう思う	1. 参加している	1. 行われている	5点
2. まあそう思う	2. まあ参加している	2. まあ行われている	4点
3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3点
4. あまりそう思わない	4. あまり参加していない	4. あまり行われていない	2点
5. そう思わない	5. 参加していない	5. 行われていない	1点
6. 該当しない	6. やっていることを知らない	6. やっていることを知らない	計算に含めない

評点 = {「1. そう思う」の回答者数 × (5点) + 「2. まあそう思う」の回答者数 × (4点) + 「3. どちらともいえない」の回答者数 × (3点) + 「4. あまりそう思わない」の回答者数 × (2点) + 「5. そう思わない」の回答者数 × (1点)} ÷ 総回答者数

評点 = {「1. そう思う」の回答者数 × (5点) + 「2. まあそう思う」の回答者数 × (4点) + 「3. どちらともいえない」の回答者数 × (3点) + 「4. あまりそう思わない」の回答者数 × (2点) + 「5. そう思わない」の回答者数 × (1点)} ÷ (総回答者数 - 「6. 該当しない」の回答者数)

★問16については、以下の計算式で算出しています。

評点 = {「1. 思っている」の回答者数 × (5点) + 「2. あまり考えていない」の回答者数 × (1点) + 「3. わからない」 × (3点)の回答者数} ÷ 総回答者数

第1章 回答者の属性

(1) 性別 (問19 (1))

問19 (1) あなたの性別は、どちらですか。【○は1つ】

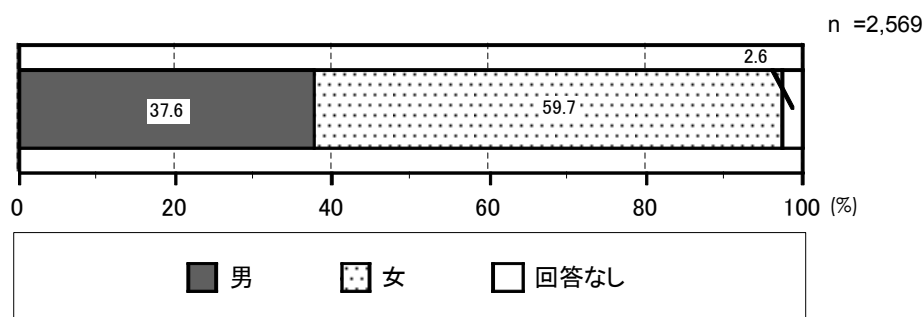
要点

女性が約6割、男性が4割弱となっており、女性からの回答が多くなっています。

全体

- 「男性」が37.6%、「女性」が59.7%と「女性」の割合の方が多くなっています(図1-1)。
- 調査時点における市内全体の男女の比率が、ほぼ同じ割合であるのに対して、今回の調査では「女性」の割合が「男性」の割合を22.1ポイント上回っています。

図1-1 性別



(2) 年齢 (問19 (2))

問19 (2) あなたの年齢は、次のうちどれですか。【○は1つ】

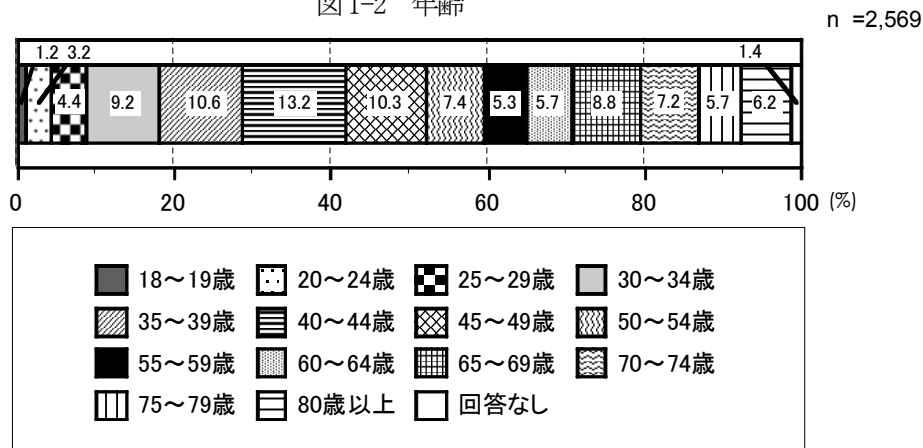
要点

「40～44歳」が13.2%と最も多い一方で、20歳代以下は、1割未満と少なくなっています。

全体

- 「40～44歳」が13.2%と最も多く、次いで「35～39歳」と「45～49歳」がそれぞれ、10.6%、10.3%となっている一方で、24歳代以下や「25～29歳」は、共に4.4%と少なくなっています(図1-2)。
- 高齢者層の回答が実際の長久手市の人口構成を上回っているものの、概ね長久手市の人口構成を反映するような結果になっています。

図1-2 年齢



(3) 職業 (問 19 (3))

問 19 (3) あなたの職業は、次のうちどれですか【○は1つ】

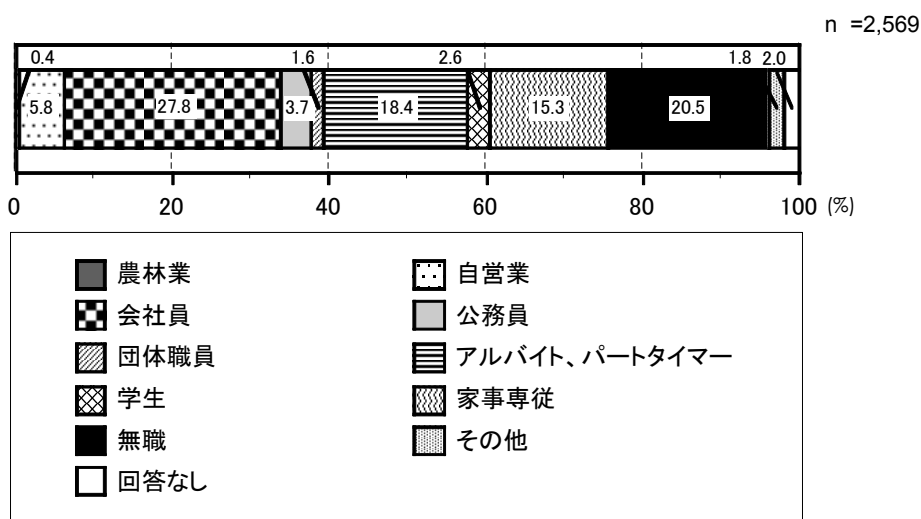
要点

「会社員」が27.8%と最も多いものの、「無職」(20.5%)、「家事専従」(15.3%)の2項目に「学生」(2.6%)を合わせた“非就業者”は全体の38.4%を占めています。

全体

- 「会社員」が27.8%と最も多く、「無職」(20.5%)、「アルバイト・パートタイマー」(18.4%)、「家事専従」(15.3%)と続いています。
- 「無職」(20.5%)、「家事専従」(15.3%)の2項目に「学生」(2.6%)を合わせた“非就業者”は全体の38.4%を占めています。
- 一方、上記の“非就業者”(38.4%)と「回答なし」(2.0%)、「その他」(1.8%)を除いた残りの6割近くの市民が、「自営業」や「アルバイト・パートタイマー」などを含めた“就業者”となっています。
- “就業者”の中でも、「アルバイト・パートタイマー」が全体の18.4%を占めていますが、「会社員」と「公務員」、「団体職員」を足し合わせた、いわゆる“サラリーマン”は全体の33.1%を占め、「アルバイト・パートタイマー」の割合を上回っています。また、「農林業」と「自営業」については、合わせても全体の6.2%となっています。

図 1-3 職業



(4) 年収 (問 19 (4))

問 19 (4) あなたの家庭全体の年収 (年金を含む。) はどのくらいですか。【○は 1 つ】

要点

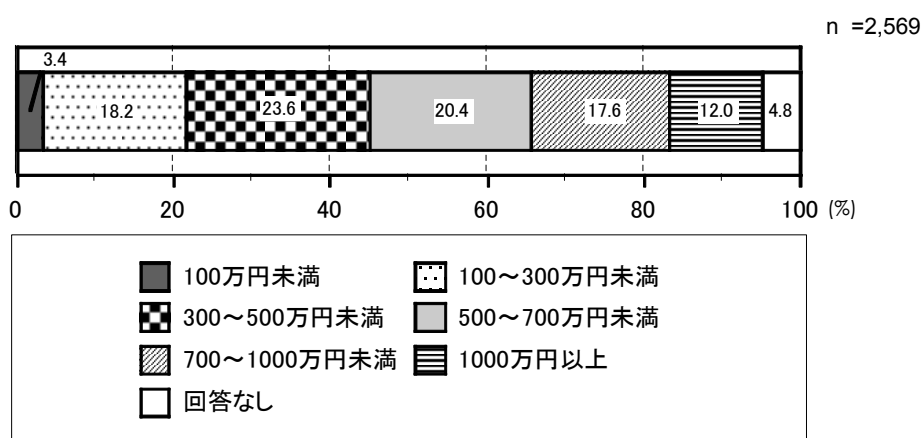
「300～500 万円未満」が 23.6%で最も多くなっていますが、年収 500 万円を境にそれ未満とそれ以上の年収の世帯は、ほぼ同じ割合になっています。

全体

○「300～500 万円未満」が 23.6%で最も多く、次いで「500～700 万円未満」が 20.4%となっており、500 万円を境にそれ未満とそれ以上の年収の世帯は、近い割合 (500 万円未満: 45.2%、500 万円以上: 50.0%) になっています。

○また、「1000 万円以上」という高額所得者が 1 割近くを占めています (図 1-4)。

図 1-4 年収



(5) 通勤先・通学先 (問 19 (5))

問 19 (5) あなたの通勤先・通学先は、次のうちどれですか。【○は1つ】

要点

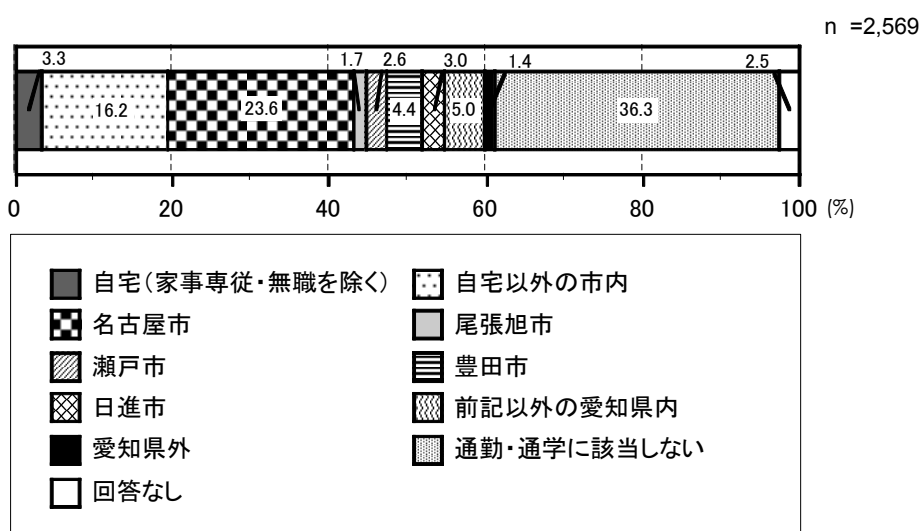
57.9%の市民は通勤・通学をしており、通勤先・通学先で最も多いのは、「名古屋市」で23.6%を占めています。「自宅」を含む市内に通勤・通学している市民は19.5%みられます。名古屋市を除く隣接自治体（尾張旭市、瀬戸市、豊田市、日進市）に通勤・通学している市民については、合わせて11.7%にとどまっています。

全体

○「通勤・通学に該当しない」が36.3%を占め、これと「回答なし」(2.5%)、「自宅（家事専従・無職を除く）」(3.3%)を除いた残りの57.9%の市民は通勤・通学をしており、通勤先・通学先で最も多いのは、「名古屋市」で23.6%を占めています。

○次いで、「自宅以外の市内」が16.2%となっており、名古屋市を除く隣接自治体（尾張旭市、瀬戸市、豊田市、日進市）に通勤・通学している市民については、合わせて11.7%にとどまっています（図1-5）。

図1-5 通勤先・通学先



(6) 住まい (問 19 (6))

問 19 (6) あなたの住まいは、次のうちどれですか。【○は1つ】

要点

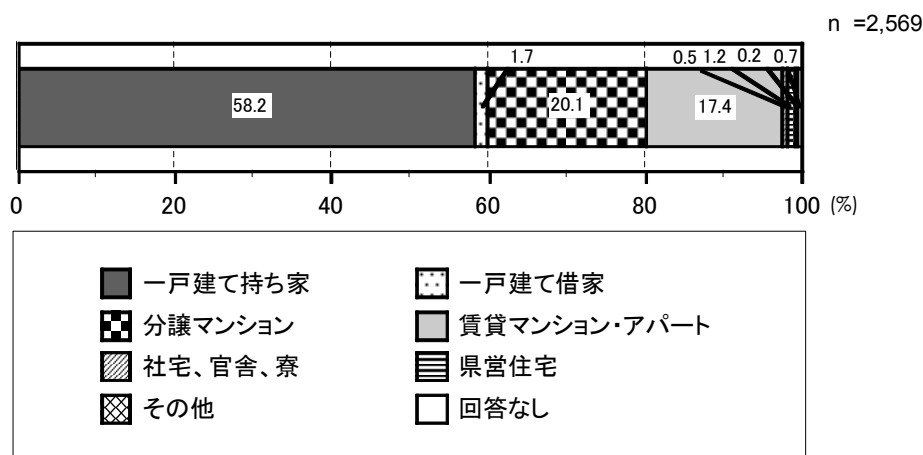
約8割の市民が持ち家（「一戸建て持ち家」(58.2%)や「分譲マンション」(20.1%)）に居住しています。

全体

○回答者の住まいは、「一戸建て持ち家」が58.2%、次いで「分譲マンション」が20.1%となっており、約8割の市民が持ち家に居住しています。

○借家の中では、「賃貸マンション・アパート」が17.4%となっています。

図 1-6 住まい



(7) 配偶者の有無 (問 19 (7))

問 19 (7) あなたには配偶者がいますか。【○は1つ】

要点

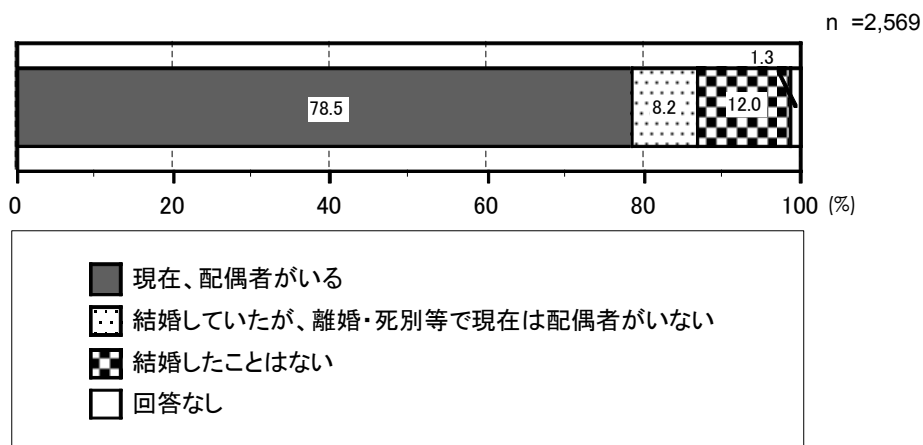
結婚経験のある市民は86.7%、結婚経験のない市民は12.0%になっています。

全体

○回答者の配偶者は、「現在、配偶者がいる」が78.5%となっており、「結婚していたが、離婚・死別等で現在は配偶者がいない」(8.2%)と合わせると、結婚経験のある市民は86.7%に達しています。

○一方、結婚経験のない市民は12.0%にとどまっています (図 1-7)。

図 1-7 配偶者



(8) 家族形態 (問 19 (8))

問 19 (8) あなたの家族の形態は、次のうちどれですか。【〇は1つ】

要点

「二世世代家族」が56.9%と最も多く、次いで「夫婦だけ」が25.9%と続いています。

全体

○回答者の家族の形態は、「二世世代家族」が56.9%と最も多く、次いで「夫婦だけ」が25.9%と続いています。

○「三世世代家族」(5.5%)と「単身世帯」(8.4%)は共に1割未満となっています(図1-8-1)。

○「夫婦だけ(=高齢夫婦+一般夫婦)」の世帯(24.6%)のうち半数以上が「高齢夫婦世帯」(13.7%)であり、また、「単身世帯(高齢単身世帯+一般単身世帯)」(8.1%)のうち3割以上が「高齢単身世帯」(2.8%)となっています(図1-8-2)。

図1-8-1 家族の形態

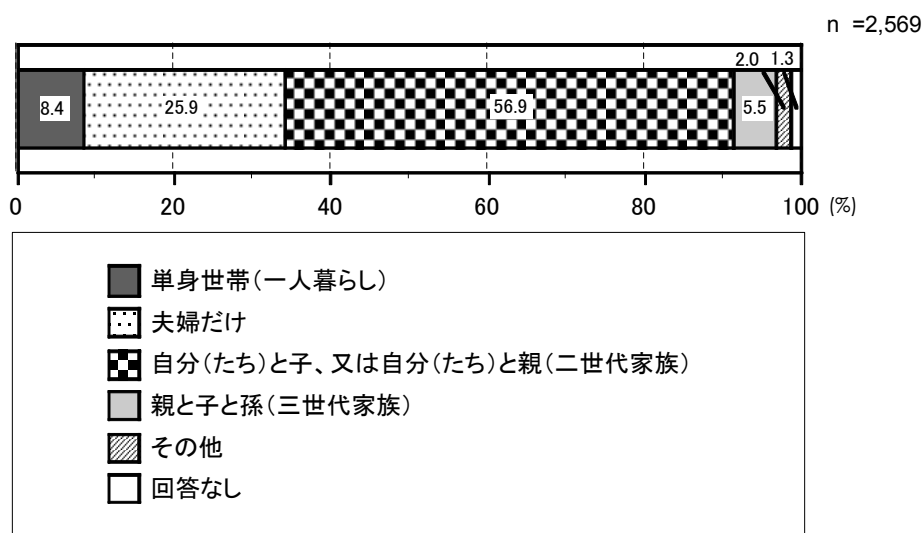
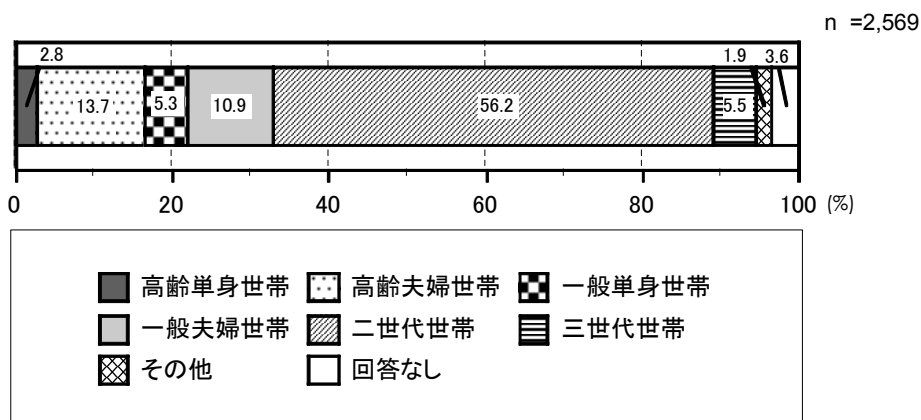


図1-8-2 家族の形態 (データ加工したもの)



(9) 同居の家族 (問 19 (9))

問 19 (9) あなたの同居のご家族には、次のいずれかにあてはまる方がいますか。あなたご自身を含めて、あてはまる人をすべて選んでください。

要点

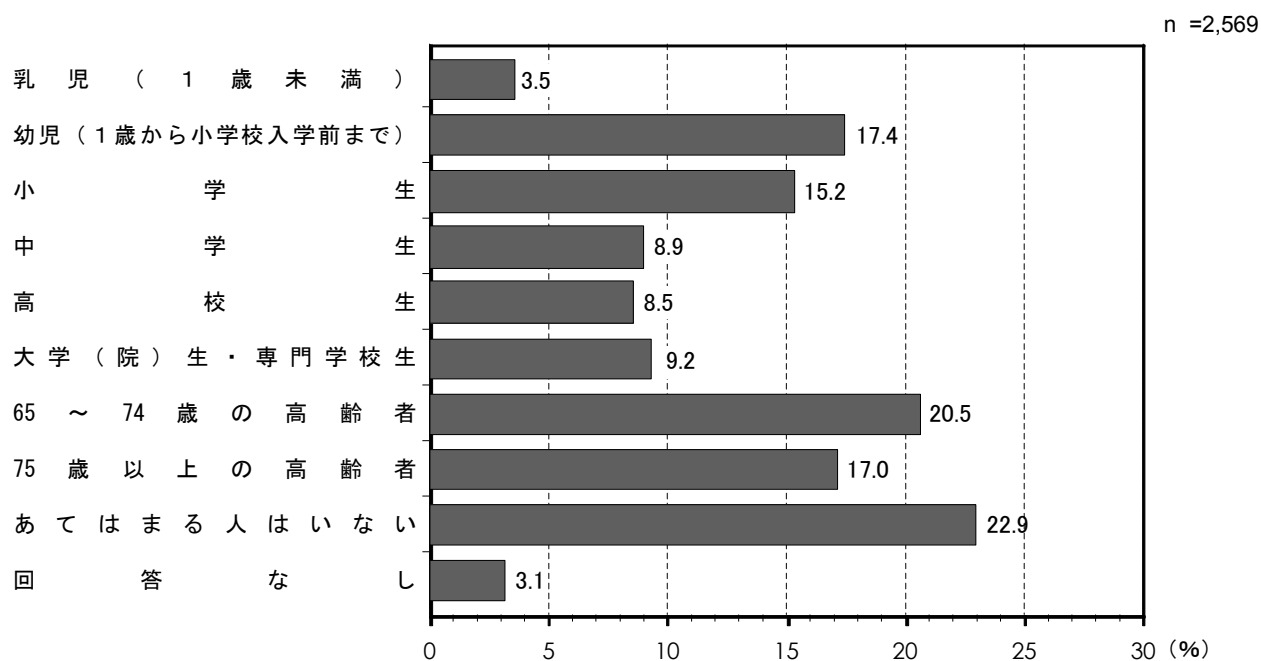
子どもや学生、65 歳以上の高齢者などの同居の家族がいる世帯が 74.0%となっており、そのうち、「65～74 歳の高齢者」(20.5%) がいる世帯や「幼児 (1 歳から小学校入学前まで)」(17.4%) がいる世帯、「75 歳以上の高齢者」(17.0%) がいる世帯が多くなっています。

全体

○「あてはまる人はいない」(22.9%) と「回答なし」(3.1%) を除く残りの 74.0%は、子どもや学生、65 歳以上の高齢者がいる世帯となっています。

○「65～74 歳の高齢者」(20.5%) がいる世帯が最も多く、次いで、「幼児」(17.4%)、「75 歳以上の高齢者」(17.0%)、小学生 (15.2%) と続いています (図 1-9)。

図 1-9 同居の家族



(10) 小学校区 (問 19 (10))

問 19 (10) あなたの小学校区はどこですか。【○は1つ】

要点

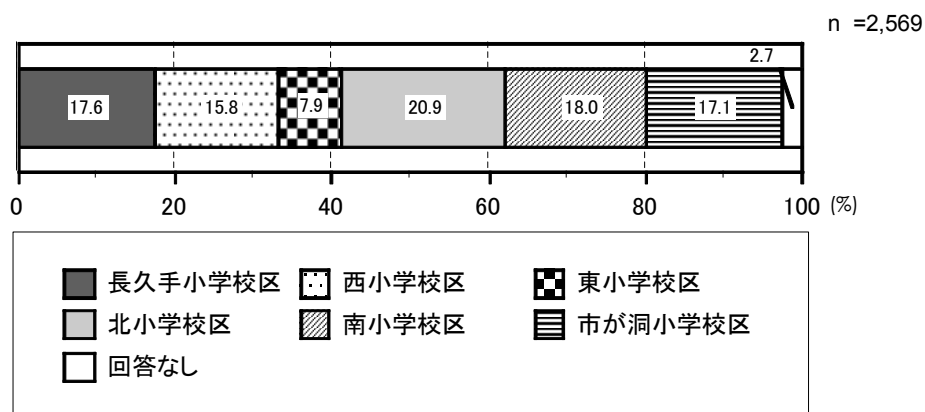
居住地区については、「北小学校区」が 20.9%と最も多く、次いで、「南小学校区」(18.0%)が多くなっています。実際の学校区別の人口の割合とは多少のずれがみられます。

全体

○居住地区については、「北小学校区」が 20.9%と最も多く、次いで、「南小学校区」(18.0%)、「長久手小学校区」(17.6%)、「市が洞小学校区」(17.1%)と続いています(図 1-10)。

○実際に人口が最も多い小学校区(平成 28 年 4 月時点)は、「北小学校区」で、次いで、「市が洞小学校区」、「南小学校区」、「長久手小学校区」、「西小学校区」、「東小学校区」と続いていることから、実際の学区別の世帯数の割合とは多少のずれがみられます。

図 1-10 小学校区



(11) 居住歴 (問 19 (11))

問 11 あなたは、長久手市に居住して何年になりますか。【○は1つ】

要点

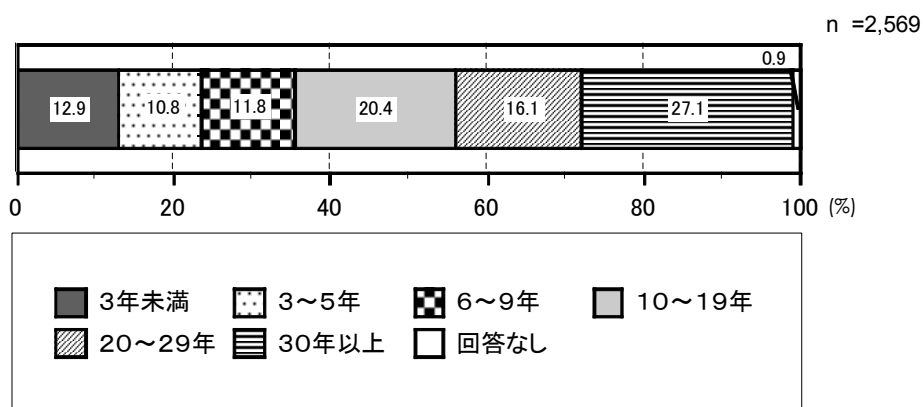
居住年数「30 年以上」が 27.1%と最も多いものの、居住年数が5年以下の市民も 23.7%を占めており、人口増加が続いている本市の特徴を表わしています。

全体

○居住年数「30 年以上」が 27.1%と最も多く、次いで「10～19 年」が 20.4%と続いています。

○居住年数が20年以上の市民が全体の43.2%を占めているものの、居住年数が10年未満についても35.5%を占めています。また、居住年数が5年以下の市民も 23.7%を占めており、人口増加が続いている本市の特徴を表わしています (図 1-11)。

図 1-11 居住歴



第2章 幸せ感について

(1) 幸せ感の点数とその点数を選んだ理由 (問1)

問1 あなたは現在幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。あてはまる数字(点数)を選んでください。【〇は1つ】

① 幸せの点数

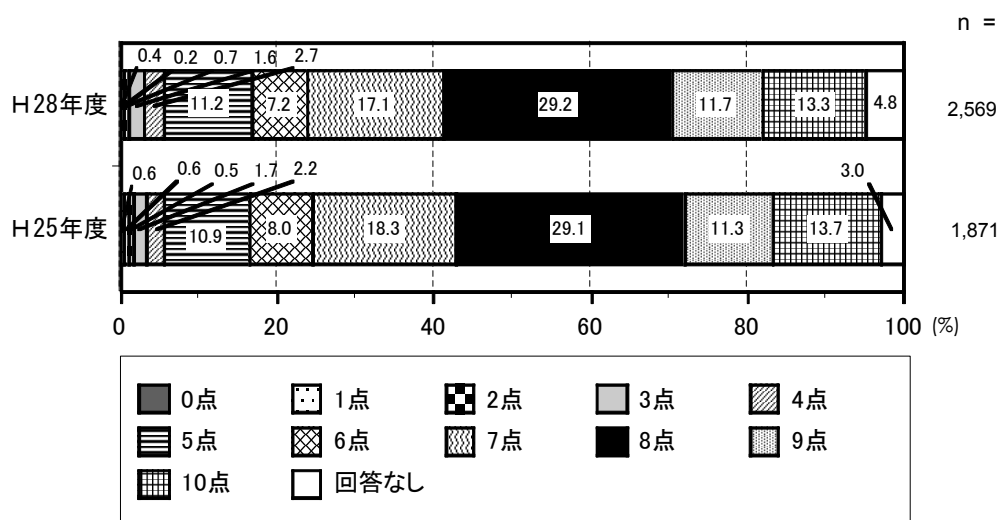
要点

幸せ感の点数は、「8点」が29.2%と最も多く、次いで「7点」(17.1%)、「10点」(13.3%)と続いており、全体平均の点数は、7.44点となっています。性別では、男性よりも女性の方が、年齢では、30歳代の点数がそれぞれ高くなっています。全般的に平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません。

全体

- 0点～10点の11段階で現在の幸せ感をたずねたところ、「8点」が29.2%と最も多く、次いで「7点」(17.1%)、「10点」(13.3%)と続いています(図2-1-1)。
- 全体平均は、7.44点です(図2-1-2)。
- 6点以上が全体の8割弱、7点以上が7割以上を占めており、本市における回答者の幸せ感の高い水準にあるといえます。
- 幸せ感が4点以下という市民は5.6%みられます。また、0点という市民もわずかとはいえ0.4%みられます。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図2-1-1)。

図2-1-1 幸せ感の点数 (前回比較)

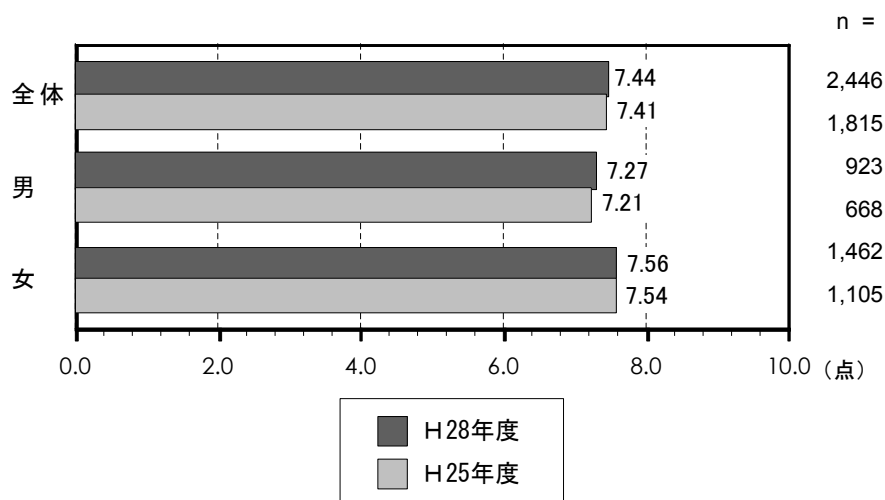


性別

○性別でみると、女性の方が男性よりも幸せ感の点数が若干高くなっていますが、全国的に見ても同様の傾向です。

○また、男女ともに平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-1-2）。

図2-1-2 性別 「幸せ感の点数」（前回比較）

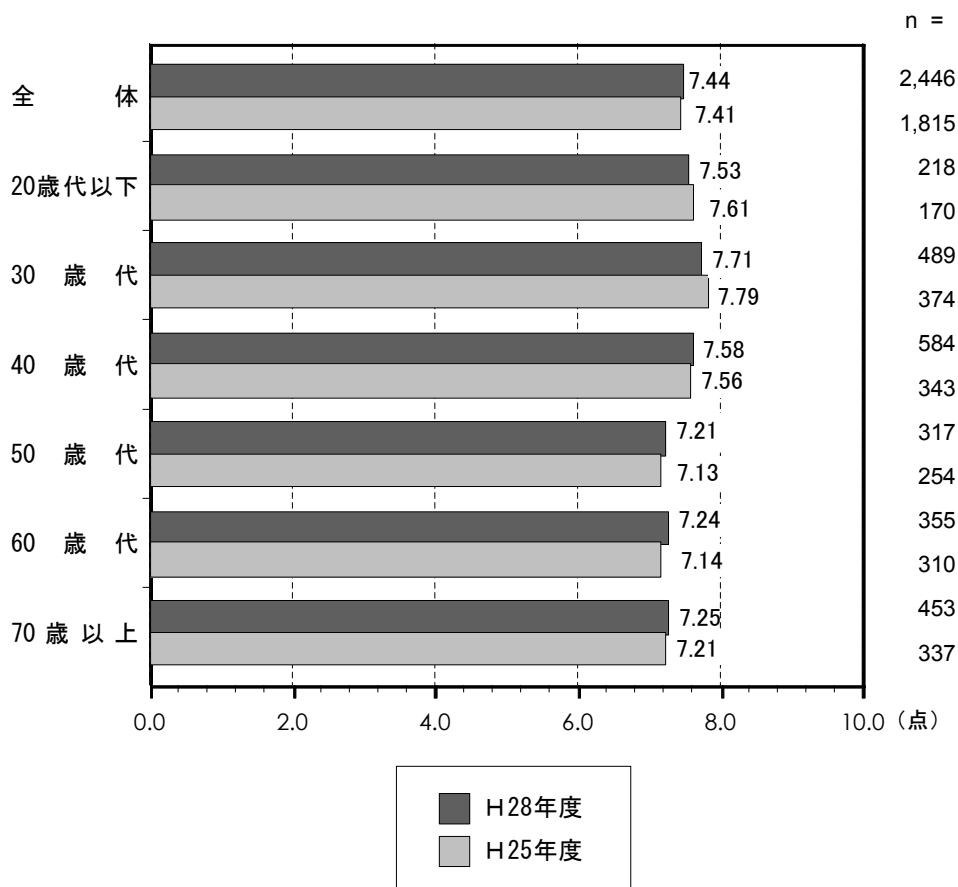


年齢別

○年齢別でみると、30歳代の幸せ感が7.71点と、全体よりも0.27点上回っています。その一方で、50歳代以上の幸せ感の点数は、全体よりも若干低くなっています。

○どの年齢層においても、平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-1-3）。

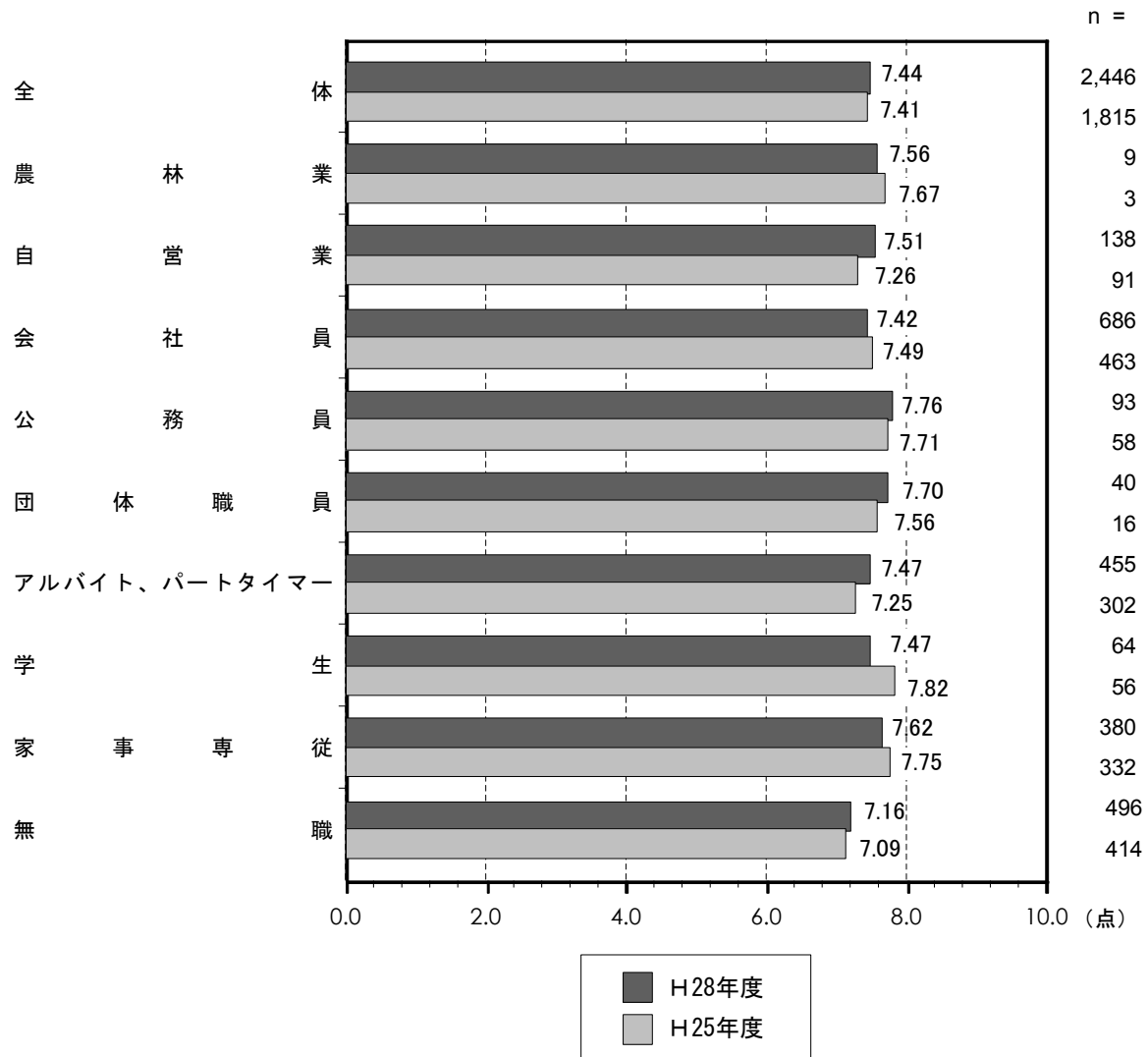
図2-1-3 年齢別 「幸せ感の点数」（前回比較）



○職業別でみると、「公務員」(7.76 点)をはじめ、「団体職員」(7.70 点)や「家事専従者」(7.62 点)の幸せ感が全体値と比べて若干高くなっている一方で、「無職」(7.16 点)の幸せ感が若干低くなっています。

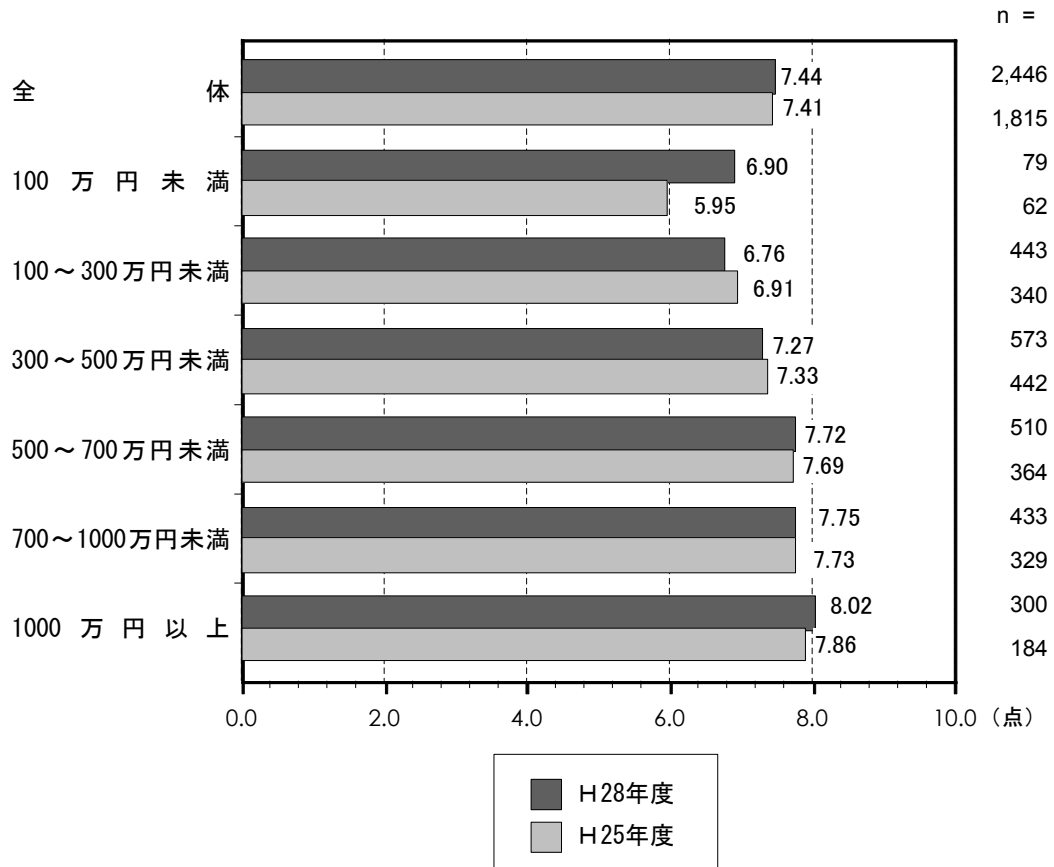
○平成25年度調査結果と比べて僅かな変化がみられる程度でほとんど差異はみられません(図2-1-4)。

図2-1-4 職業別 「幸せ感の点数」(前回比較)



- 家庭の年収別にみると、「100万円未満」と「100～300万円未満」で逆転現象がみられるものの、年収が高いほど、幸せ感の点数が高くなる正比例の傾向がみられます。ただし、年収が500万円を超えると幸せ感の変化は小さくなる傾向があります。
- 平成25年度調査結果に比べて、「100万円未満」の市民については幸せ感が0.95点上がっていることが特徴としてみられます（図2-1-5）。

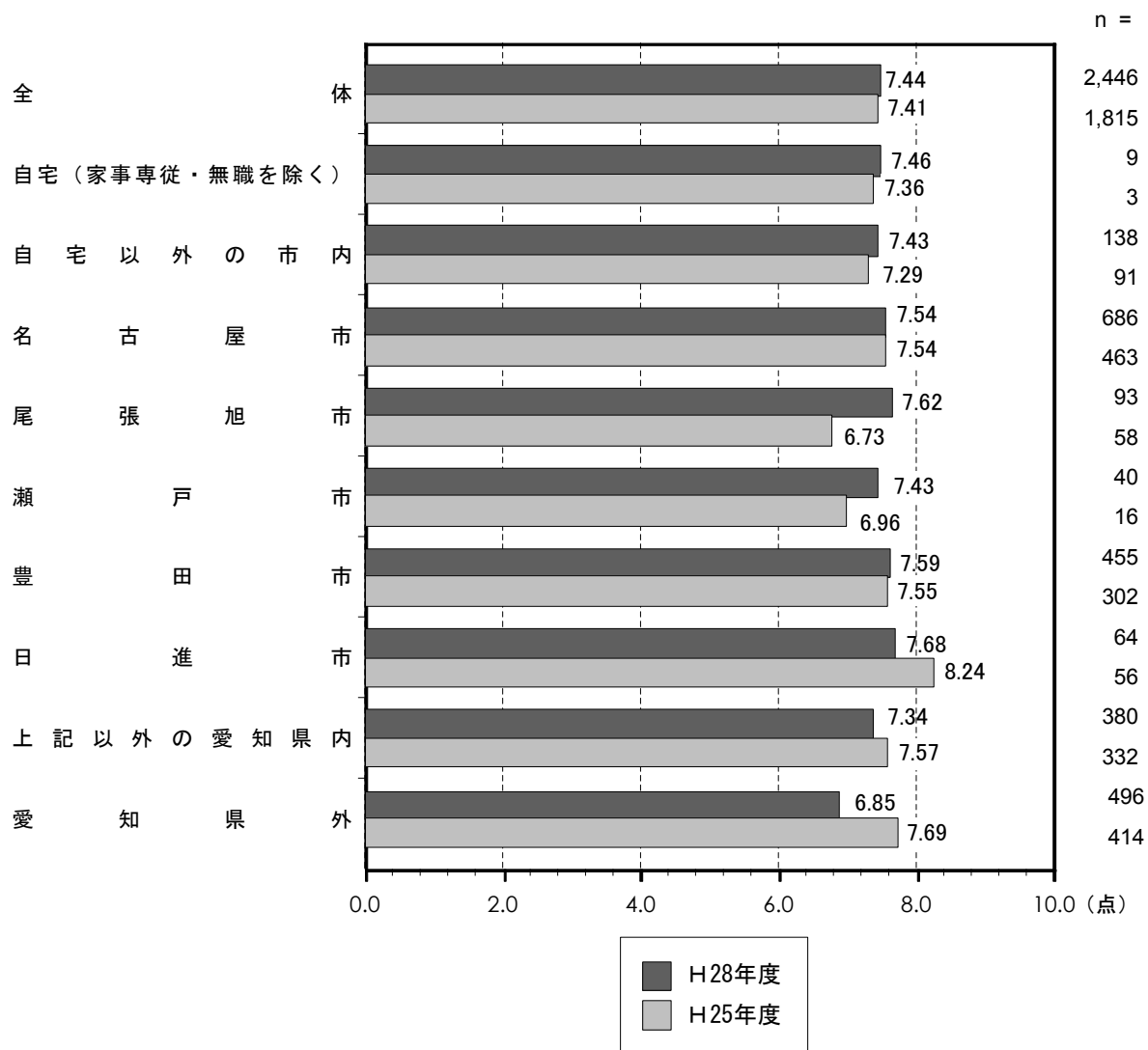
図2-1-5 家庭の収入別 「幸せ感の点数」（前回比較）



○通勤・通学先別にみると、愛知県外に通勤・通学している市民の幸せ感が全体よりも低くなっています。また、平成25年度調査結果に比べて、幸せ感が0.84点低下しています（図2-1-6）。

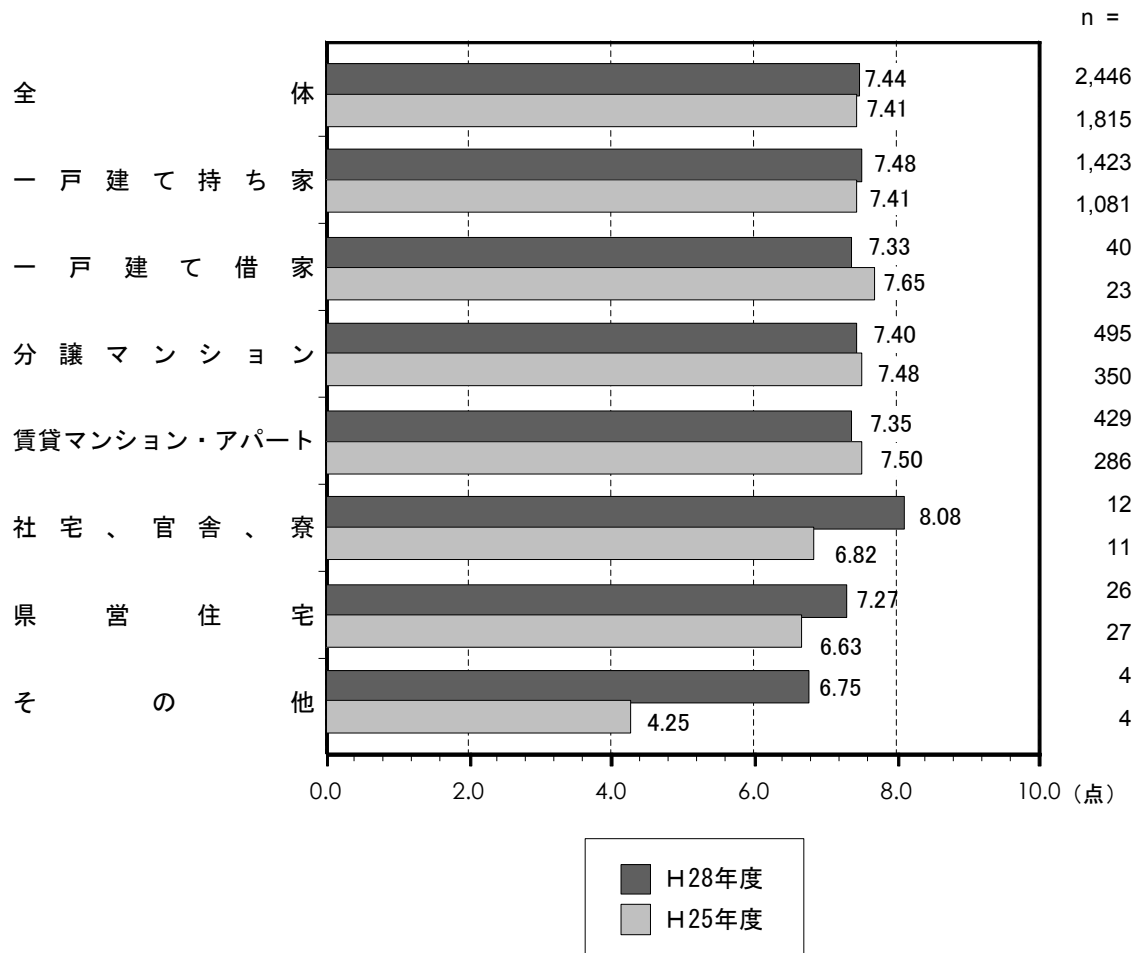
○なお、尾張旭市や瀬戸市に通勤・通学している市民の幸せ感が平成25年度よりも上昇し、逆に日進市に通勤・通学している市民の幸せ感が低下していますが、いずれもサンプル数があまり多くないことから有意な差があるとまではいえないと思われます。

図2-1-6 通勤・通学先別 「幸せ感の点数」 （前回比較）



- 住まいのタイプによって幸せ感に多少の差異があるものの、有意な差があるまでとはいえない結果です。
- また、平成25年度調査結果に比べて、「社宅・官舎・寮」や「その他」の幸せ感が上昇していますが、いずれもサンプル数が少ないため、有意な差があるまでとはいえないと思われます（図2-1-7）。

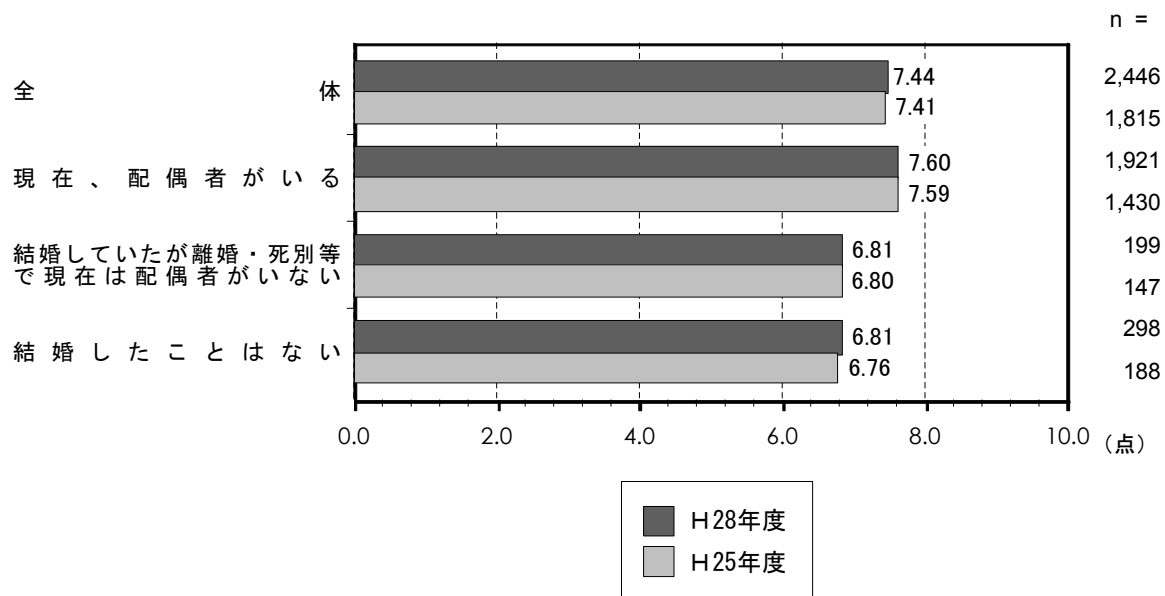
図2-1-7 住まいのタイプ別 「幸せ感の点数」（前回比較）



○配偶者の有無別でみると、「現在、配偶者がいる」市民の幸せ感（7.60）は、全体より若干高くなっている。一方で、「結婚していたが離婚・死別等で現在は配偶者がいない」市民の幸せ感（6.81点）や「結婚したことはない」市民の幸せ感（6.81点）は、全体よりも低くなっており、配偶者の存在は幸せ感の重要な要素の一つであると考えられます。

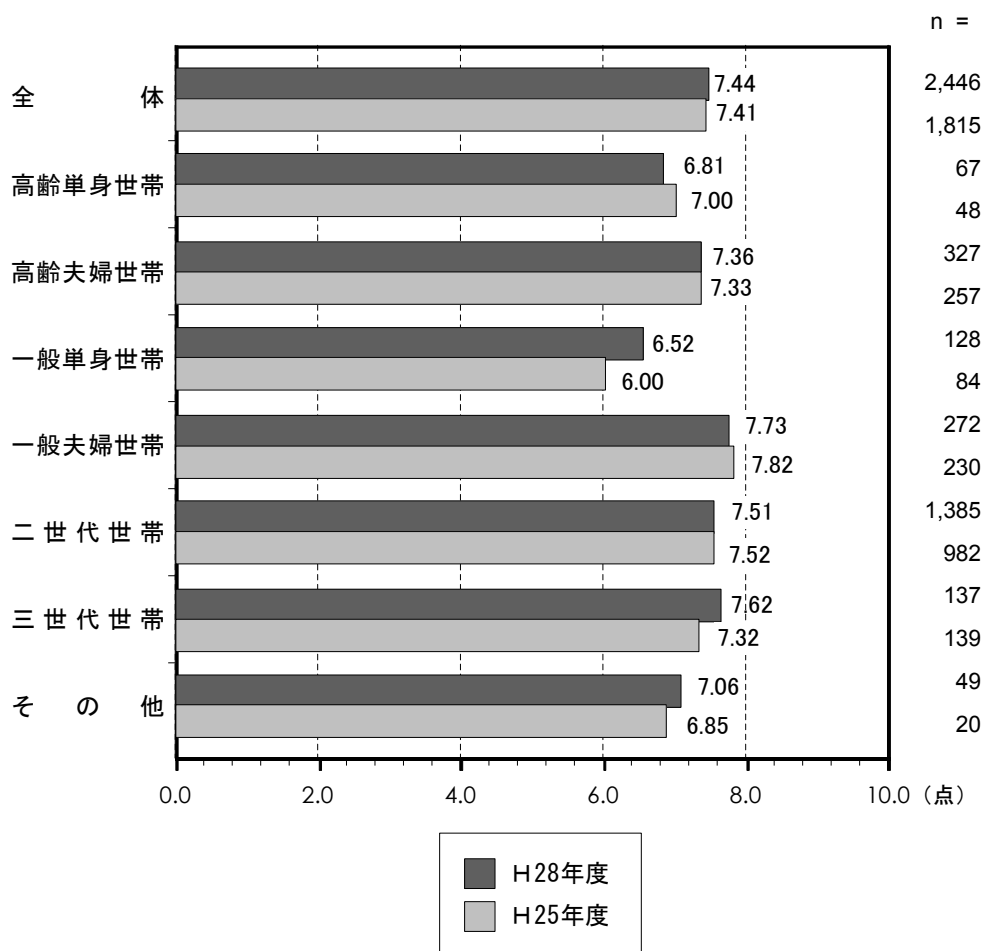
○なお、平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-1-8）。

図2-1-8 配偶者の有無別 「幸せ感の点数」（前回比較）



- 家族の形態別でみると、「一般夫婦世帯」(7.73)、「二世世代家族」(7.51)の幸せ感は全体より高く、「一般単身世帯」(6.52点)及び「高齢単身者」(6.81点)の幸せ感は全体よりも低くなっています。
- 家族の存在が幸せ感の重要な要素の一つであると考えられます。
- なお、平成25年度調査結果と比べると、一般単身世帯の幸せ感が0.52点上昇しているほか、ほとんど変化がみられません(図2-1-9)。

図2-1-9 家族の形態別 「幸せ感の点数」(前回比較)



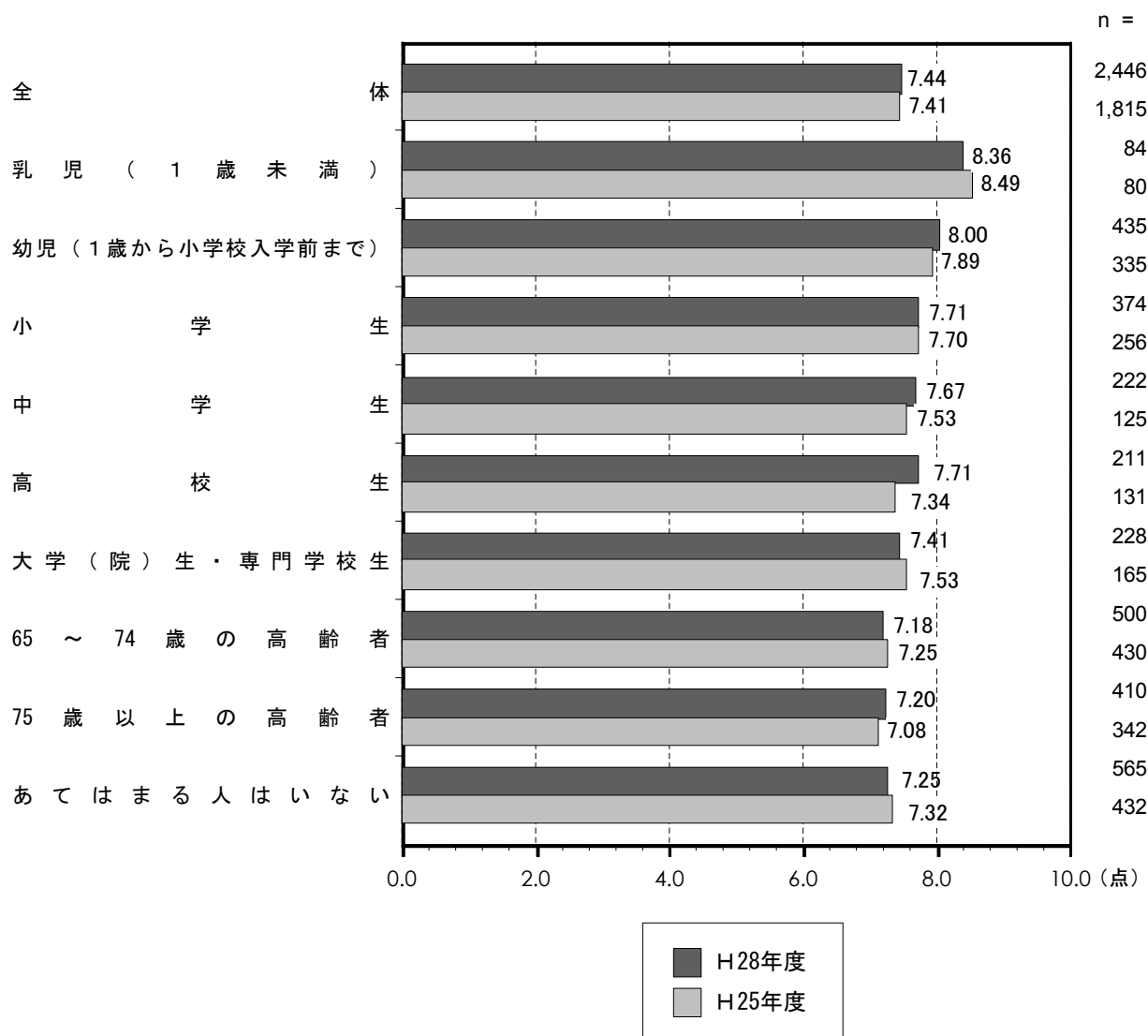
○同居家族の有無別（子どもや学生、65歳以上の高齢者との同居の有無別）でみると、「乳児」（8.36点）や「幼児」（8.00点）、「小学生」（7.71点）といった小さな子どもと同居している市民は幸せ感が高くなっています。

○子育て世代である30歳代の幸せ感が高かったこと（図2-1-3）や（図2-1-10）の結果から、家庭内における小さな子どもの存在が幸せ感の重要な要素の一つであると考えられます。

○一方、「65～74歳の高齢者」（7.18点）や「75歳以上の高齢者」（7.20点）と同居している市民は幸せ感が全体よりも若干低くなっています。

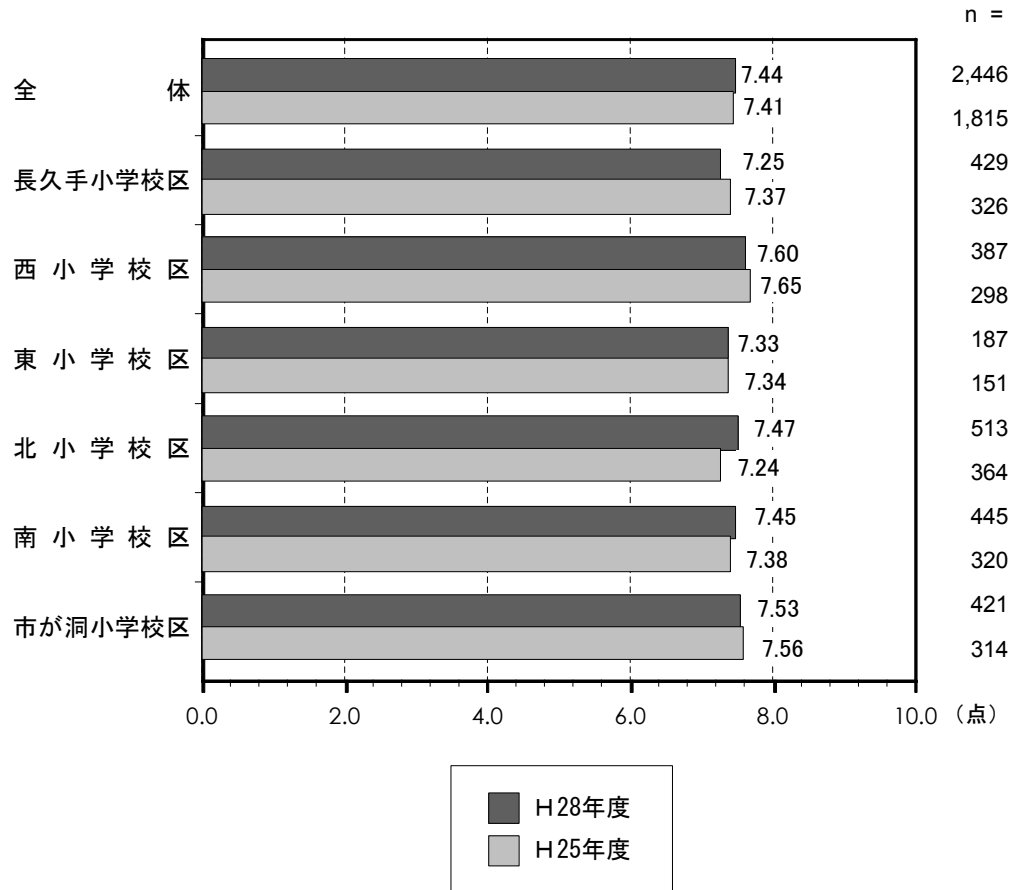
○なお、平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-1-10）。

図2-1-10 同居家族別 「幸せ感の点数」（前回比較）



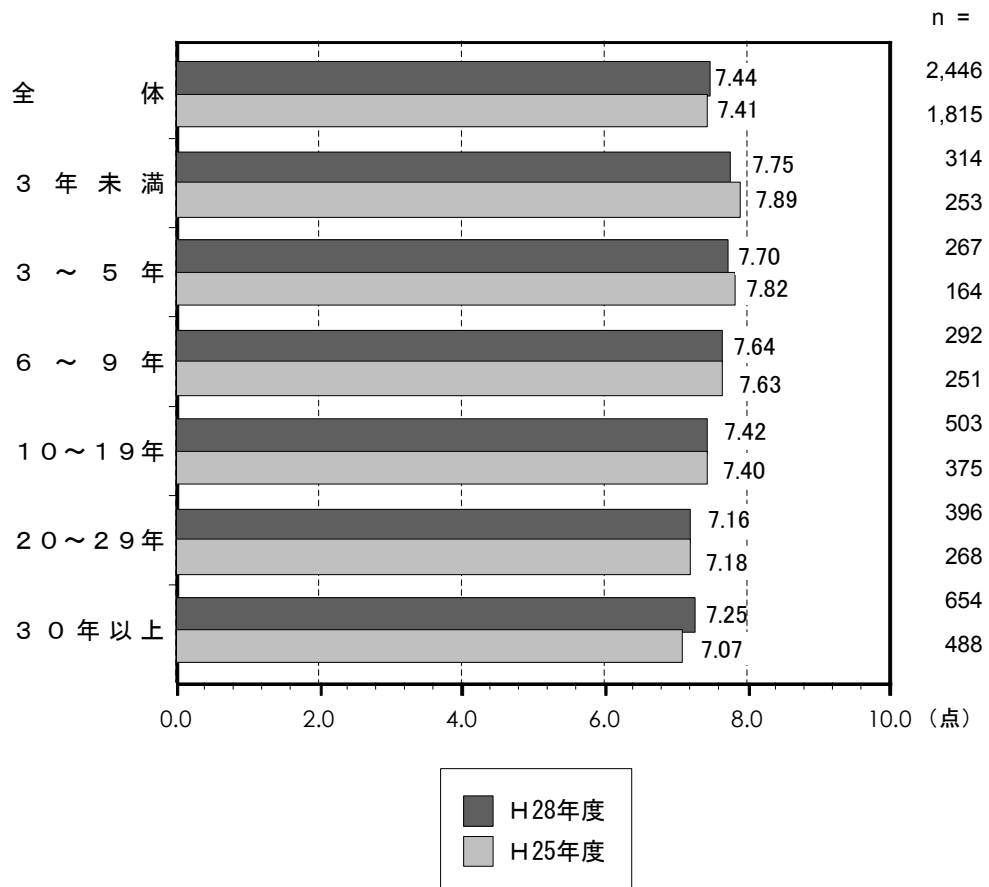
- 小学校区別でみると、「西小学校区」(7.60点)と「市が洞小学校区」(7.53点)の幸せ感が全体より若干高くなっていますが、大きな差はみられません。
- また、平成25年度調査と比べてほとんど変化はみられません(図2-1-11)。

図2-1-11 小学校区別 「幸せ感の点数」(前回比較)



- 居住年数別でみると、居住年数が短いほど幸せ感の点数が順次高くなる傾向がみられます。また、居住年数10年を境に、それ以上になると全体よりも低くなっています。
- なお、平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-1-12）。

図2-1-12 居住年数別 「幸せ感の点数」（前回比較）



②幸せの点数を選んだ理由

要点

幸せ感の点数を選んだ理由は、「健康」にすることが33.6%と最も多く、次いで、「家族」にすることが(23.5%)、「生活全般(衣食住や生活時間)」にすることが(15.9%)「住環境・生活インフラ、行政サービス」にすることが(14.9%)と続いています。

全体

- 幸せ感の点数を選んだ理由は、「健康」(33.6%)、「家族」(23.5%)が他の項目に比べて多くなっています。
- 一方、「友人関係」(1.8%)や「地域コミュニティや近所との関係」(3.0%)など、家族以外の人間関係を理由にした割合は少なくなっています。
- 幸せ感の点数を選んだ理由の大部分は、まちのことや行政サービスなど、市政によってある程度対応できるような領域にはおさまっていないことがうかがえます。
- 平成25年度調査結果と比べて大半の理由がポイントダウンしている一方で、「生活全般(衣食住や生活時間)」は11.5ポイントも上昇したことが特徴としてみられます(図2-1-13)。

点数別

- 幸せ感の点数別でみると、幸せ感の点数が高い市民ほど「健康」にすることを理由としてあげている割合が多くなる傾向がみられます。また、割合は低いものの、「趣味・娯楽・社会貢献など」でも同様の傾向がみられます。
- 一方、「家計」にすることは、幸せ感の低い市民ほど理由としてあげる割合が多くなる傾向がみられます(図2-1-14)。

図 2-1-13 幸せ感の点数を選んだ理由（前回比較）

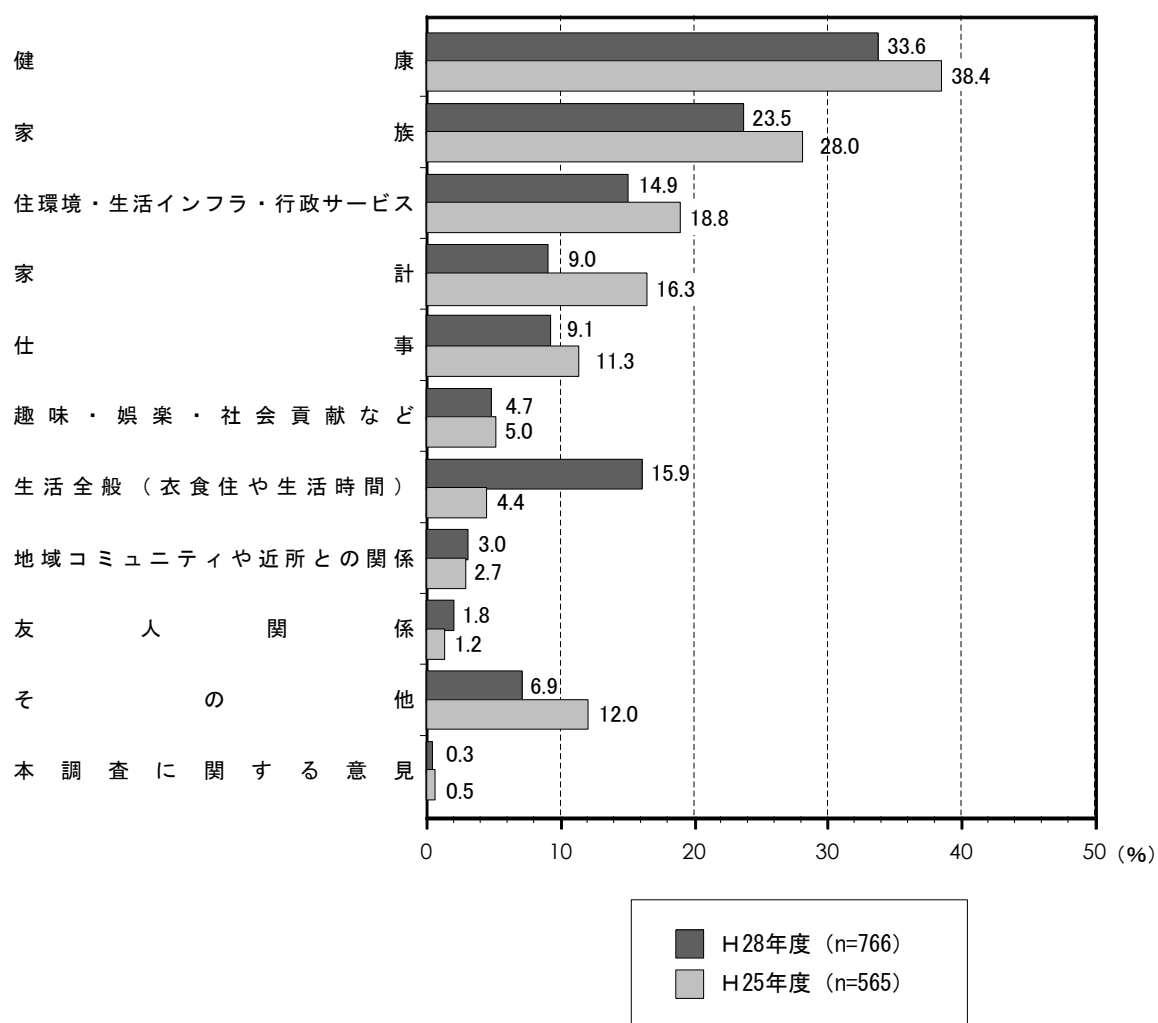
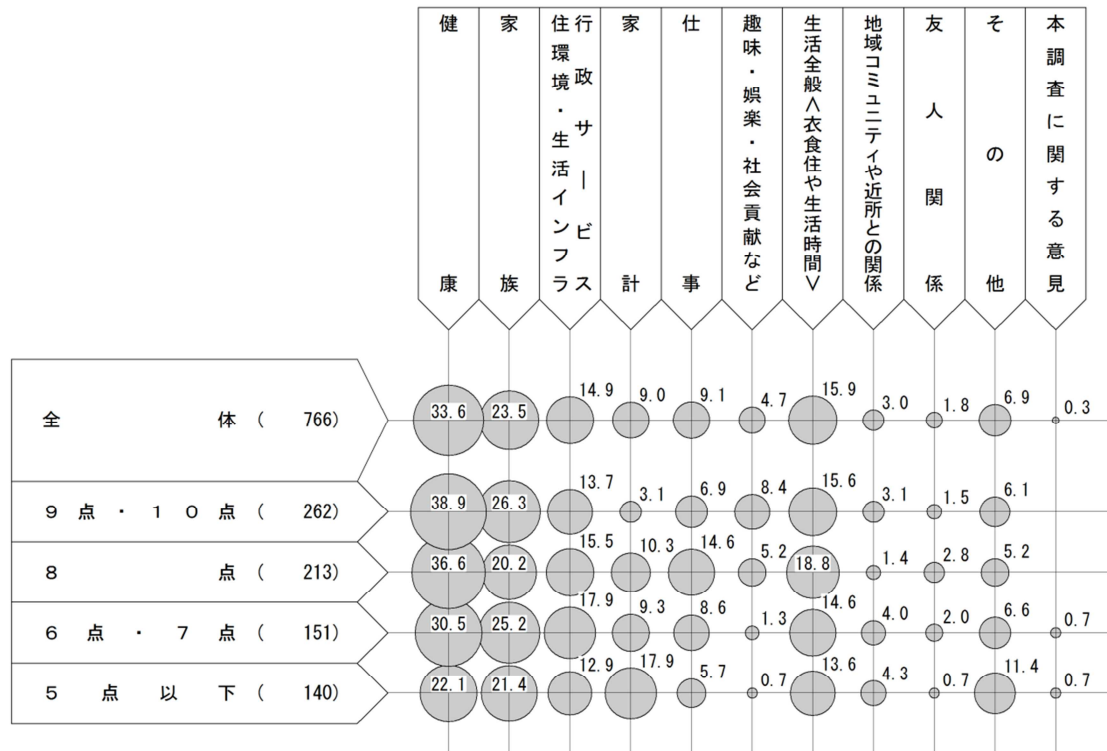


図 2-1-14 幸せ感の点数別「幸せ感の点数を選んだ理由」



③現在の幸せ感の点数と各質問項目との相関

要点

「生活全般」や「家族関係」、「家計の状況」、「就業状況」、「仕事と生活のバランス」、「仕事や趣味、社会貢献などの生きがい」といった生活の満足度や「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」が、幸せ感の点数とやや強い相関がみられます。

全体

- 幸せ感の点数と各質問項目との相関係数を算出することによって相関関係をみたところ、「かなり強い相関がある」という質問項目はありませんでしたが、「やや強い相関がある」や「弱い相関がある」という質問項目はかなり多くあります。
- 具体的には、「生活の満足度について」では、「生活全般」をはじめ、「家族関係」、「家計の状況」、「就業状況」、「仕事と生活のバランス」、「仕事や趣味、社会貢献などの生きがい」の6項目が、幸せ感の点数とやや強い相関関係がみられます。つまり、これらの項目の満足度が高いほど、幸せ感の点数が高くなる傾向があると言えます。
- また、「長久手の住み心地」（「住みよいまちだと思うか」、「愛着を感じているか」、「今後も住み続けたいか」の3項目）と幸せ感の点数との間にも弱い相関がみられ、住み心地がよいと感じている市民ほど幸せ感の点数が高くなる傾向が一定程度みられると言えます。
- 「生活実感」のうち、「①健康分野」については、6項目中4項目において相関がみられます。中でも「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」とはやや強い相関がみられます。つまり、笑顔の日常生活ができていると感じている市民ほど幸せ感が高い傾向があると言えます。
- 「②子育て・教育分野」のうち、「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」を除く5項目が幸せ感と弱い相関がみられます。
- 「③自然やごみなどの環境分野」では、「自然環境」と「公園や野外の遊び場」、「まち並み」の3項目が幸せ感と弱い相関がみられます。
- 「④地域のつながり分野」についても、『たつせ』があるか」と、お住まいの地域に困った時に頼りになる知人や友人が「お住いの地域にいる」や「市内にいる」の3項目が幸せ感の点数と弱い相関がみられます。
- 「⑤防災・防犯分野」では「治安がよく、安心して暮らせるか」の1項目、「⑥福祉分野」では「現在（あるいは将来の）、自分または家族の介護に対して不安を感じるか」の1項目、「⑧生活インフラ分野」では「買い物や通院に便利か」と「出かける際の移動が便利か」、「就業しやすい環境にあると思うか」の3項目が、それぞれ、幸せ感の点数と弱い相関がみられます。
- 一方、「⑦文化・生涯学習分野」と「まちづくりにおける地域の役割」については、幸せ感の点数とほとんど相関はみられません。

表 2-1-1 あなたの幸せ感の点数と各設問との相関分析

凡 例	
$ r = 0.7$ 以上～1 以下	かなり強い相関がある
$ r = 0.4$ 以上～0.7 未満	やや強い相関がある
$ r = 0.2$ 以上～0.4 未満	弱い相関がある
$ r = 0$ 以上～0.2 未満	ほとんど相関がない

生活の満足度について	
問 3 (1) 家計の状況	0.4304
(2) 就業状況	0.4252
(3) 健康状況	0.3949
(4) 自由な時間、充実した余暇	0.3319
(5) 仕事や趣味、社会貢献などの生きがい	0.4193
(6) 家族関係	0.5196
(7) 友人関係	0.3458
(8) 職場の人間関係	0.3708
(9) 地域コミュニティや近所との関係	0.3036
(10) 仕事と生活のバランス	0.4206
(11) 生活全般	0.6283
長久手の住み心地について	
問 4 住みよいまちだと思うか	0.3354
問 5 愛着を感じているか	0.3072
問 6 今後も住み続けたいか	0.2428
暮らしやお住いの地域(生活実感)について	
①健康分野	
問 8 (1)健康的な暮らしができていると思うか	0.1687
(2)気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境があるか	0.1743
(3)健康的な食生活ができていると思うか	0.3075
(4)ストレスを発散する場や機会、精神的なやすらぎの場はあるか	0.3884
(5)日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか	0.5526
(6)病院やクリニックが充実していると思うか	0.2508
②子育て・教育分野	
問 9 (1)安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか	0.3198
(2)地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思うか	0.2975
(3)子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか	0.1996
(4)子育てや子どもの教育などについて相談できる人、相談できる場所があるか	0.2725
(5)①家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーション子どもとのコミュニケーションは十分取れていると思うか	0.3396
(5)②お住まいの地域の子どもとあなたとのコミュニケーション	0.2271
③自然やごみなどの環境分野	
問 10 (1)豊かな自然環境があると思うか	0.2036
(2)公園や屋外の遊び場があるか	0.2160
(3)まち並みはきれいだと思うか	0.2702
(4)ごみ・資源の分別がされていると思うか	0.1983
(5)日頃から環境に配慮した生活をしているか	0.1414

④地域のつながり分野		
問 11	(1)-①スタッフとして	0.1101
	-②お客・来場者として	0.1846
	(2)-①あいさつ	0.1912
	-②近所づきあい	0.1679
	-③近所づきあいや地域とのつながり	0.1979
	(3)自宅以外の居場所があるか	0.1802
	(4)「たつせ」があるか	0.2576
	(5)-①お住まいの地域	0.2143
	-②市内	0.2343
	-③市外	0.1900
	(6)国籍や文化の異なる人々にとっても住みやすいと思うか	0.1776
⑤防災・防犯分野		
問 12	(1)災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか	0.1226
	(2)災害に対する自主的な備えをしているか	0.1609
	(3)災害時の避難所と避難方法を知っているか	0.1495
	(4)治安が良く、安心して暮らせるか	0.2047
	(5)安全安心を守る取組が行われているか	0.1725
⑥福祉分野		
問 13	(1)地域で困った人への助け合いはできていると思うか	0.1787
	(2)市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか	0.0564
	(3)高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人など、まちで困っている人がいるとき、手助けをすることができると思うか	0.1886
	(4)現在(あるいは将来の)、自分または家族の介護に対して不安を感じるか	0.2524
	(5)-①高齢者にとって暮らしやすい	0.1875
	-②障がいのある人にとって暮らしやすい	0.1747
⑦文化・生涯学習分野		
問 14	(1)長久手の歴史や伝統文化に関心があるか	0.1403
	(2)長久手市は芸術文化に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思うか	0.1646
	(3)長久手市はあなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会に恵まれていると思うか	0.1976
	(4)お住まいの地域には、自慢したい地域の「宝」があるか	0.1623
	(4)-1「宝」の詳細記入	0.0574
⑧生活インフラ分野		
問 15	(1)買い物や通院に便利か	0.2509
	(2)出かける際の移動が便利か	0.2220
	(3)出かける際の移動の安全が確保されていると思うか	0.1986
	(4)就業しやすい環境にあると思うか	0.2207
	(5)インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか	0.1825
⑨まちづくりにおける地域の役割		
問 16	何か社会のために役立ちたいと思っているか	0.1540
問 17	課題解決のために地域のコミュニティが中心に進めていく事が重要になると思うか	0.1857
問 18	コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか	0.1338

(2) 大事だと思う分野（問2）

問2 次の8つの分野の中からあなたにとって「特に大事だと思う分野」を3つまで選んでその番号を回答欄に記入してください。なお、「特に大事だと思う分野はない」という場合には、左端の欄に「9」を記入してください。

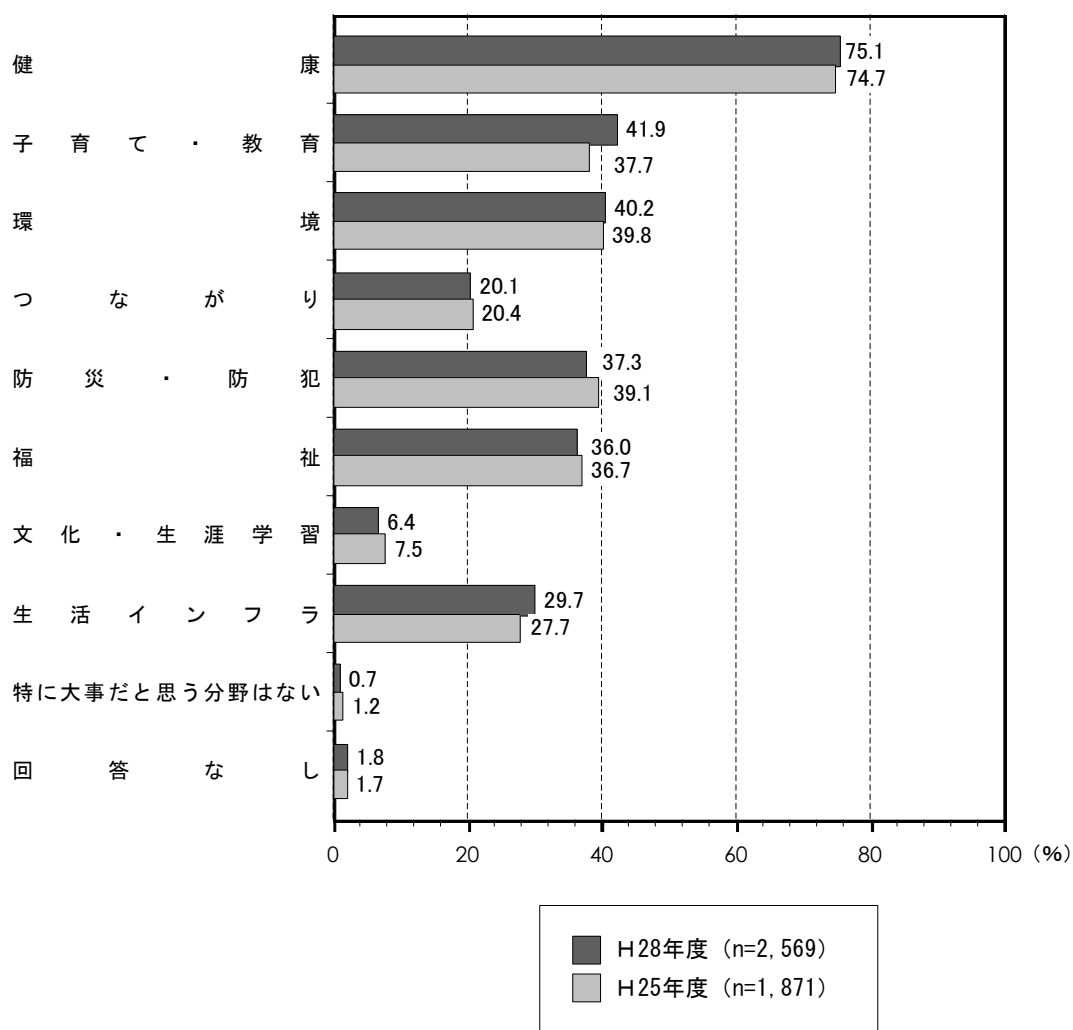
要点

大事だと思う分野は、「健康」が75.1%と多くなっていますが、「文化・生涯学習」(6.4%)が少なくなっています。

全体

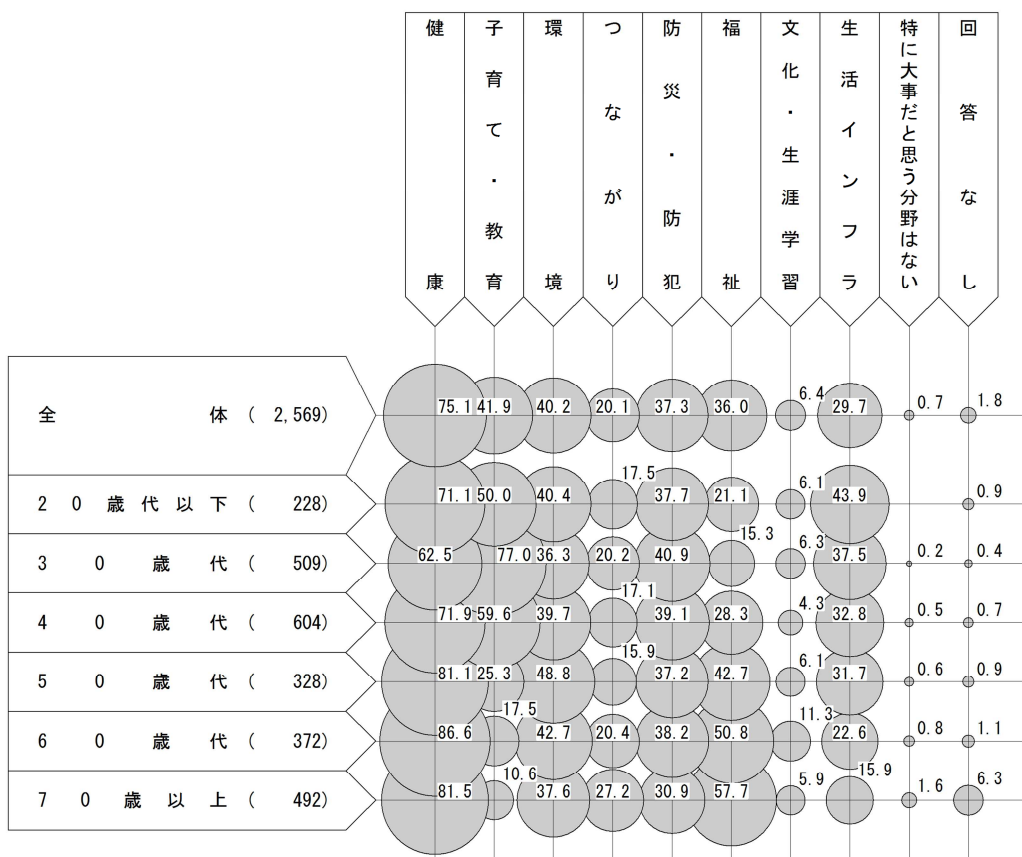
- 大事だと思う分野は、「健康」が75.1%と多くなっています。
- 一方、「文化・生涯学習」(6.4%)が少なくなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-2-1）。

図2-2-1 大事だと思う分野（前回比較）



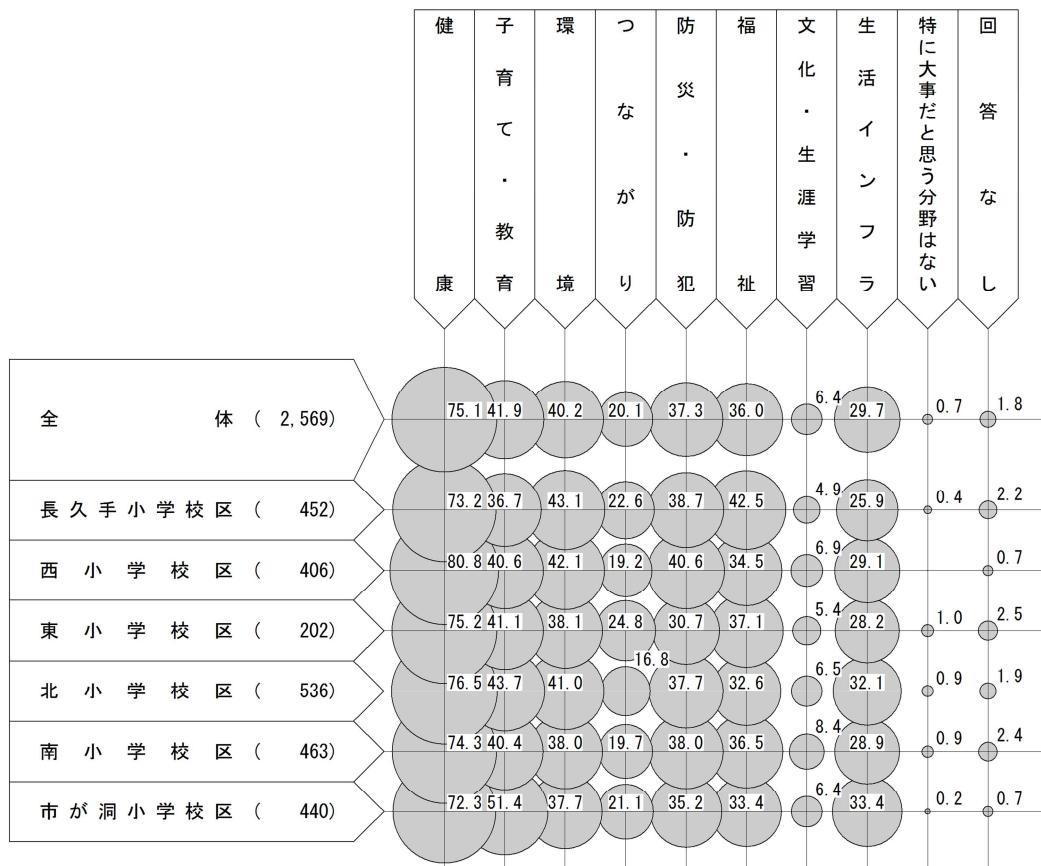
- 年齢別にみると、「健康」は50歳以上の年齢層で若干多くなっている一方で、30歳代における割合が少なくなっています。
- 「福祉」についても、若年層では少なく、50歳代以上の中高年層割合が多い傾向がみられ、特に70歳代では57.7%となっています。
- 上記の2項目に対して、「子育て・教育」については、年齢が若い市民ほど割合が多くなっています。特に30歳代（77.0%）をはじめ、40歳代（59.6%）や20歳代以下（50.0%）といったいわゆる子育て世代において割合が多くなっています。
- また、「生活インフラ」についても若い世代になるほど大事だと思う割合が多くなる傾向が顕著にみられ、20歳代以下では43.9%となっています。さらに、「防災・防犯」についてもどちらかといえば、比較的若い市民の方が大事だと思う割合が多くなっています（図2-2-2）。

図2-2-2 年齢別 「大事だと思う分野」



- 小学校区別でみると、「健康」については、西小学校区（80.8％）で大事だと思う割合が若干多くなっています。
- 「子育て・教育」については、新興住宅地で若い世代が多い市が洞小学校区（51.4％）で全体と比べて多くなっています。
- 「福祉」については、長久手小学校区（42.5％）で全体と比べて若干多くなっています（図2-2-3）。

図2-2-3 小学校区別 「大事だと思う分野」



(3) 生活の満足度 (問3)

問3 あなたは、次の (1) から (11) までの項目についてどの程度満足していますか。(1) から (11) までの項目それぞれについて、1～5の中から1つずつ選んでください。

※(2)、(8)、(10)については、あなたの就業状況や就業形態によって回答が難しい場合は、「6. 該当しない」に○をつけてください。

要点

いずれの項目においても評点が3.00以上あり、特に「家族関係」(3.87)や「友人関係」(3.83)、「健康状況」(3.64)の満足度が高い一方で、「地域コミュニティや近所との関係」(3.28)や「仕事と生活とのバランス」(3.33)、「家計の状況」(3.37)などの満足度はこれらの項目に比べて低くなっています。

※()内の数字は、前述(P.2)の算出方法による評点(平均点)です。評点が3.00は「どちらともいえない」という状態を示すものです。

全体

○11項目にわたる生活の満足度についてたずねたところ、まずは、最後の項目の「生活全般」については、「満足している」が10.8%、「どちらかといえば満足している」が52.5%となっており、これらを合わせた満足と感じている市民の割合(以下“満足という評価”)は63.3%を占めています。

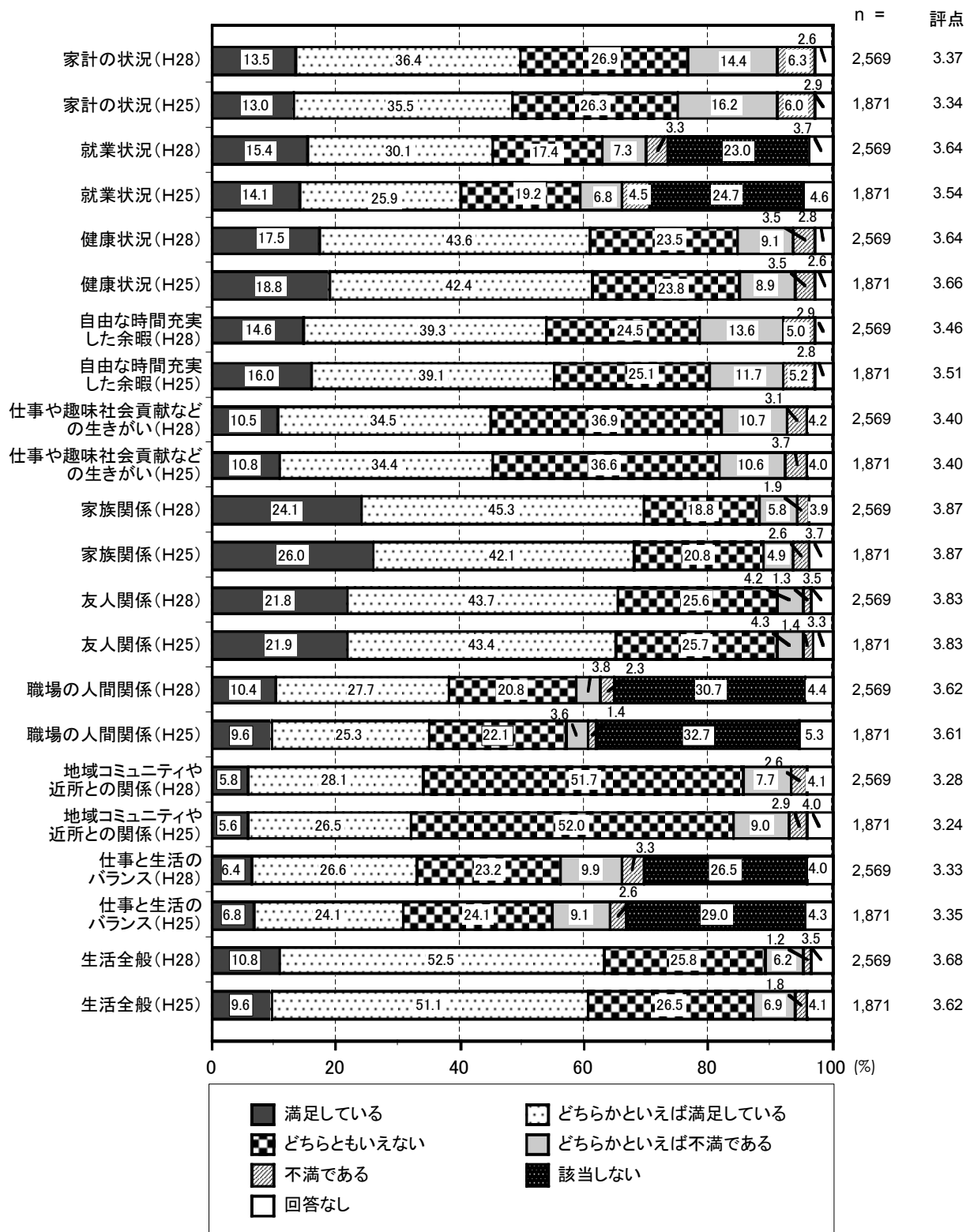
○一方、「どちらかといえば不満である」が6.2%、「不満である」が1.2%となっており、これらを合わせた不満と感じている市民の割合は7.4%にとどまっており、その結果、“満足という評価”をした市民と“不満という評価”とした市民が同数である場合の評点である3.00を大きく上回る3.68になっています。

○各項目の満足度をみると、“満足という評価”の割合が最も多いのは「家族関係」(69.4%、3.87)で、次いで、「友人関係」(65.5%、3.83)、「健康状況」(61.1%、3.64)と続いています。

○評点については、いずれの項目についても3.00を超えているものの、「地域コミュニティや近所との関係」(3.28)をはじめ、「仕事と生活とのバランス」(3.33)や「家計の状況」(3.37)、「仕事や趣味、社会貢献などの生きがい」(3.40)の満足度については、「家族関係」や「友人関係」などと比べると低くなっています。

○平成25年度調査結果と比べると、「就業状況」については0.10ポイント上昇していますが、全般的には大きな変化はみられません(図2-3-1)。

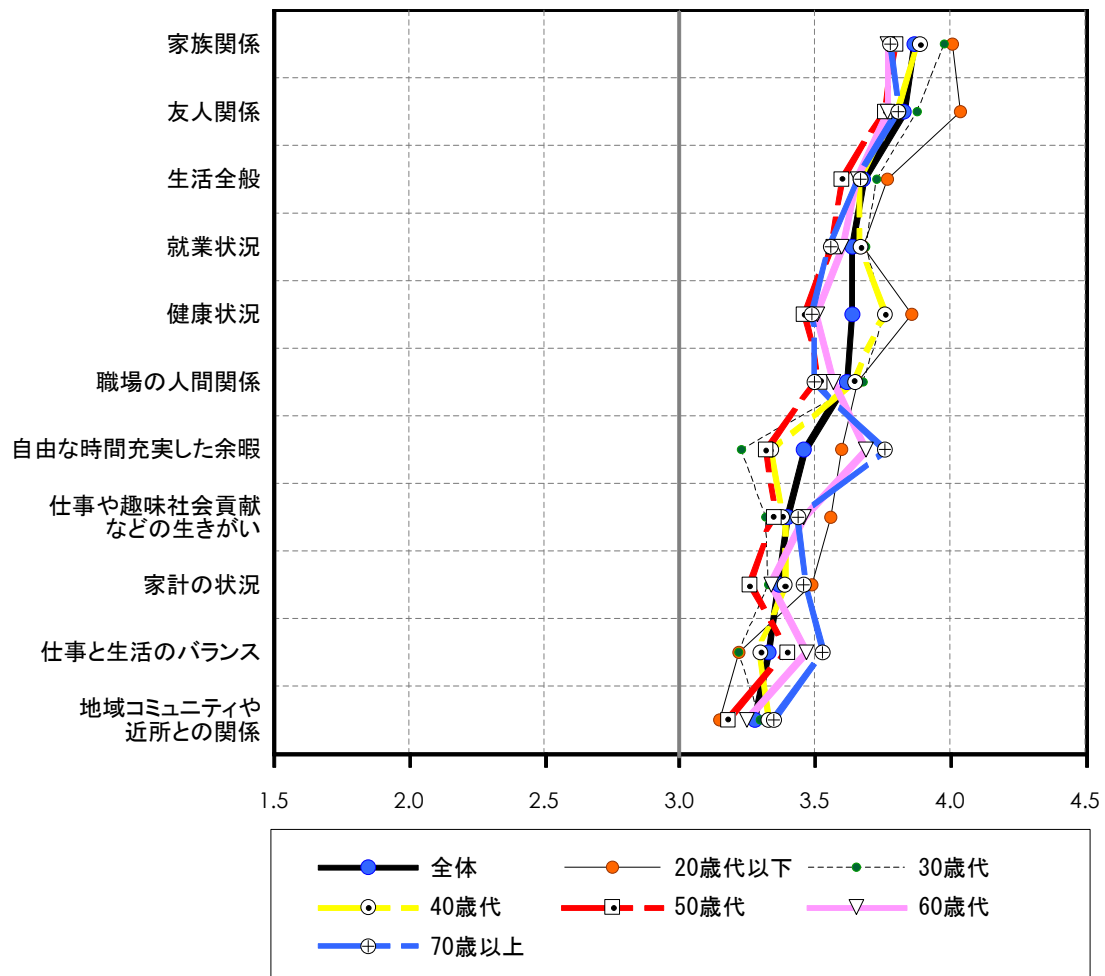
図2-3-1 生活の満足度（前回比較）



○年齢別にみると、「友人関係」や「健康状況」などについては、20 歳代以下における満足度が最も高くなっていることが特徴としてみられます。「健康状況」については、40 歳代も比較的高くなっていますが、そのほかの年代は全体値を下回っています。

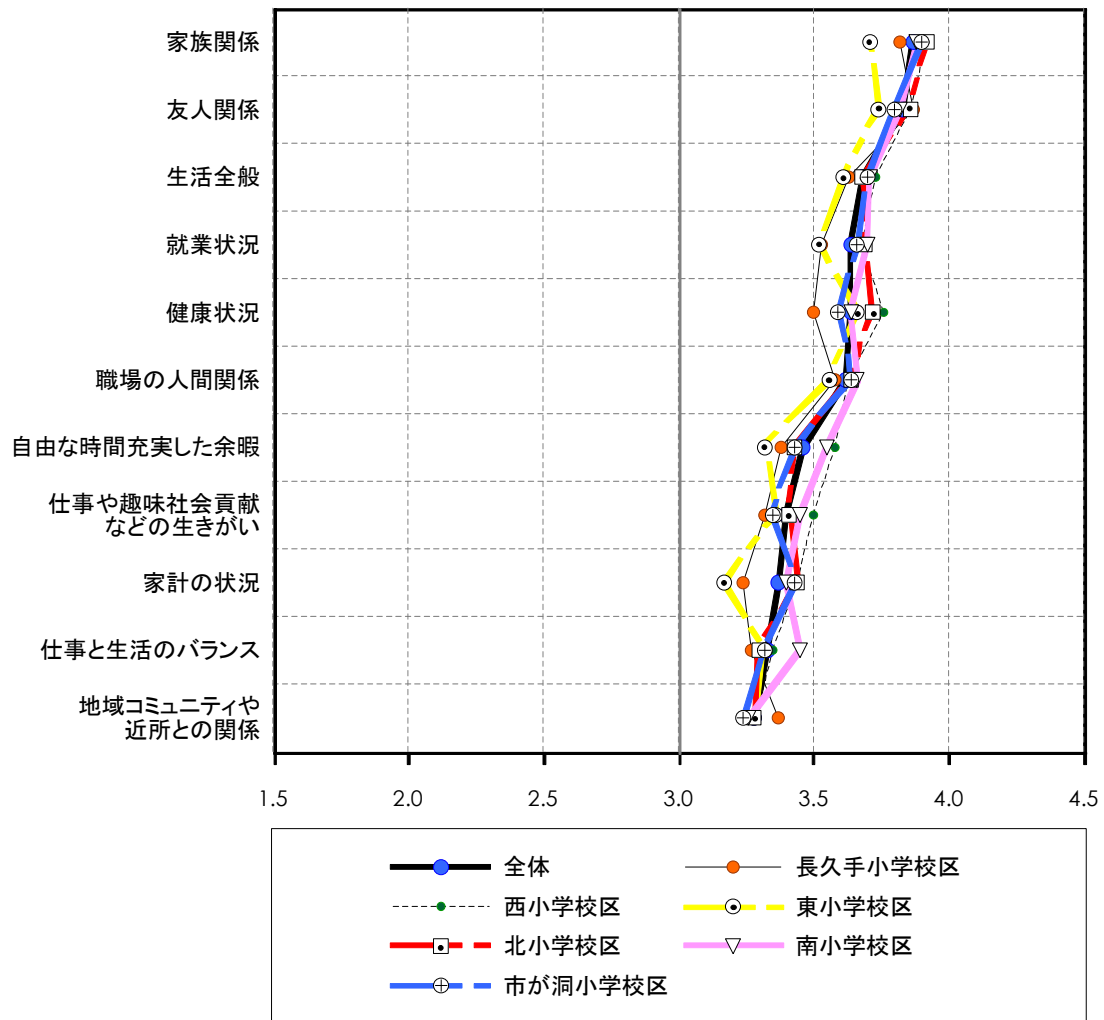
○一方、「自由な時間充実した余暇」は働き盛りである 30 歳代～50 歳代での評点が低くなっています（図 2-3-2）。

図 2-3-2 年齢別 「満足度（評点）」



○小学校区別にみると、「家計の状況」が東小学校区や長久手小学校区における評点が若干低くなっているものの、全体的に大きな差は見受けられません（図2-3-3）。

図2-3-3 小学校区別 「満足度（評点）」



第3章 住み心地について

(1) 住みよいまちだと思うか（前回比較）（問4）

問4 長久手を住みよいまちだと思いますか。次の中から選んでください。【〇は1つ】

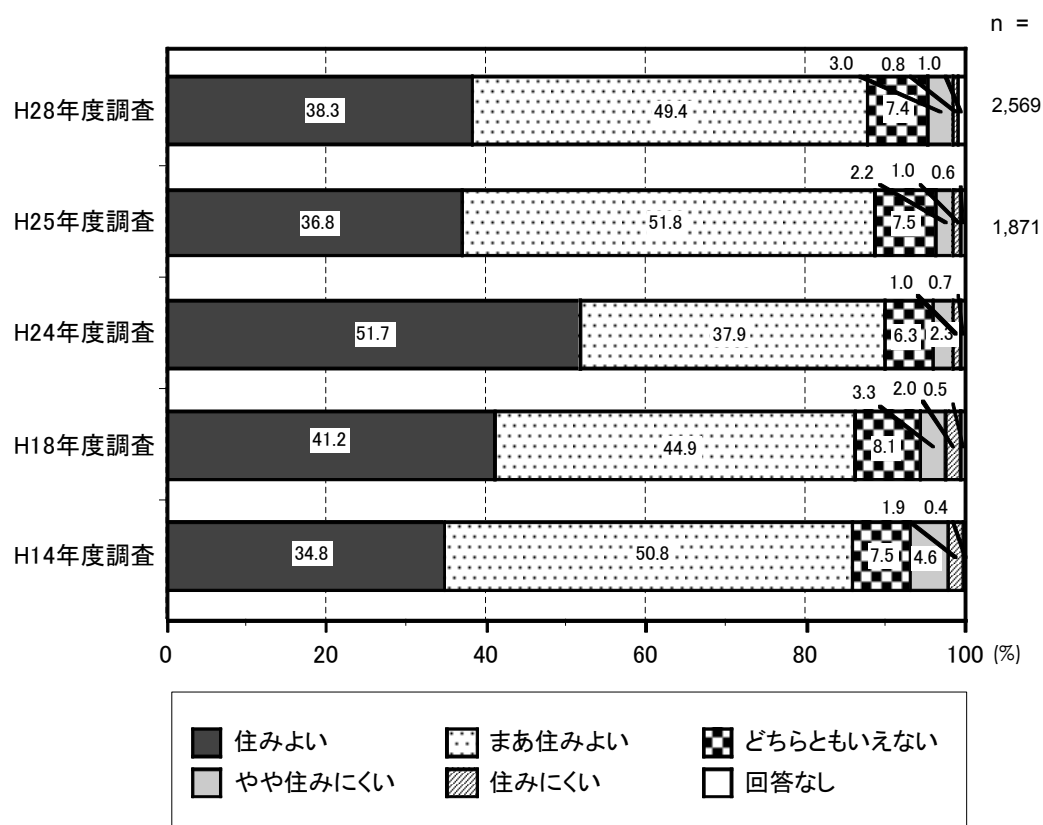
要点

長久手市に対して住みやすさを感じている市民は9割近くを占めています。

全体

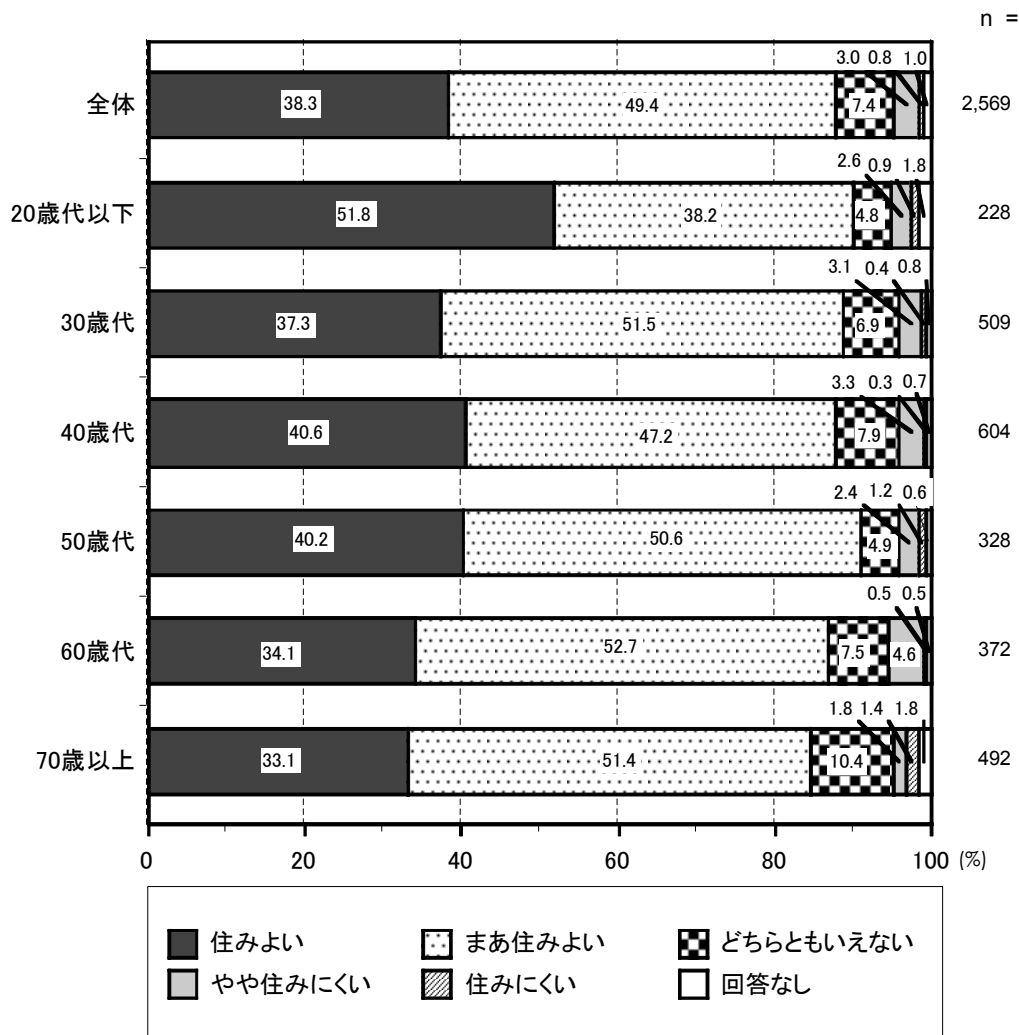
- 住みやすさについてたずねたところ、「住みよい」が38.3%、「まあ住みよい」が49.4%となっており、これらを合わせると、長久手市に対して住みやすさを感じている市民は87.7%となります。
- 「やや住みにくい」(3.0%)と「住みにくい」(0.8%)については、合わせても3.8%となっています。
- 過去に実施した調査結果と比較すると、H24年度調査より「住みよい」と回答した市民の割合は13.4ポイント少なくなっていますが、「住みよい」「まあ住みよい」と合わせた割合は、いずれの年度の調査結果と比較しても大きな変化はありません（図3-1-1）。

図3-1-1 住みよいまちだと思うか（前回比較）



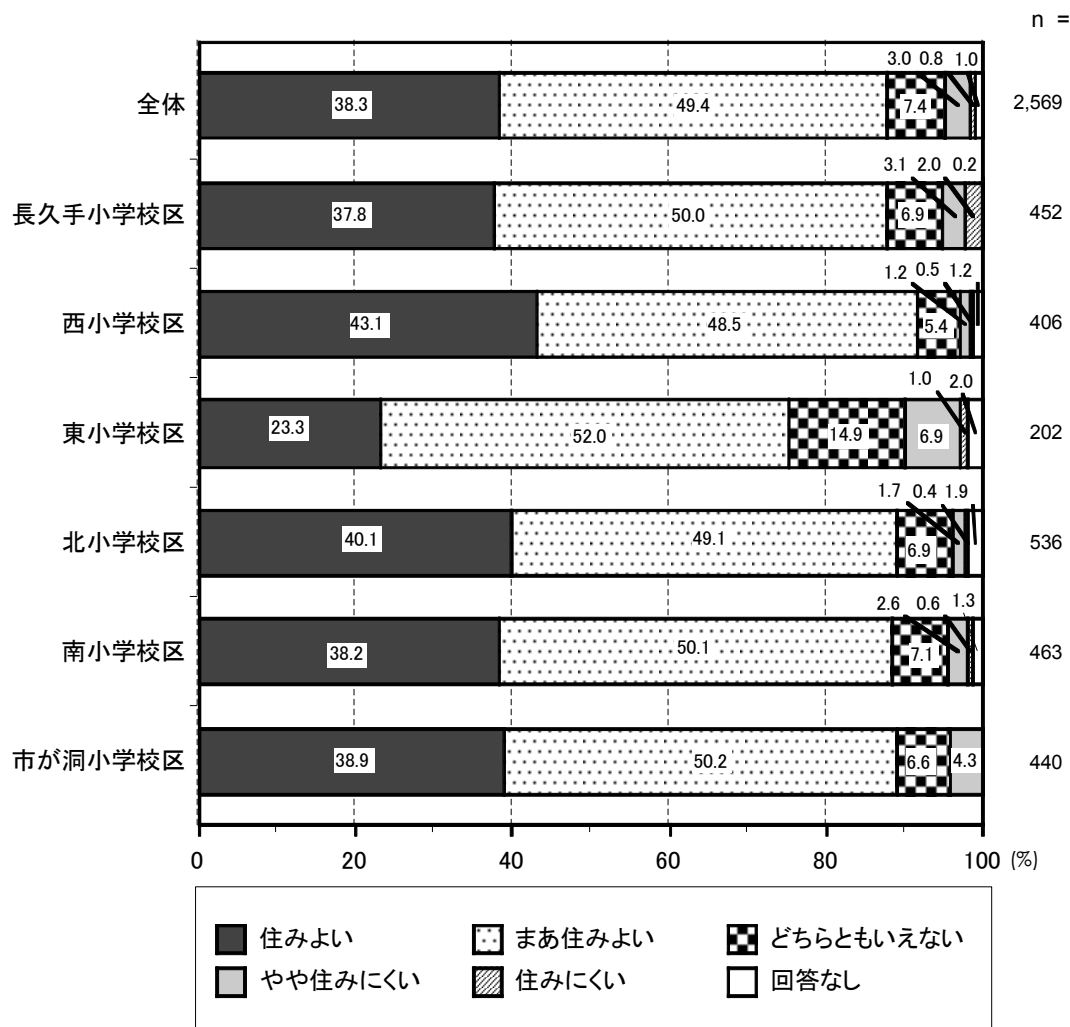
○年齢別にみると、「住みよい」は、20歳代以下（51.8%）で多くなっている一方で、60歳代や70歳以上の高齢者層で若干少なくなっています。このように、どちらかといえば、高齢者層に比べて若い世代の方が住みやすさを感じている傾向があります（図3-1-2）。

図3-1-2 年齢別 「住みよいまちだと思うか」



○小学校区別にみると、住みやすさ（「住みよい」と「まあ住みよい」と回答した合計）を感じている市民は、東小学校区を除くすべての小学校区で8割を超えていますが、東小学校区では、「住みよい」の割合が23.3%と全体に比べて少なくなっています（図3-1-3）。

図3-1-3 小学校区別 「住みよいまちだと思うか」



(2) 愛着を感じているか（問5）

問5 長久手に愛着を感じていますか。次の中から選んでください。【○は1つ】

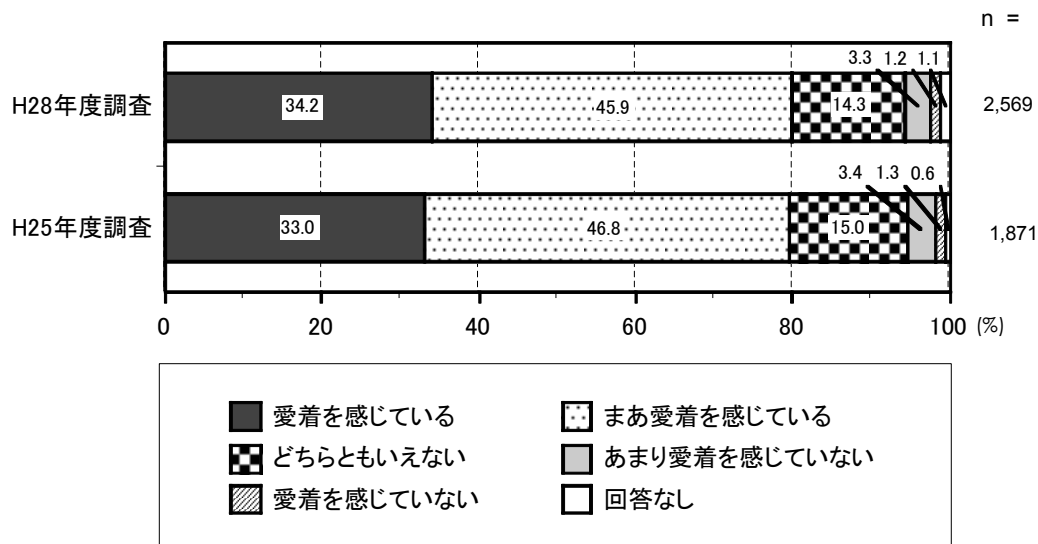
要点

長久手市に愛着を感じている市民は8割近くを占めています。

全体

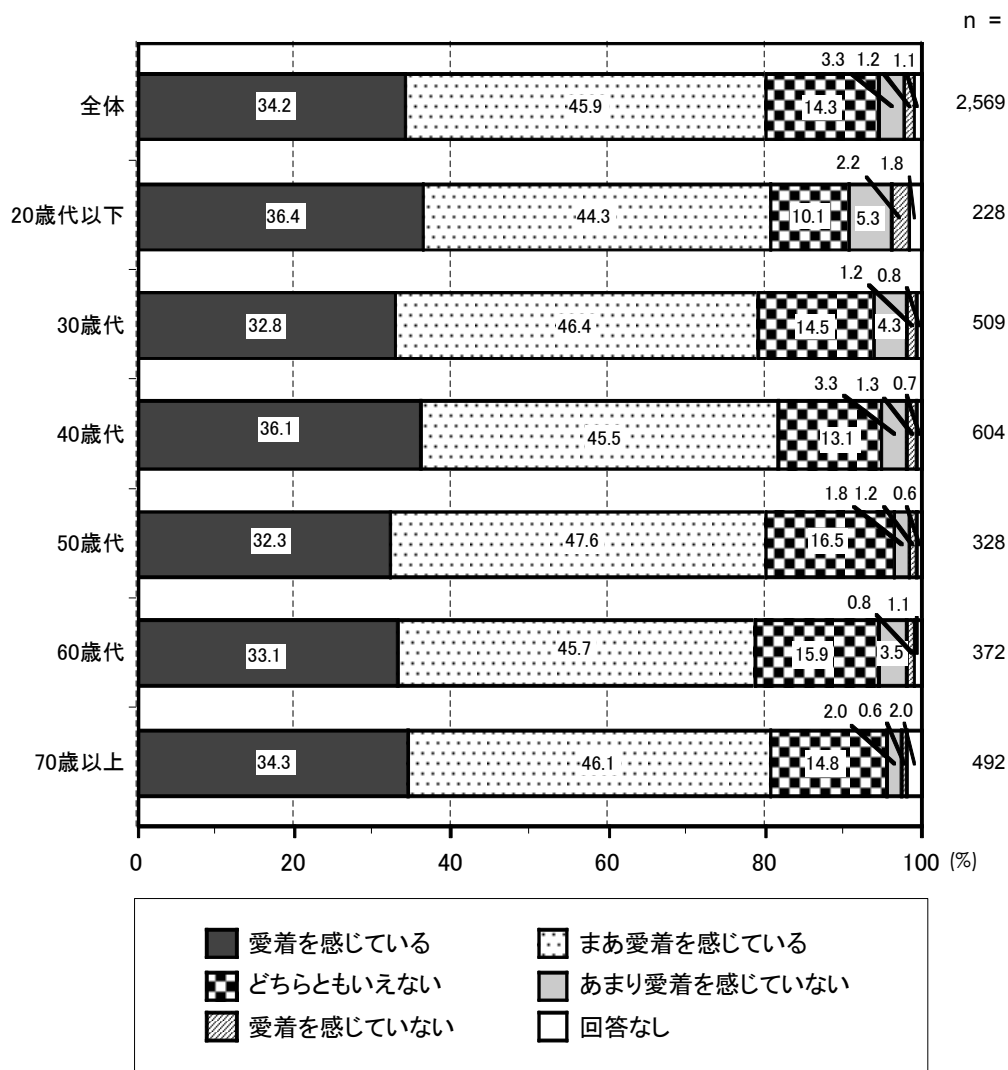
- 愛着の程度についてたずねたところ、「愛着を感じている」が 34.2%、「まあ愛着を感じている」が 45.9%となっており、これらを合わせると 80.1%になります。
- 「あまり愛着を感じていない」（3.3%）と「愛着を感じていない」（1.2%）については、合わせても 4.5%と、「愛着を感じている」、「まあ愛着を感じている」市民の割合と比べると極めて少ない結果になっています。
- 平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 3-2-1）。

図 3-2-1 愛着を感じているか（前回比較）



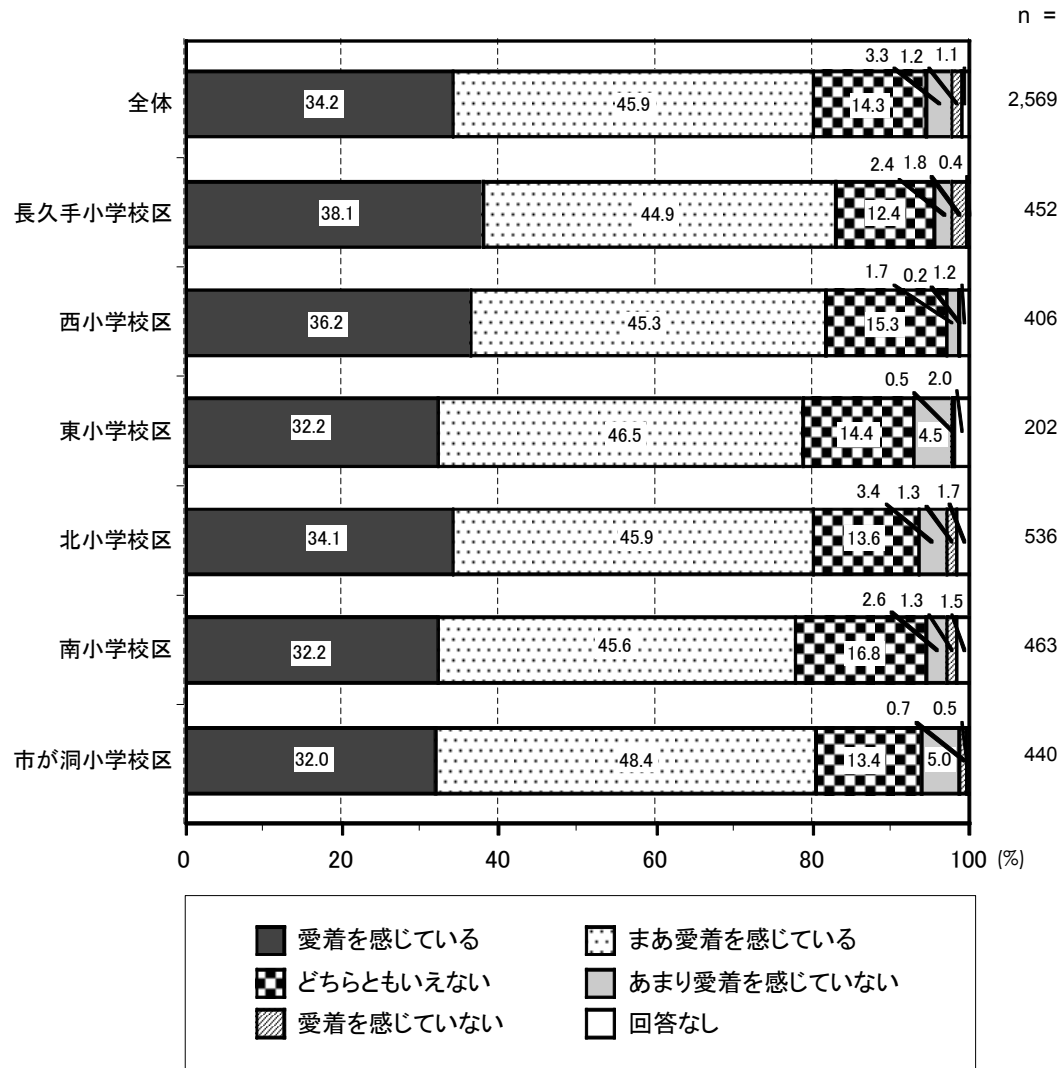
○年齢別による有意な差はみられません（図3-2-2）。

図3-2-2 年齢別 「愛着を感じているか」



○全般的にみて小学校区による大きな差もみられません（図3-2-3）。

図3-2-3 小学校区別 「愛着を感じているか」



(3) 今後も住み続けたいか（問6）

問6 今後も長久手に住み続けたいですか。次の中から選んでください。【〇は1つ】

要点

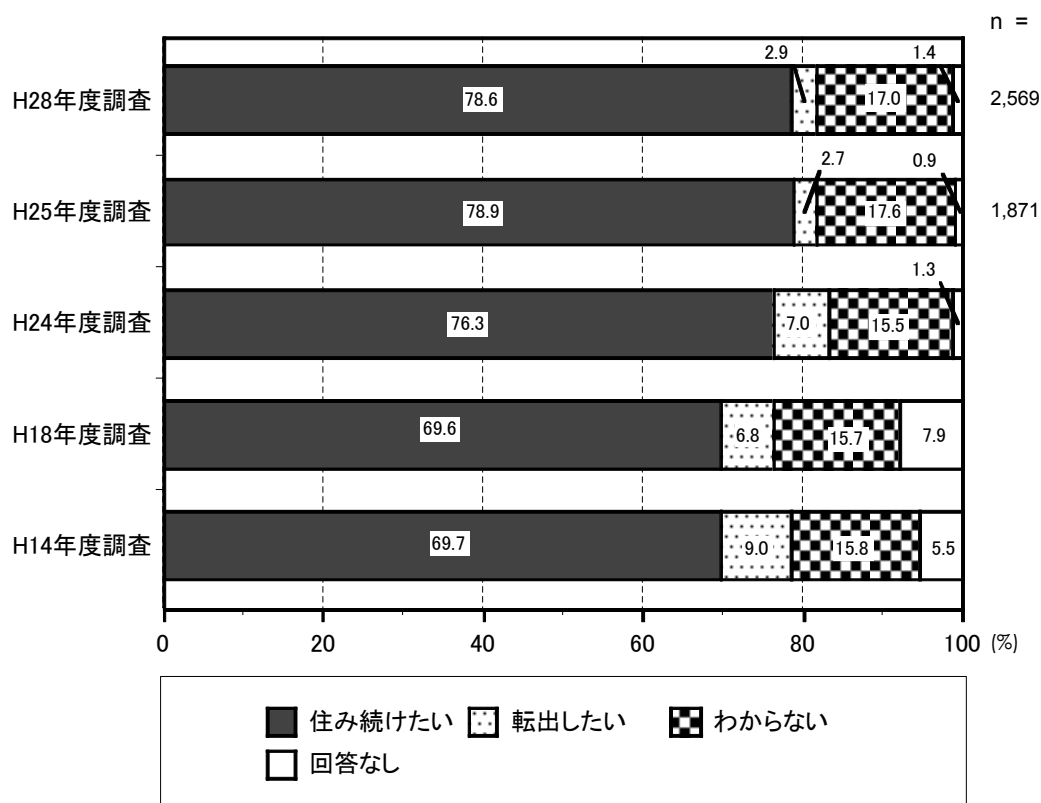
長久手市における定住意向を示している市民は8割近くを占めており、これまで実施した調査の中で2番目に多くなっています。

全体

○今後の定住意向について尋ねたところ、「住み続けたい」が78.6%を占めるのに比べて、「転出したい」は2.9%と極めて少ない結果になっています。

○過去に実施した調査結果と比較すると、「住み続けたい」と回答した市民の割合は、平成25年度調査に次いで2番目に多くなっています（図3-3-1）。

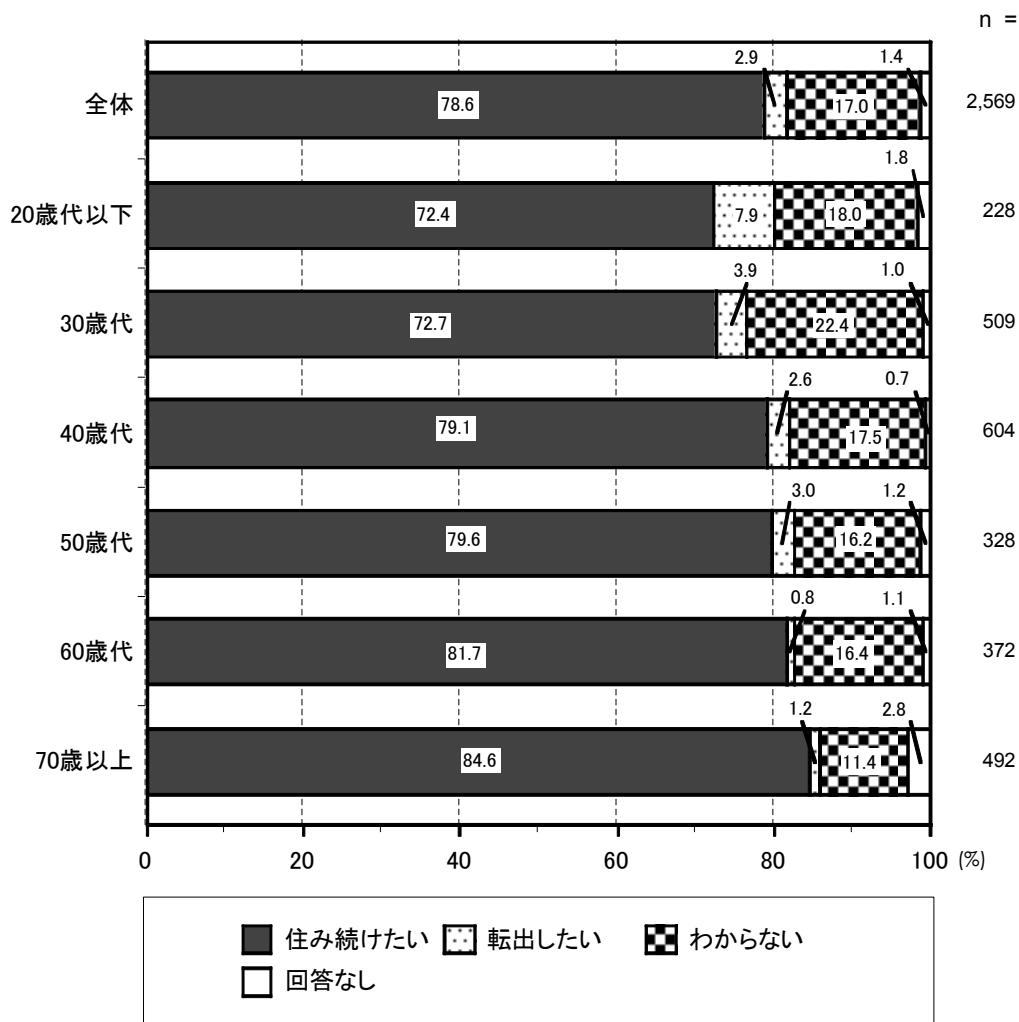
図3-3-1 今後も住み続けたいか（前回比較）



○年齢別にみると、「住みたい」と回答した市民の割合は、20歳以下で72.4%と全体に比べて若干少ない一方で、70歳以上（84.6%）で若干多くなっています。

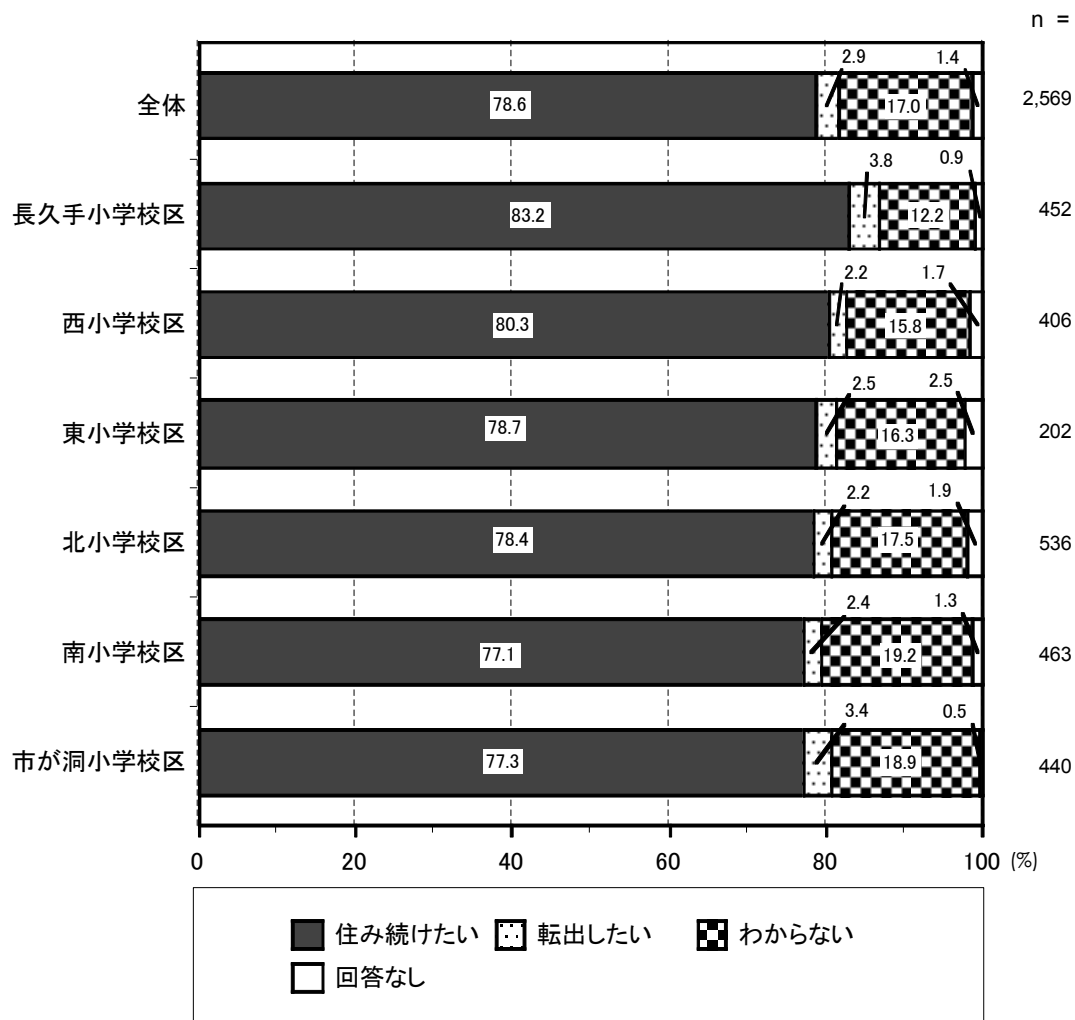
○また、年齢が高いほど定住意向が順次高まっていく傾向がみられます（図3-3-2）。

図3-3-2 年齢別 「今後も住みたいか」



○長久手小学校区における定住意向が若干高くなっているものの、全般的にみて小学校区の違いによる定住意向の差はあまりみられません（図3-3-3）。

図3-3-3 小学校区別 「今後も住みたいか」



(4) 魅力的な点・魅力的でない点（問7）

問7 長久手には「魅力的な点」や「魅力的でない点」がありますか。【○はそれぞれ1つ】
また、それはどんなことですか。「1. ある」を選んだ方は、それぞれ3つまで記入してください。

要点

長久手の魅力的な点や魅力的でない点について、過半数の市民が魅力的な点とそうでない点の両面を持ち合わせたまちであると回答していますが、魅力的な点が「ある」という回答の方が魅力的でない点が「ある」という回答を上回っています。

全体

○「魅力的な点」と「魅力的でない点」について、それぞれその有無をたずねたところ、魅力的な点が「ある」という回答（81.2%）と魅力的でない点が「ある」という回答（57.2%）は共に過半数を占めており、長久手市は、市民にとって魅力的な点とそうでない点の両面を持ち合わせたまちであることを示す結果になっています。

○しかしながら、魅力的な点が「ある」という回答は、魅力的でない点が「ある」という回答を24.0ポイントも上回っていることから、どちらかといえば魅力的な点が多いまちとして捉えられています（図3-4-1）。

○平成25年度調査結果と比べると、魅力的な点が「ある」という回答と魅力的でない点が「ある」という回答は共に増加しています。特に魅力的な点が「ある」という回答（5.4ポイントアップ）の方が魅力的でない点が「ある」という回答（4.9ポイントアップ）よりも上回って増加しています。

○「交通や買物等の利便性の高さ」といった生活インフラ分野や、「自然や緑が豊か」や「公園が多い」、「田園があり適度に田舎で適度に都会」といった環境分野、「まちがきれい・新しい・発展しているなどのイメージ」などが、長久手の主要な魅力的な点となっています（表3-4-1）。

○生活インフラ分野は、長久手の主要な魅力的な点となっている一方で、「渋滞が多い」や「Nバス、リニモなどの公共交通機関が不便」、「交通の便が悪い」など、魅力的でない点としても数多くあげられています。また、「防犯対策が不十分」についても比較的多くの市民から魅力的でない点として指摘されています（表3-4-2）。

図3-4-1 魅力的な点・魅力的でない点（前回比較）

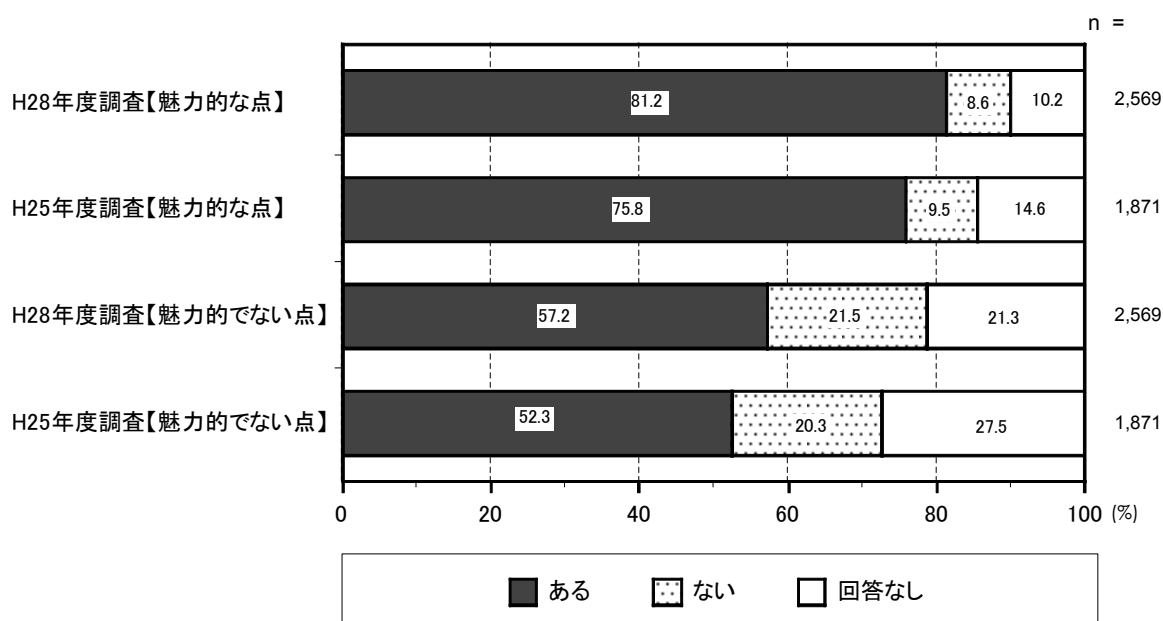


表 3-4-1 長久手の魅力的な点

分野	魅力的な点	意見数
健康 (計：133 件)	医療関係の充実	128
	医療費助成がある	2
	健康面への対応	3
子育て・教育 (計：181 件)	子育てしやすい、子育て支援の充実	97
	子ども・子育て世代が多い	47
	小中学校など教育環境などがよい	29
	その他（子どもが遊ぶ公園が充実している 等）	8
環境 (計：1,313 件)	自然豊か、自然が残っている	397
	緑が多い	197
	静か	123
	公園が多い	181
	環境がよい	137
	景観がよい	38
	空気や水がきれい	25
	田園があり適度に田舎で適度に都会	178
	ごみ対策が進んでいる	12
	その他（工場が少ない 等）	25
人や地域のつながり (計：72 件)	地域・人とのつながりがよい	60
	地域組織や活動が充実	12
防災・防犯 (計：94 件)	治安がよいなど安全・安心なまち	69
	自然災害が少ない	19
	その他（街灯がある、防災意識が高い 等）	6
福祉 (計：48 件)	福祉が充実している、福祉に力を入れている	40
	ボランティア活動が盛ん	6
	その他（高齢者が活躍している 等）	2
文化・生涯学習 (計：196 件)	歴史がある	49
	伝統・文化活動が盛ん	30
	文化・スポーツ等の施設が充実している	39
	文化的なまち	21
	生涯学習が盛ん	8
	大学が多く文化的	10
	万博開催地	9
	その他（ござらっせがある 等）	30
生活インフラ (計：1,625 件)	交通の便がよい	228
	商業施設の充実、店舗が多い	445
	買い物が便利	151
	駅やインターに近く名古屋に近いなどアクセスがよい	239
	日常生活の利便性	193
	住環境がよく、住みやすい	210
	リニモ、Nバス等公共交通機関が便利	89
	道路整備の充実	57
	公共施設	5
	その他	8

分野	魅力的な点	意見数
市政運営等について (計：65 件)	市政運営	31
	財政	5
	市長、市職員の対応等	25
	その他	4
まちや人のイメージ (計：619 件)	まちがきれい・新しい・発展しているなどのイメージ	329
	活気がある・のどかなどの雰囲気	121
	コンパクトなどまちの規模	41
	若い人が多い	41
	人口	12
	住民の気質	63
	その他	12
その他 (計：6 件)	その他	6
合 計		4,352

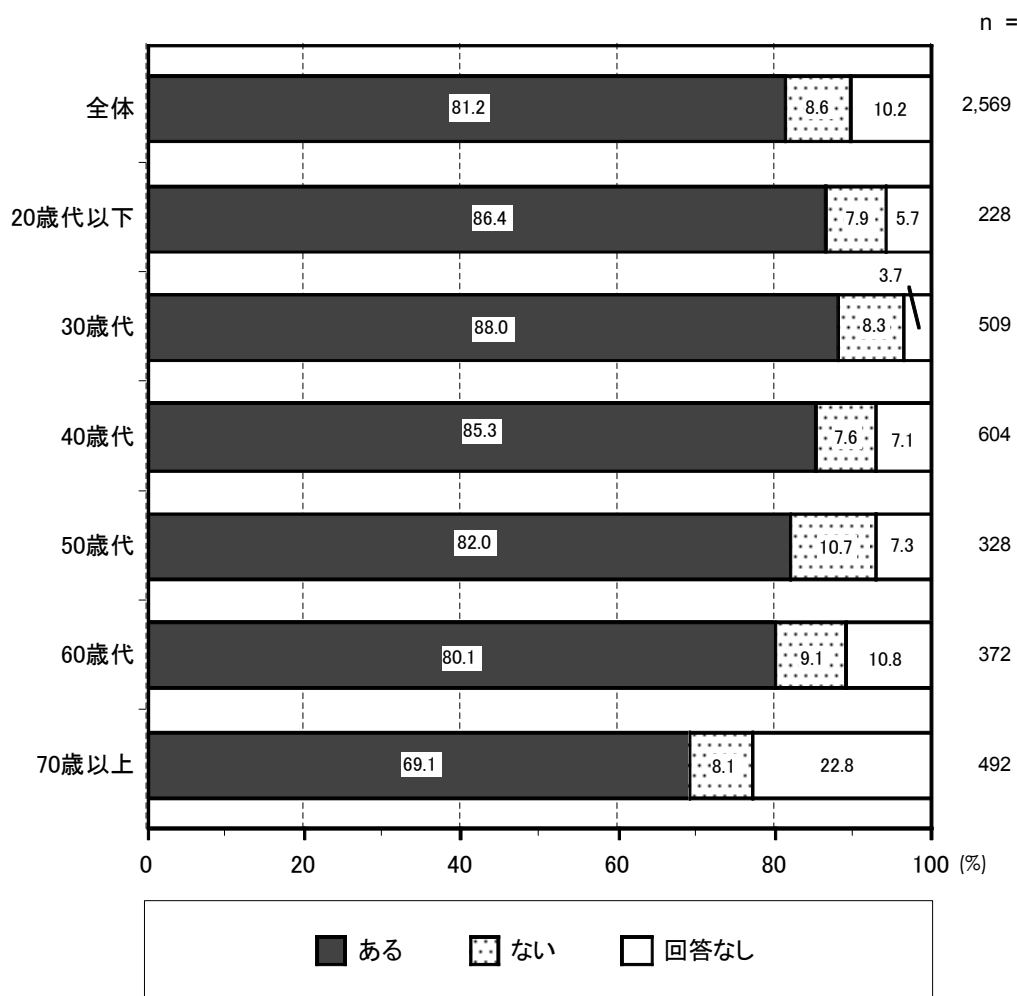
表 3-4-2 長久手の魅力的でない点

分野	魅力的でない点	意見数
健康 (計：34 件)	医療機関、診療科目が不足	23
	検診等の保健が充実していない	7
	その他	4
子育て・教育 (計：215 件)	子育て支援サービスや施設、情報が十分でない	40
	幼稚園・保育園が少ない、十分でない	38
	子どもの遊び場・居場所が不十分	14
	学童保育が少なく、トワイライトがない	39
	学校の教育内容や教育水準がよくない	26
	学校教育施設の数や内容、配置がよくない	45
	その他（保育料が高い、幼稚園のイベントが少ない 等）	13
環境 (計：209 件)	自然が減少している	37
	緑や田畑が減少している	22
	公園が少ない、施設や管理が不十分	25
	騒音がうるさい	15
	街並み景観がよくない	8
	環境衛生、環境美化が不十分	21
	ごみ対策が不十分	57
	大気、水質汚染や悪臭がある	13
	その他（亜炭鉱の掘削跡がある 等）	11
人や地域のつながり (計：117 件)	近所との付き合い、地域とのつながりが希薄	68
	旧態依然の体質、閉鎖的なところが残っている	43
	その他	6
防災・防犯 (計：149 件)	防災対策が不十分	3
	防災・防犯意識が不十分	37
	防犯対策が不十分	78
	治安がよくない	15
	交通安全対策が不十分	11
	警察署・交番が少ない	5

分野	魅力的でない点	意見数
福祉 (計：55 件)	高齢者福祉が不十分	18
	障害者福祉が不十分	1
	福祉行政が弱い	19
	福祉に偏りすぎ	8
	高齢パスがない	7
	その他	2
文化・生涯学習 (計：153 件)	文化・学習活動やイベントが少ない	31
	文化施設や生涯学習施設等が不十分	39
	図書館が充実していない	28
	スポーツ施設、内容が不十分	34
	その他（モリコロパーク、文化の家 等）	21
生活インフラ (計：1,317 件)	交通の便が悪い	185
	商業施設が少ない	51
	買い物等生活の利便性が悪い	14
	車がないと不便	61
	公共施設が少ない	8
	都市インフラ整備が不十分	55
	リニモ、Nバス等公共交通機関が不便	274
	道路整備が不十分	166
	急激な都市化が進んでいる	58
	商業施設が増えすぎている	25
	渋滞が多い	285
	地価、家賃が高い	35
	企業、就業場所が少ない	22
	交通量の増加	37
	その他（空き地の管理、区画整理 等）	41
市政運営等について (計：139 件)	市政がわかりにくい、市民の声が反映されない	28
	税金等が高い	67
	行政サービスがよくない	17
	市職員の対応が悪い	9
	その他（市議会議員が多すぎる、市庁舎が古い 等）	18
まちや人のイメージ (計：121 件)	まちに魅力がない	24
	活気がないなどのイメージの悪さ	10
	人口増加・人口減少等	49
	市民のモラルやマナーが悪い	33
	その他	5
その他 (計：39 件)	坂が多い	28
	名古屋市より特典が少ない	2
	その他	9
合 計		2,548

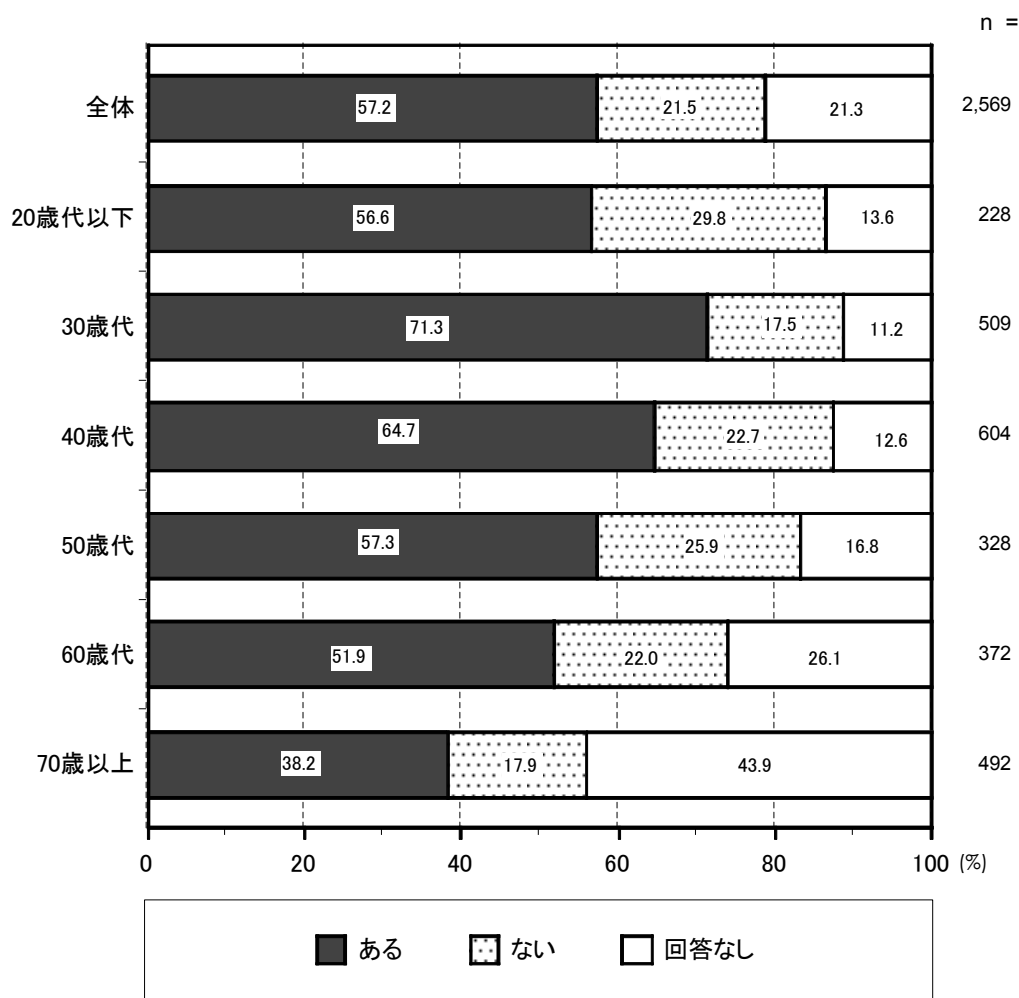
○「魅力的な点」について年齢別にみると、魅力的な点があるという回答は、30歳代（88.0%）で最も多く、次いで20歳代以下（86.4%）で多くなっています。30歳代以降は、年齢が上がるほど魅力的な点があるという回答が少なくなる傾向がみられます。そして、70歳以上では69.1%になります。その分、70歳以上の年齢層では、「回答なし」の割合が多くなっています（図3-4-2）。

図3-4-2 年齢別 「魅力的な点」



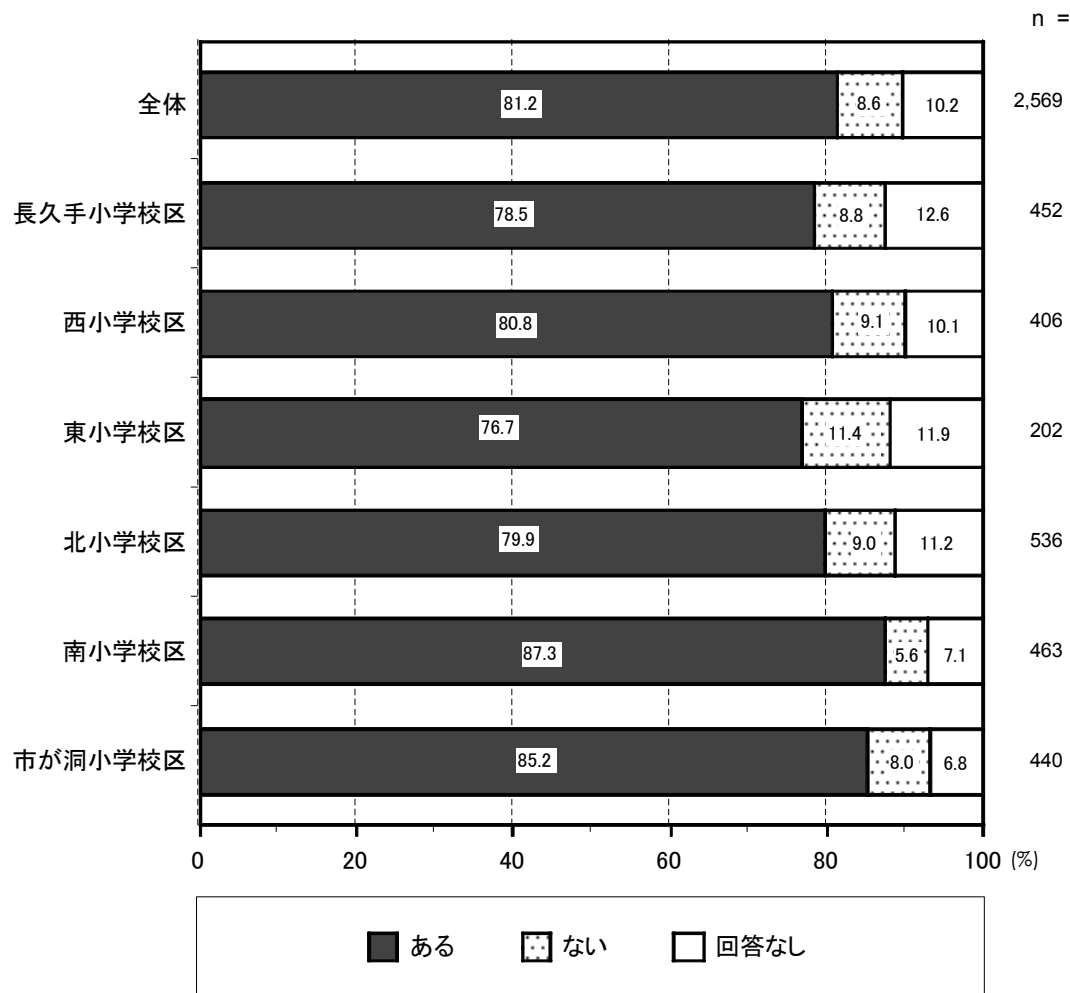
○「魅力的でない点」についても同様に、魅力的でない点があるという回答は30歳代（71.3%）で最も多く、それ以降年齢が上がるほど少なくなる傾向がみられ、70歳以上では38.2%になっています。その分、年齢が上がるほど「回答なし」の割合が多くなっており、70歳以上では43.9%を占めています（図3-4-3）。

図3-4-3 年齢別 「魅力的でない点」



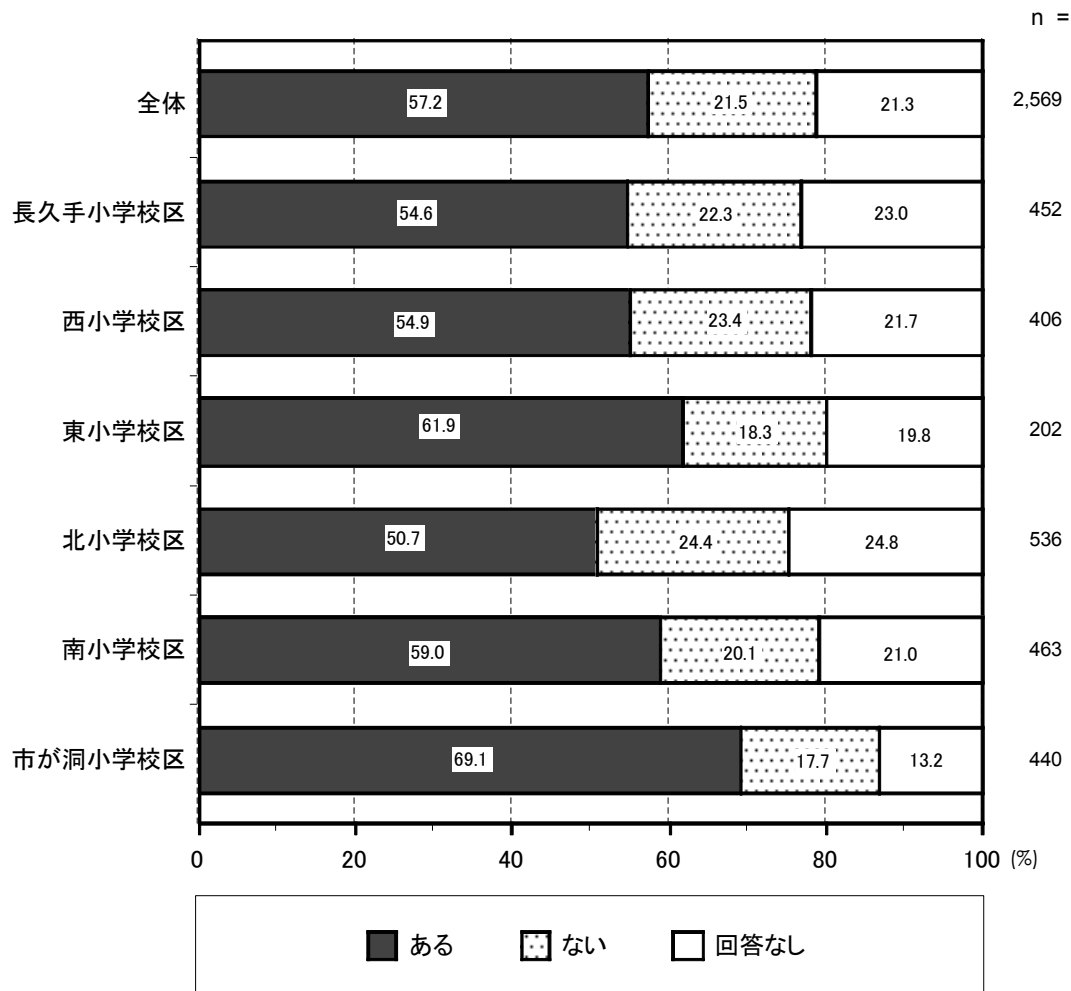
○「魅力的な点」について小学校区別にみると、魅力的な点があるという回答は、南小学校区（87.3%）で全体と比べて若干多くなっているものの、全般的に小学校区の違いによる大きな差はみられません（図3-4-4）。

図3-4-4 小学校区別 「魅力的な点」



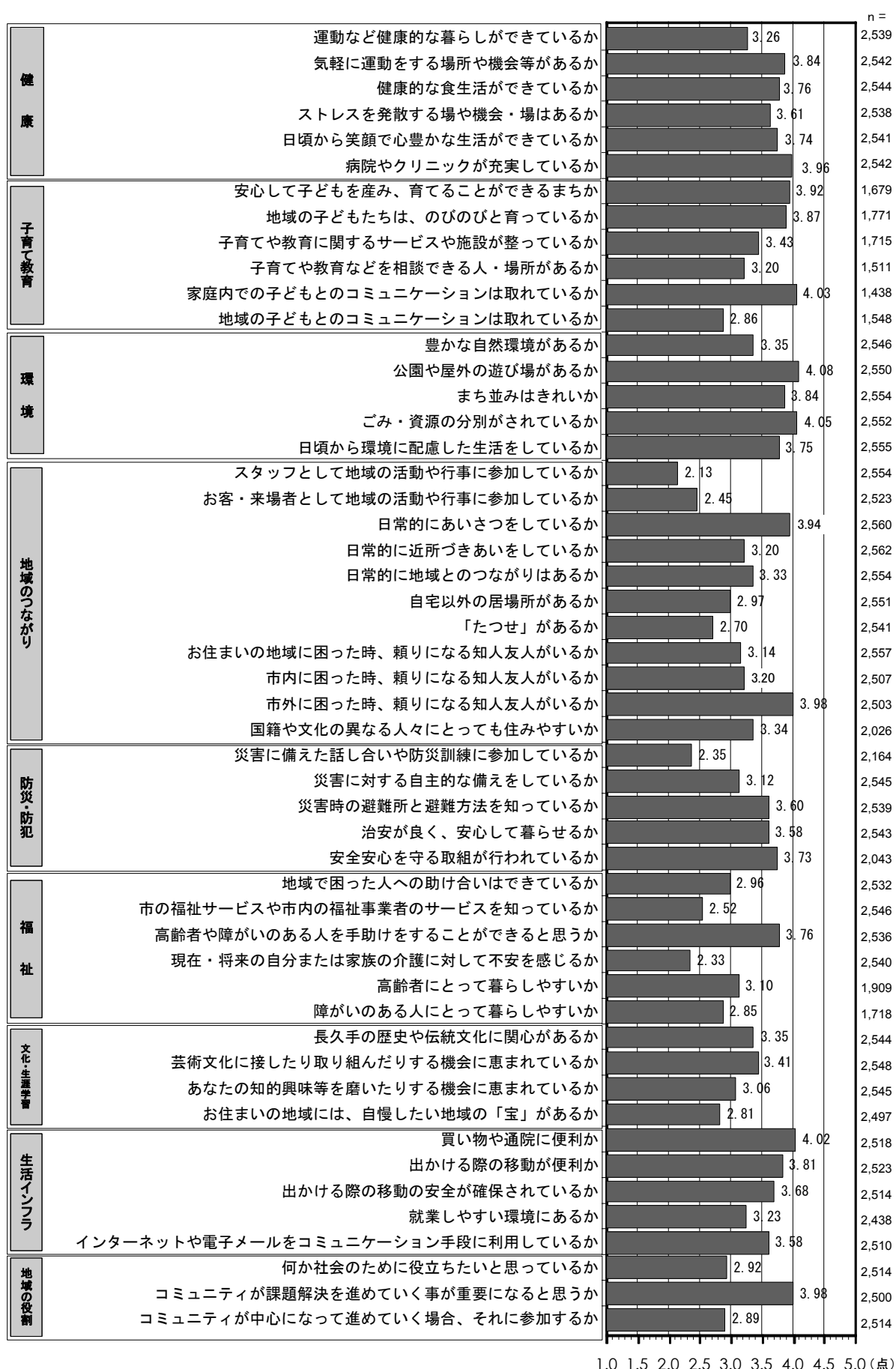
○「魅力的でない点」について小学校区別にみると、魅力的でない点があるという回答は市が洞小学校区（69.1％）で全体と比べて多くなっています。逆に北小学校区（50.7％）で全体と比べて若干少なくなっています（図3-4-5）。

図3-4-5 小学校区別 「魅力的でない点」



第4章 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について

図 4-0-1 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について（評点一覧）



1.0 1.5 2.0 2.5 3.0 3.5 4.0 4.5 5.0(点)

図 4-0-2 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について（評点一覧）

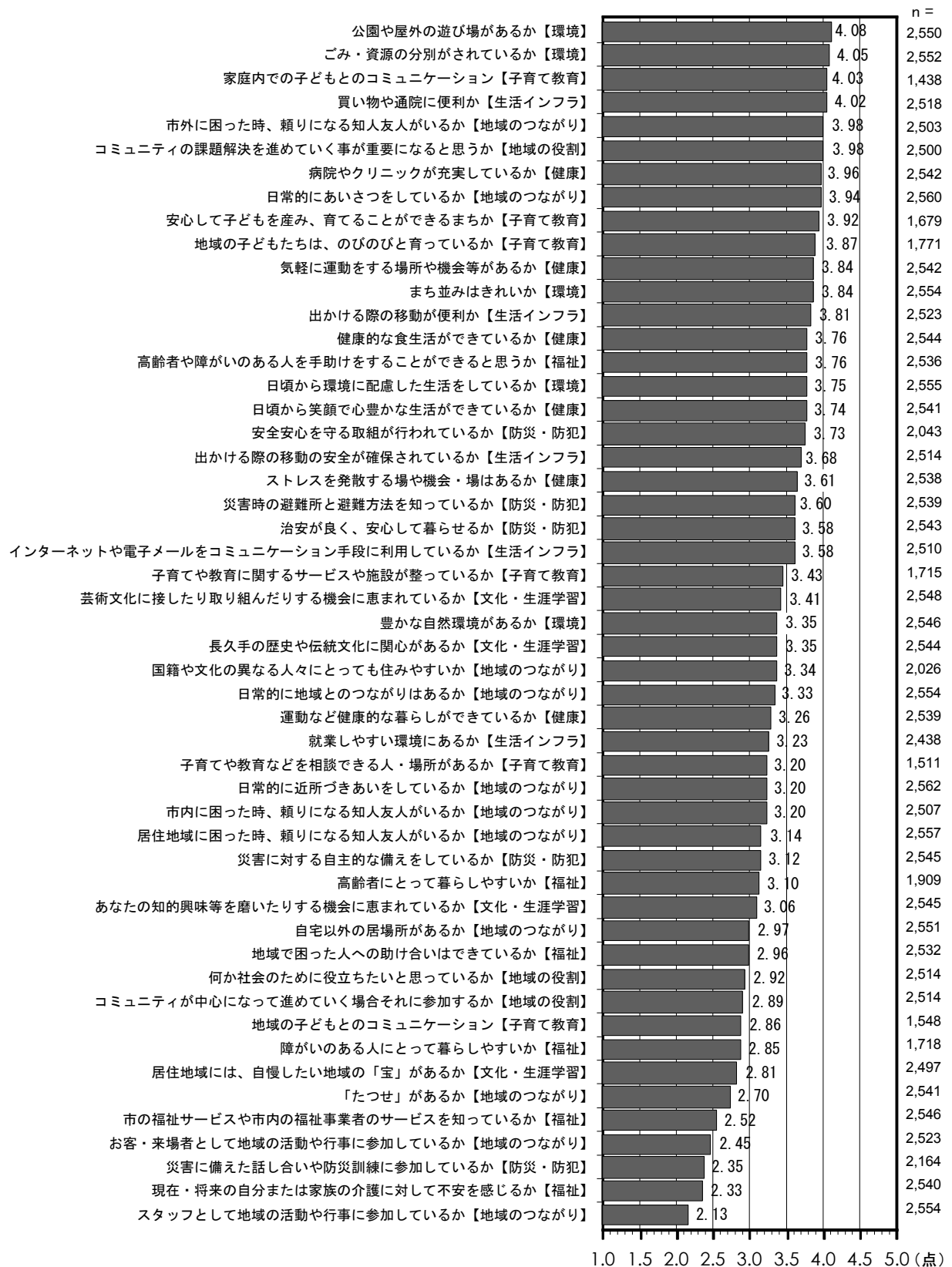


図 4-0-3 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について（評点：前回比較）

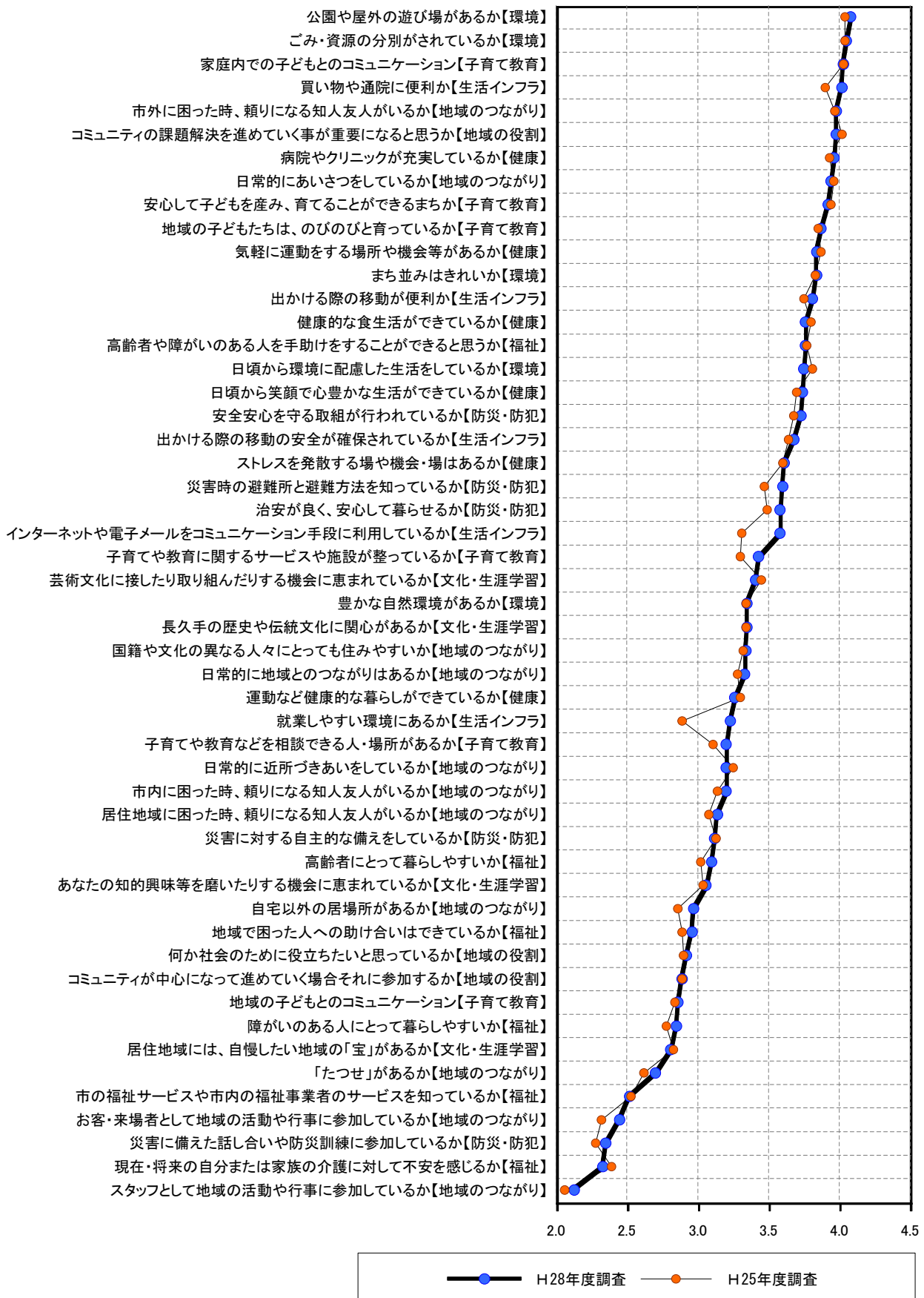
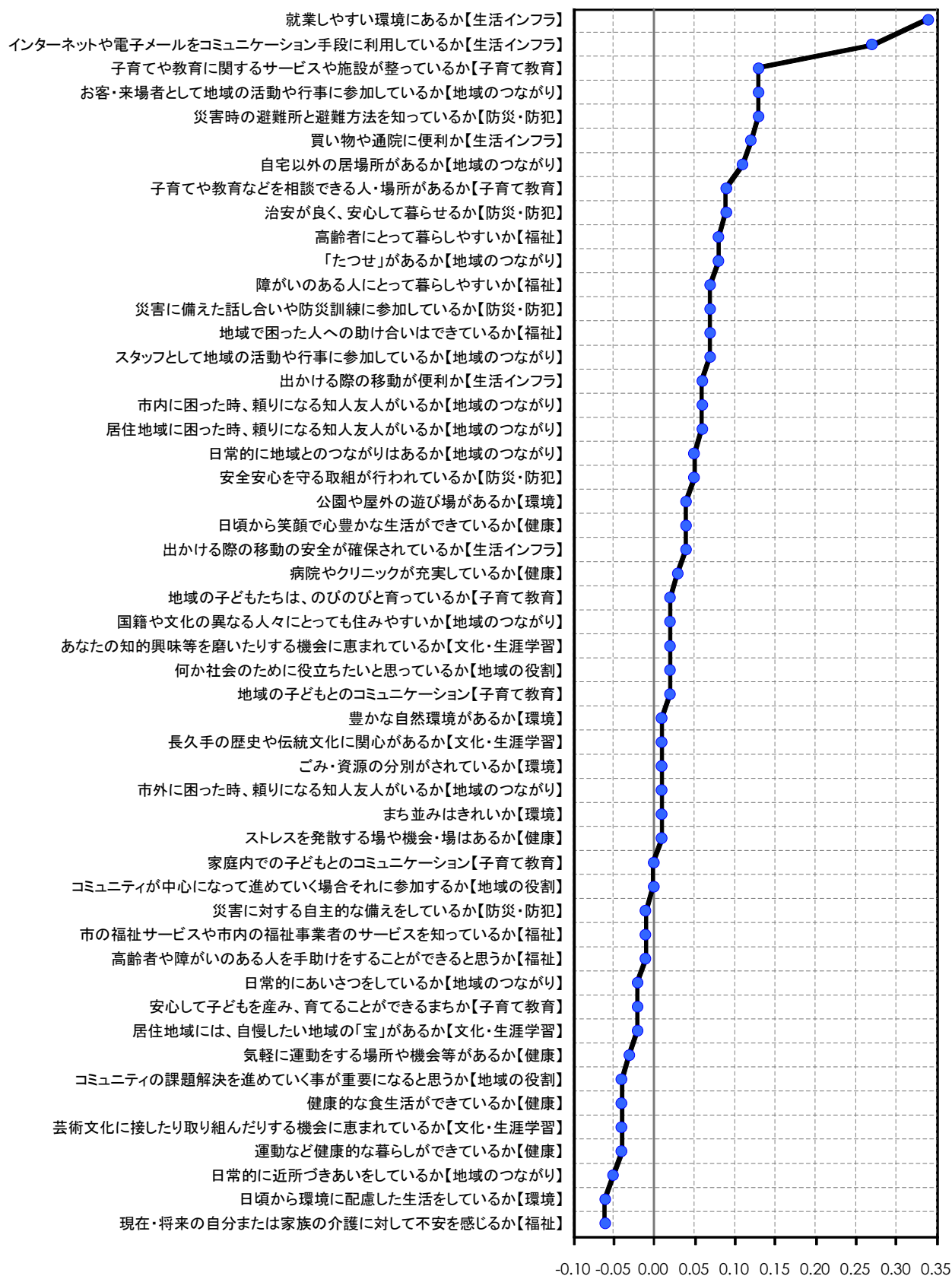


図 3-0-9 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について（評点差分：H28-H25）



要点

「病院やクリニックが充実していると思うか」の評点が最も高く、他の項目の評点も比較的高い水準にある一方で、「（体を動かしたり運動したりと）健康的な暮らしができていると思うか」の評点が、他の項目に比べて若干目立って低くなっています。

「（体を動かしたり運動したりと）健康的な暮らしができていると思うか」については、若い世代の評点が低くなっている一方で、70歳代や60歳代の評点が高くなっていることが特徴としてみられます。

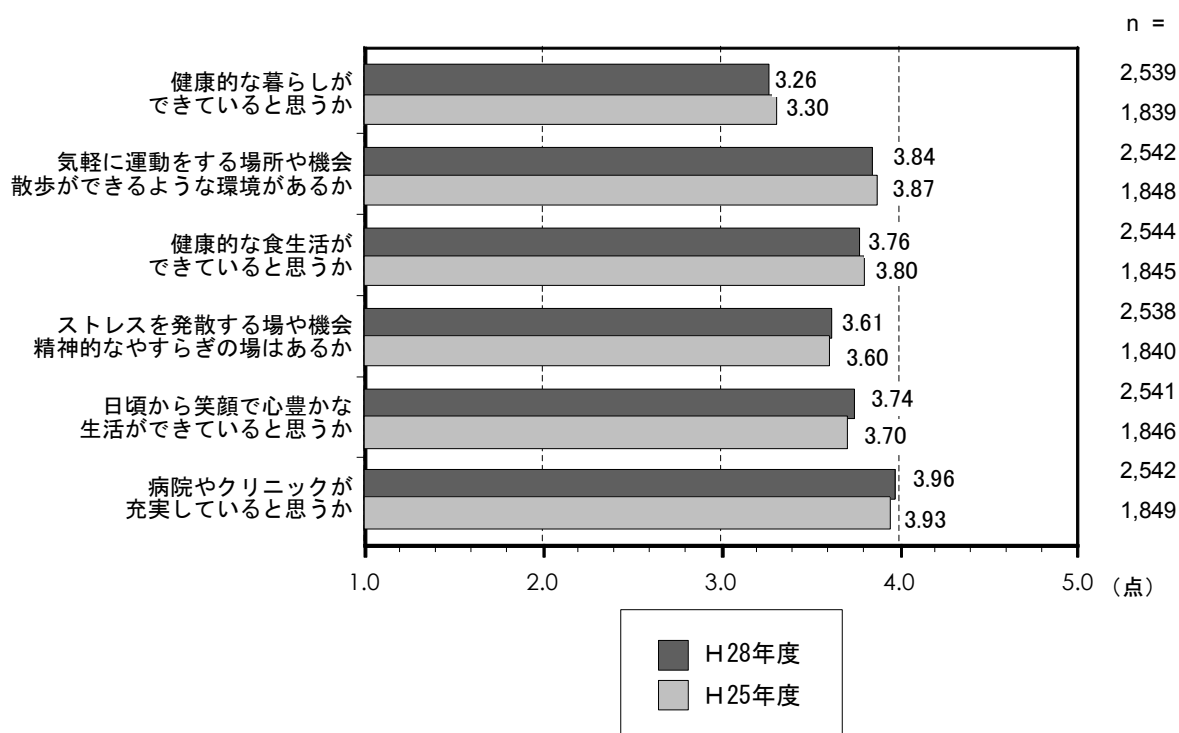
全体

○健康に関する6項目のうち、「病院やクリニックが充実していると思うか」の評点が3.96と最も高く、次いで「気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境があるか」（3.84）、「健康的な食生活ができていると思うか」（3.76）の順となっています。

○一方、「（体を動かしたり運動したりと）健康的な暮らしができていると思うか」は、3.26と他の項目に比べて評点が低くなっています。

○このように、運動する場所や機会、環境が恵まれていると実感し、健康的な食生活ができていている人の割合に比べて、体を動かしたりするといった健康的な暮らしが実践できているという実感は低い水準にとどまっています（図4-1-1）。

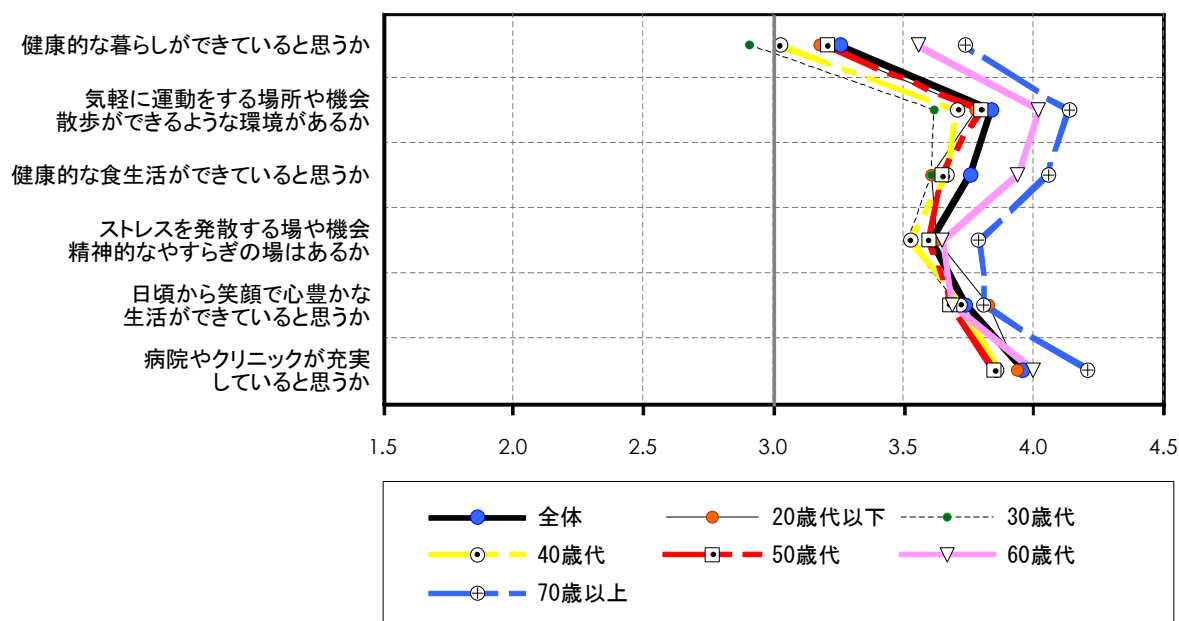
図4-1-1 健康について（評点：前回比較）



年齢別

- 年齢別にみると、「(体を動かしたり運動したりと) 健康的な暮らしができていると思うか」において年齢差がみられます。比較的時間に余裕のある年齢層の70歳代(3.74)や60歳代(3.56)の評点が高くなっており、若い年齢層に比べると運動を実践しているような状況がうかがえます。
- 加えて、70歳代では、「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」を除く残りの5項目の評点が他の年齢層と比べて最も高くなっており、健康的な暮らしや運動環境、医療施設の充実度などを実感している年齢層であるといえます(図4-1-2)。

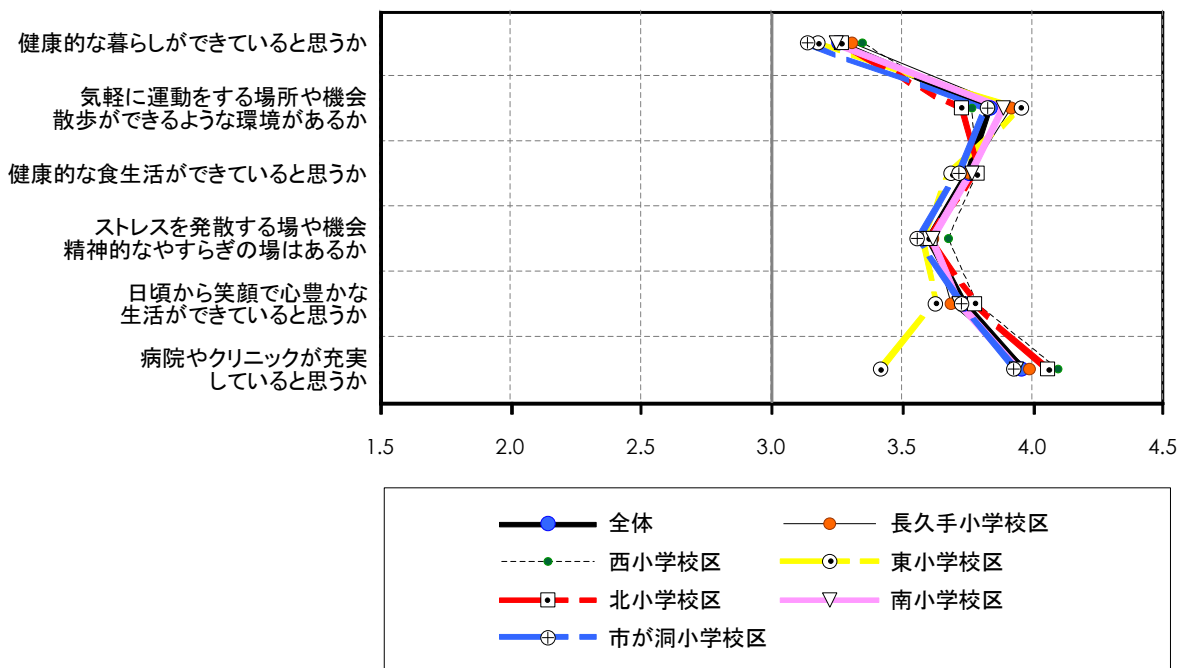
図4-1-2 年齢 「健康について(評点)」



小学校区別

- 小学校区別にみると、「病院やクリニックが充実していると思うか」については、東小学校区の評点が低くなっています。
- 「病院やクリニックが充実していると思うか」以外の項目については、小学校区の違いによる差はほとんどみられません(図4-1-3)。

図4-1-3 小学校区 「健康について(評点)」



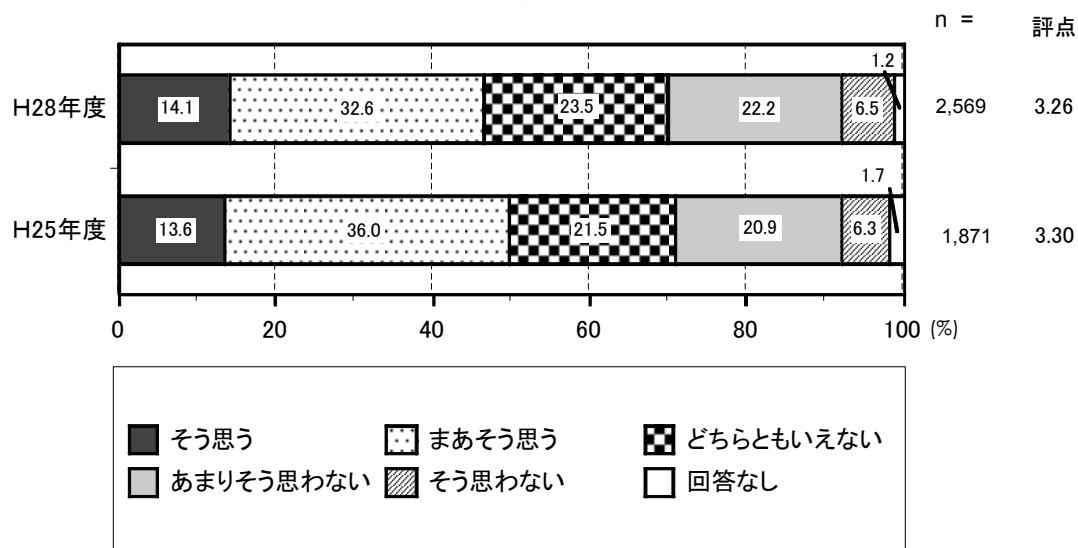
(1) 健康的な暮らし (問8 (1))

問8 (1) 体を動かしたり運動したりと健康的な暮らしができていると思いますか。【〇は1つ】

○「(体を動かしたり運動したりと) 健康的な暮らしができていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は46.7%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(28.7%)を18.0ポイント上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-1-4)。

図4-1-4 健康的な暮らし (前回比較)



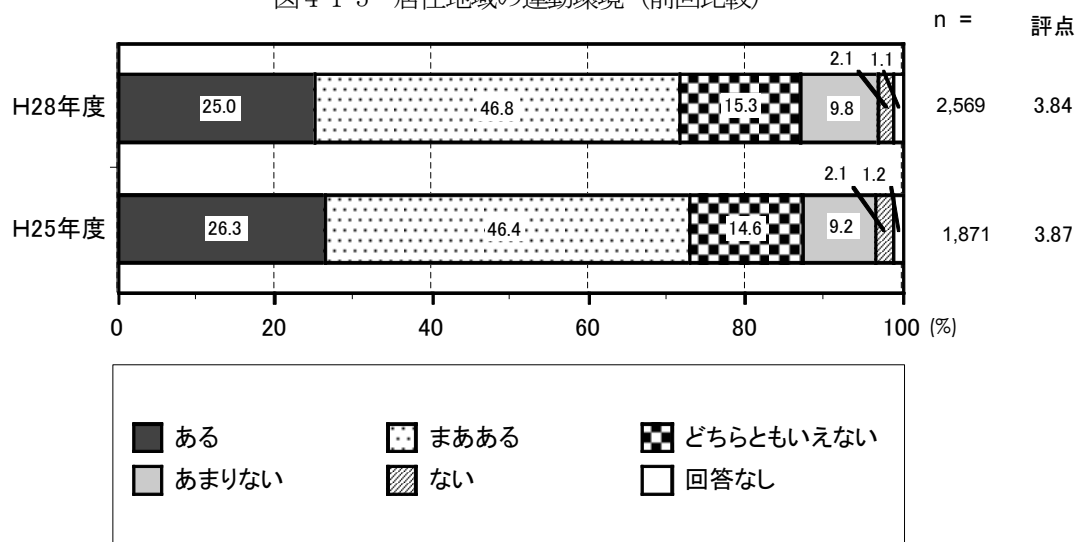
(2) 居住地域の運動環境 (問8 (2))

問8 (2) お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境がありますか。【〇は1つ】

○「気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境があるか」について、「ある」と「まあある」を合わせた割合は71.8%となっており、「あまりない」と「ない」の合計(11.9%)を59.9ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-1-5)。

図4-1-5 居住地域の運動環境 (前回比較)



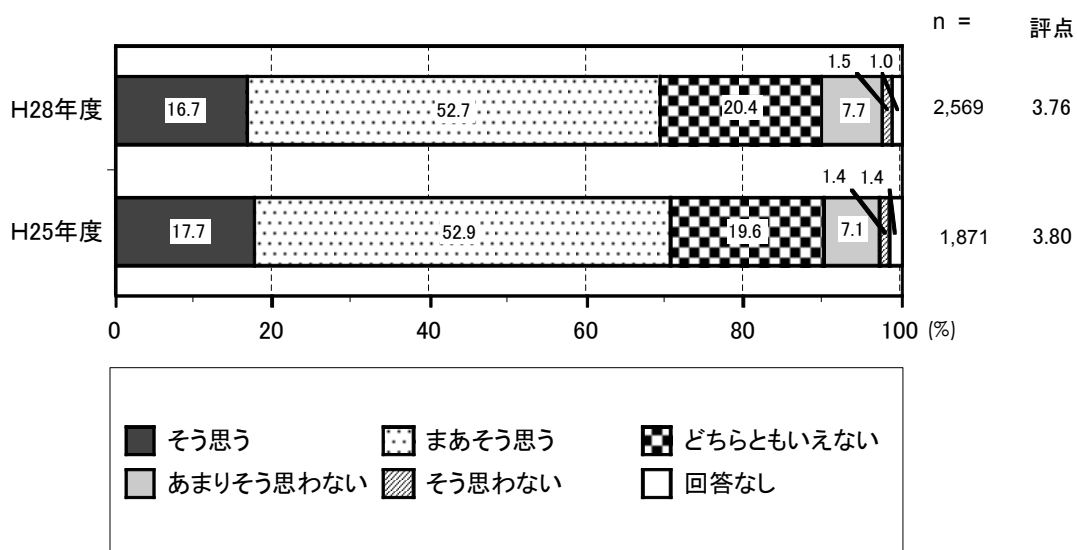
(3) 健康的な食生活 (問8 (3))

問8 (3) 健康的な食生活ができていると思いますか。【〇は1つ】

○「健康的な食生活ができていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は69.4%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(9.2%)を60.2ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-1-6)。

図4-1-6 健康的な食生活 (前回比較)



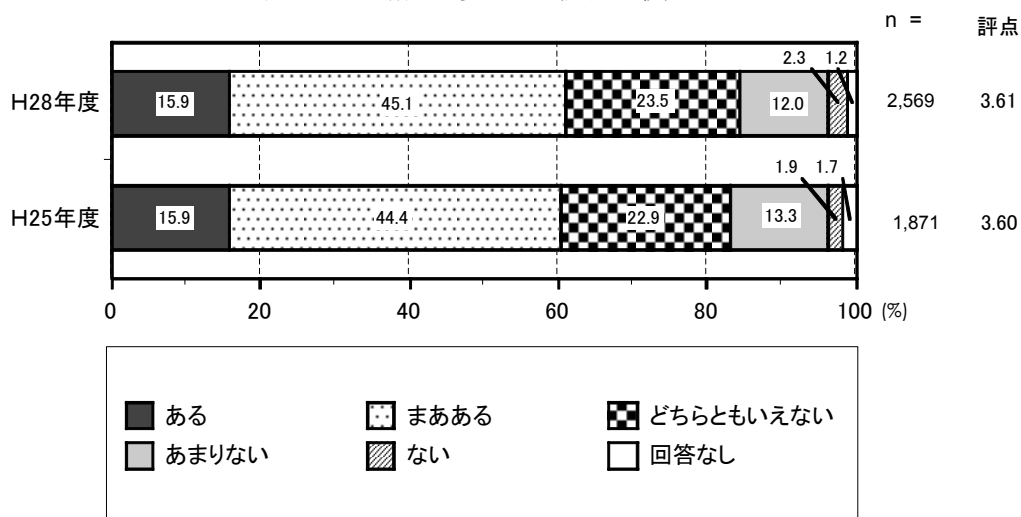
(4) 精神的安らぎ (問8 (4))

問8 (4) ストレスを発散する場や機会、精神的なやすらぎの場はありますか。【〇は1つ】

○「ストレスを発散する場や機会、精神的な安らぎの場があるか」について、「ある」と「まあある」を合わせた割合は61.0%となっており、「あまりない」と「ない」の合計(14.3%)を46.7ポイント上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-1-7)。

図4-1-7 精神的安らぎ (前回比較)



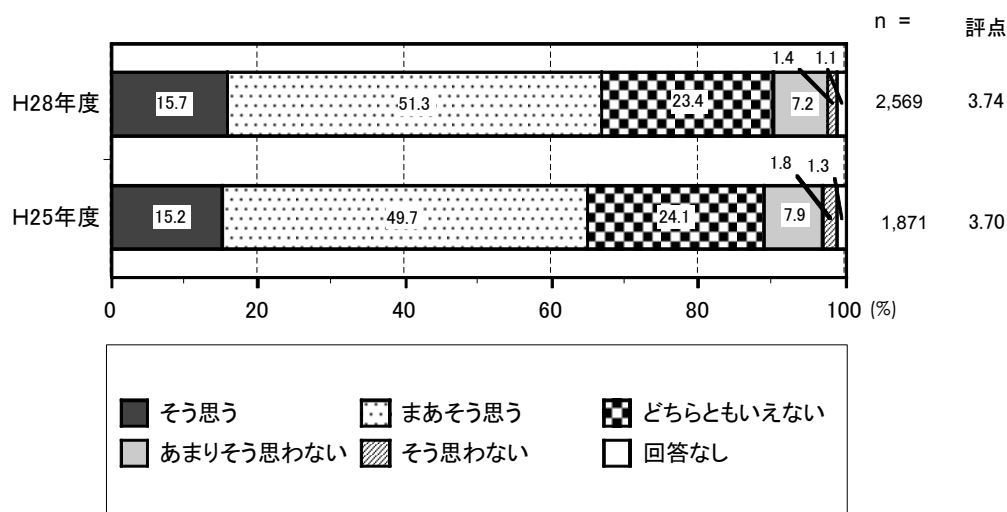
(5) 心豊かな生活 (問8 (5))

問8 (5) 日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思いますか。【〇は1つ】

○「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は67.0%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(8.6%)を58.4ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-1-8)。

図4-1-8 心豊かな生活(前回比較)



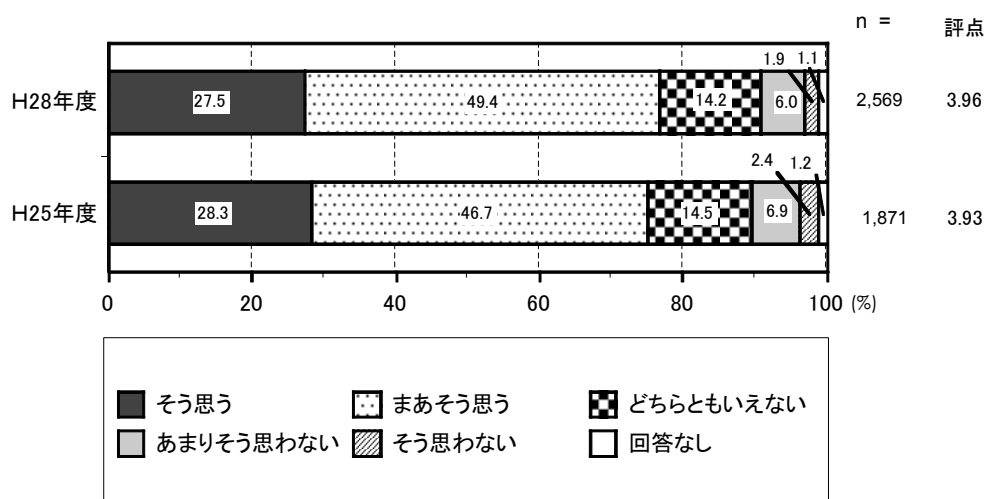
(6) 病院等の充実度 (問8 (6))

問8 (6) お住まいの地域では、病院やクリニックが充実していると思いますか。【〇は1つ】

○「(お住まいの地域では) 病院やクリニックが充実していると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は76.9%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(7.9%)を69.0ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-1-9)。

図4-1-9 病院等の充実度(前回比較)



要点

「家庭内での子どもとのコミュニケーション」については比較的十分取れているようですが、「居住地域の子どもとのコミュニケーション」についてはあまり十分ではないようです。

また、安心して子どもを産み育てられることができるまちや、地域の子どもたちがのびのび育っているまちとしての評点に比べて、子育て・教育などについて相談できる人・場所についての評点が低い状況が見受けられます。

全体

○子育て・教育に関する6項目のうち、「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」の評点が4.03と最も高くなっています。その一方で、「お住まいの地域の子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」の評点は2.86と最も低くなっています。

○子どもとのコミュニケーションについて、家庭内での子どもとのコミュニケーションは比較的十分であるが、地域の子どもとのコミュニケーションについてはあまり十分でない状況であるといえます。

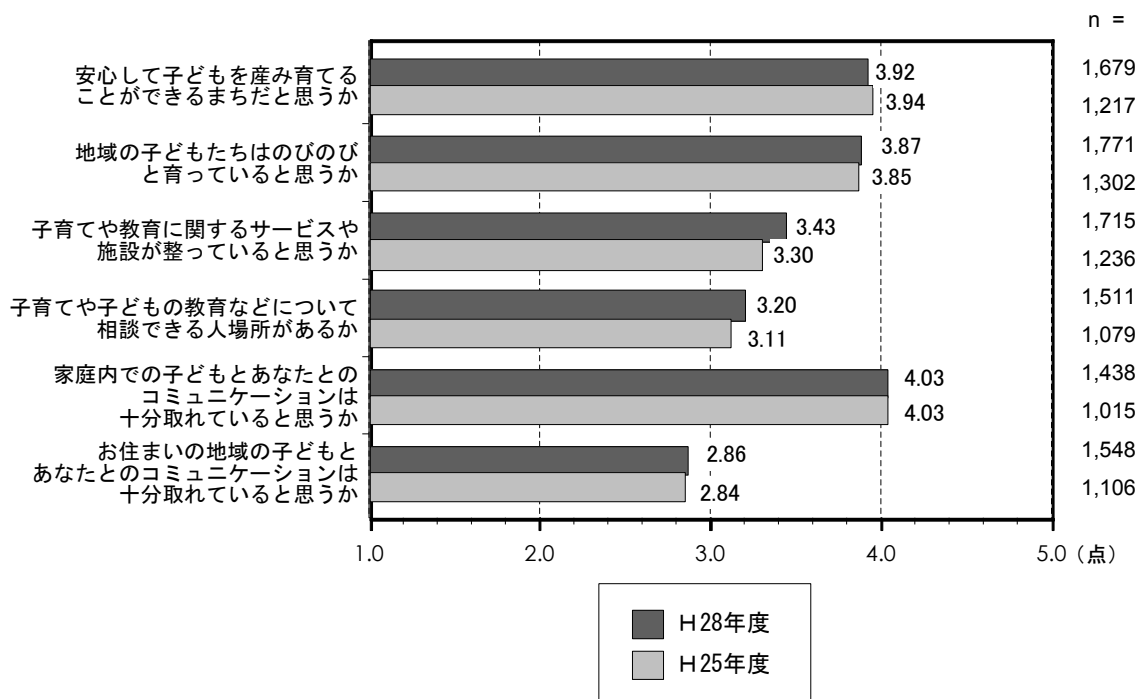
○「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」（4.03）に次いで「安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか」（3.92）と「地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思うか」（3.87）の評点が高くなっています。

○一方、「子育てや子どもの教育などについて相談できる場所があるか」（3.20）と「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」（3.43）の評点は上記の3項目に比べて低くなっています。

○このように、長久手は、安心して子どもを産み育てられるまちや地域の子どもたちがのびのび育っていることについての評点に比べて、子育て・教育に関するサービスや施設、相談できる人・場所の評点は十分な評点が得られていないといえます。

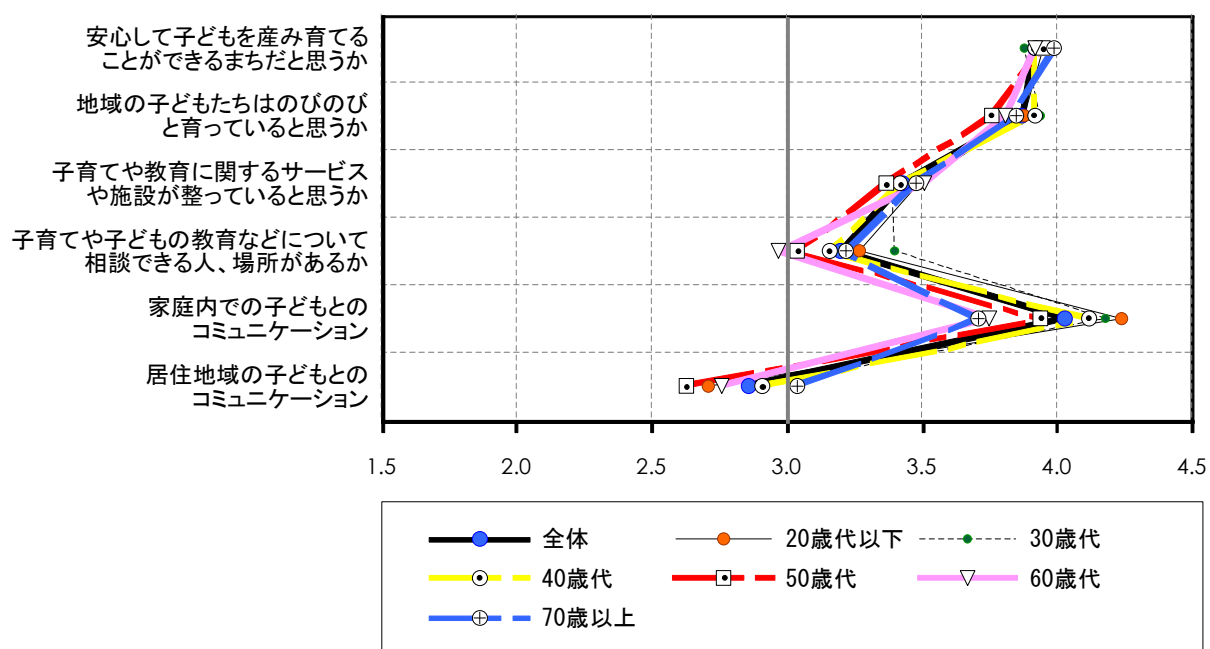
○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-2-1）。

図4-2-1 子育て・教育について（評点：前回比較）



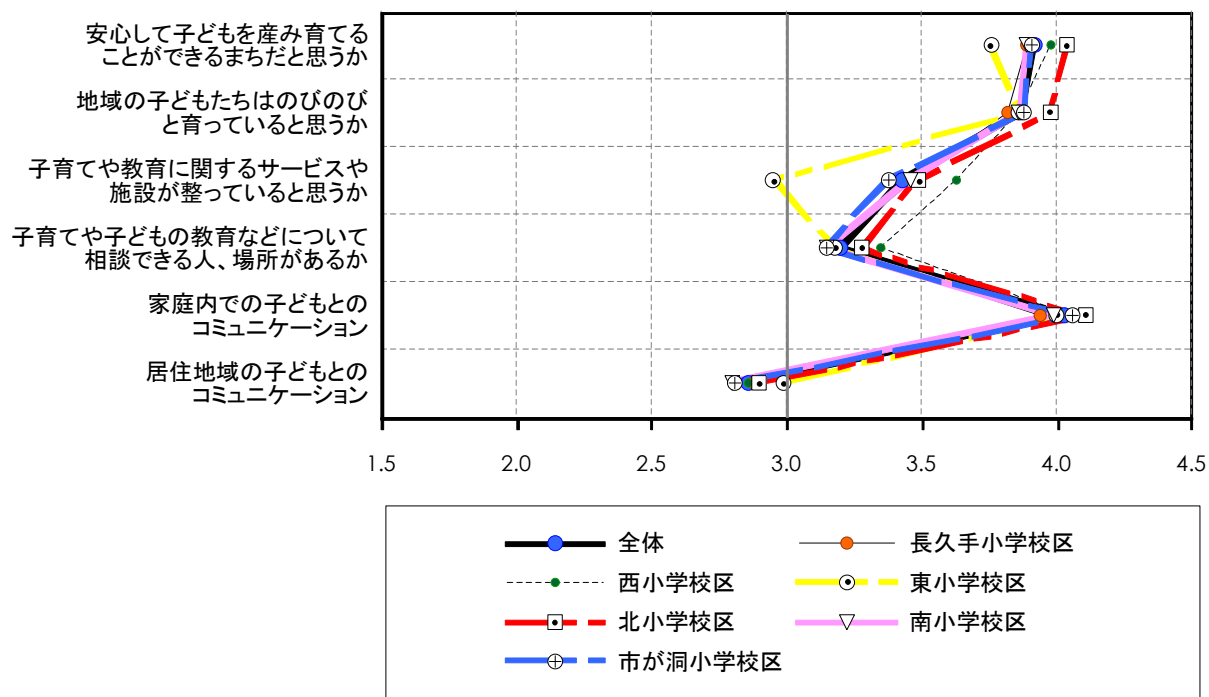
○年齢別にみると、「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」については、20歳代以下（4.24）の評点が高くなっている一方で、70歳代以上（3.71）や60歳代（3.75）、50歳代（3.94）といった、子育て世代ではない中高年層における評点が全体よりも低くなっています（図4-2-2）。

図4-2-2 年齢 「子育て・教育について（評点）」



○小学校区別にみると、東小学校区では「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」(2.95)と「安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか」(3.76)が他の小学校区に比べて若干低くなっています(図4-2-3)。

図4-2-3 小学校区 「子育て・教育について(評点)」



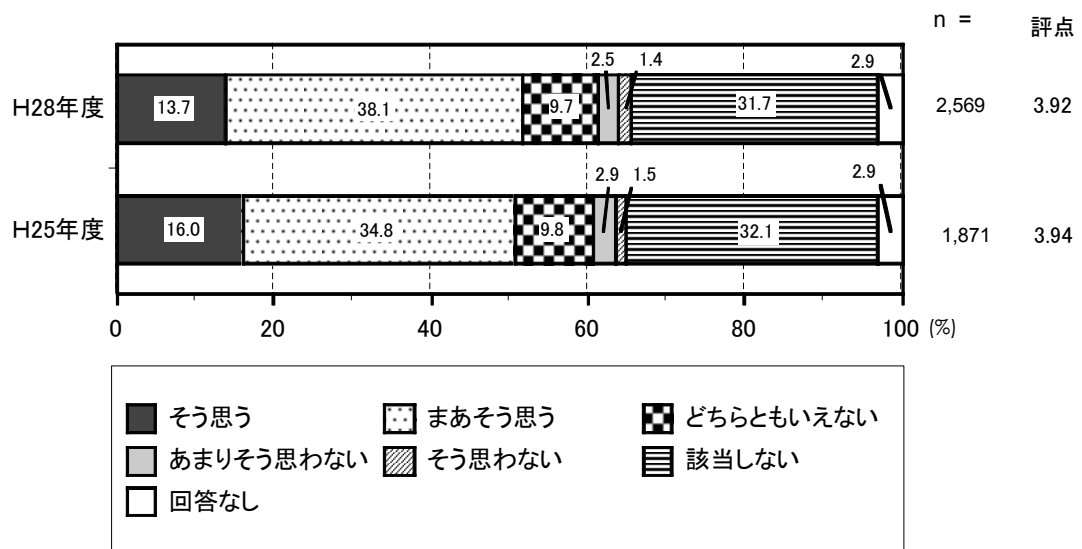
(1) 出産・育児 (問9 (1))

問9 (1) 長久手市は、安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思いますか。【〇は1つ】

○「安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか」について、「そう思う」(13.7%)と「まあそう思う」(38.1%)を合わせた割合は51.8%となっていますが、「該当しない」(31.7%)を除けば75.8%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば5.7%に相当)を70.1ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-2-4)。

図4-2-4 出産・育児 (前回比較)



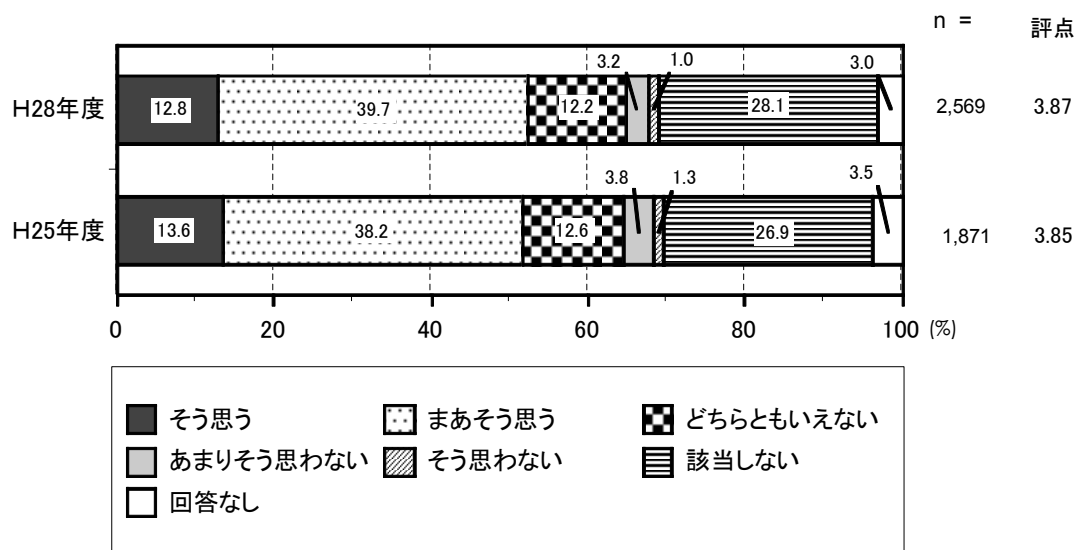
(2) 地域における子どもの成長（問9（2））

問9（2） お住まいの地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思いますか。【〇は1つ】

○「地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は52.5%となっていますが、「該当しない」（28.1%）を除けば73.0%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計（「該当しない」を除けば5.8%に相当）を67.2ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-2-5）。

図4-2-5 地域における子どもの成長（前回比較）



(3) 地域における子育て環境（問9（3））

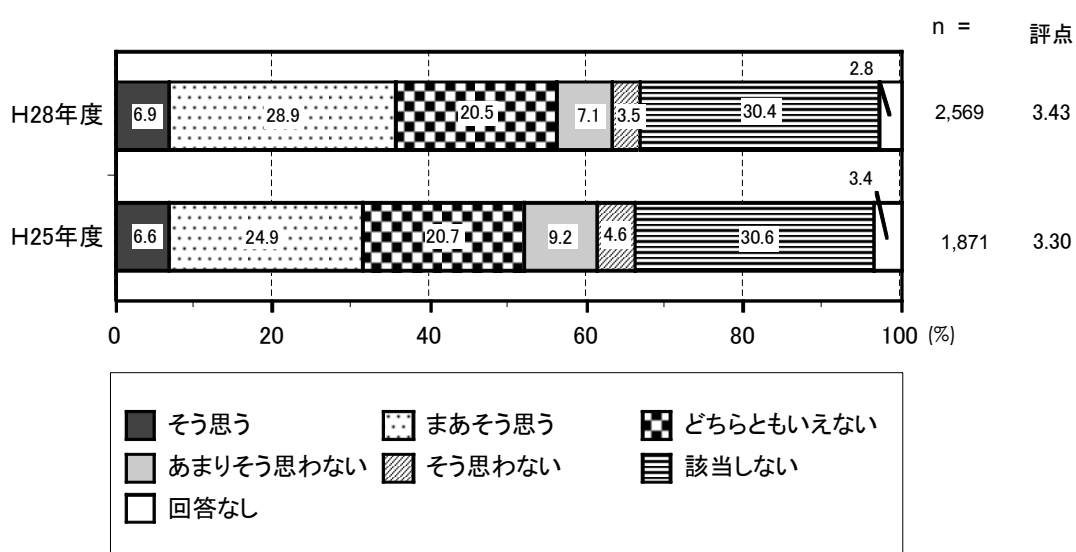
問9（3） お住まいの地域には、子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思いますか。

【〇は1つ】

○「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は35.8%となっていますが、「該当しない」（30.4%）を除けば51.4%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計（「該当しない」を除けば15.2%に相当）を36.2ポイント上回っています。

○平成25年度調査結果と比べて、「まあそう思う」の割合が4.0ポイント高くなっており、わずかながら子育てや教育環境に関するサービスが整っていると感じる人が増えています（図4-2-6）。

図4-2-6 地域における子育て環境（前回比較）



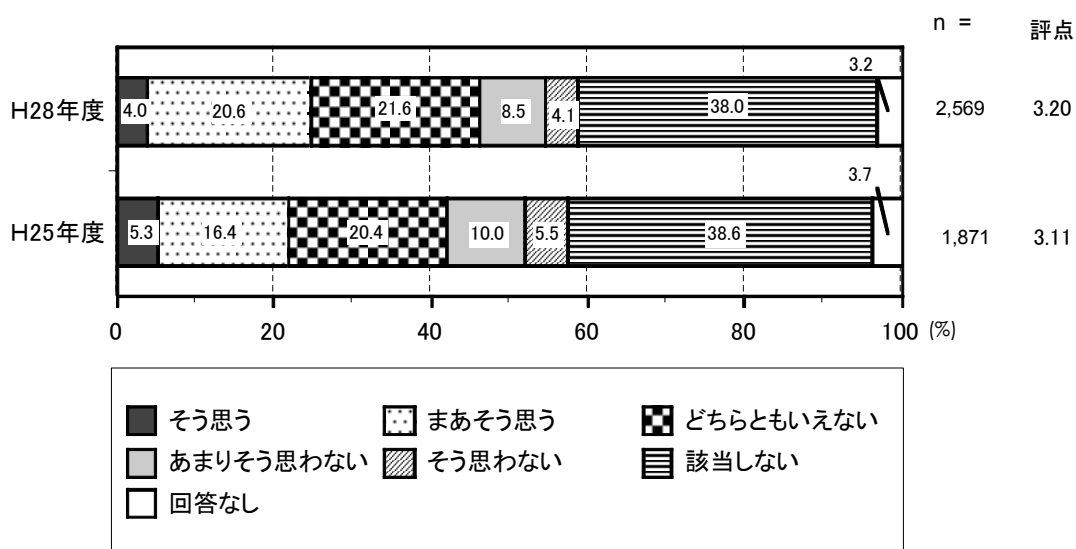
（４）子育て・教育に関する相談（問９（４））

問９（４） お住まいの地域には、子育てや子どもの教育などについて相談できる人がいる、あるいは、相談できる場所がありますか。【〇は１つ】

○「子育てや子どもの教育などについて相談できる人、相談できる場所があると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は24.6%となっていますが、「該当しない」（38.0%）を除けば39.7%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計（「該当しない」を除けば20.3%に相当）を19.4ポイント上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-2-7）。

図4-2-7 子育て・教育に関する相談（前回比較）



(5) 家庭内における子どもとのコミュニケーション (問9 (5) -1)

問9 (5) 子どもとのコミュニケーションは十分取れていると思いますか。【〇は1つ】

①家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーション

(6) 地域における子どもとのコミュニケーション (問9 (5) -2)

問9 (6) 子どもとのコミュニケーションは十分取れていると思いますか。【〇は1つ】

②お住まいの地域の子どものコミュニケーション

○「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は45.3%となっていますが、「該当しない」(41.1%)を除けば76.9%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば4.2%に相当)を72.7ポイントも上回っています(図4-2-8)。

○「お住まいの地域の子どものコミュニケーションが取れていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は17.8%となっていますが、「該当しない」(36.8%)を除けば28.2%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば32.1%に相当)を3.9ポイント下回っています(図4-2-9)。

○このように、家庭内での子どもとのコミュニケーションに比べて、地域の子どものコミュニケーションについては十分でない状況がうかがえます。

○なお、平成25年度調査結果と比べて双方ともほとんど変化はみられません。

図4-2-8 家庭内における子どもとのコミュニケーション (前回比較)

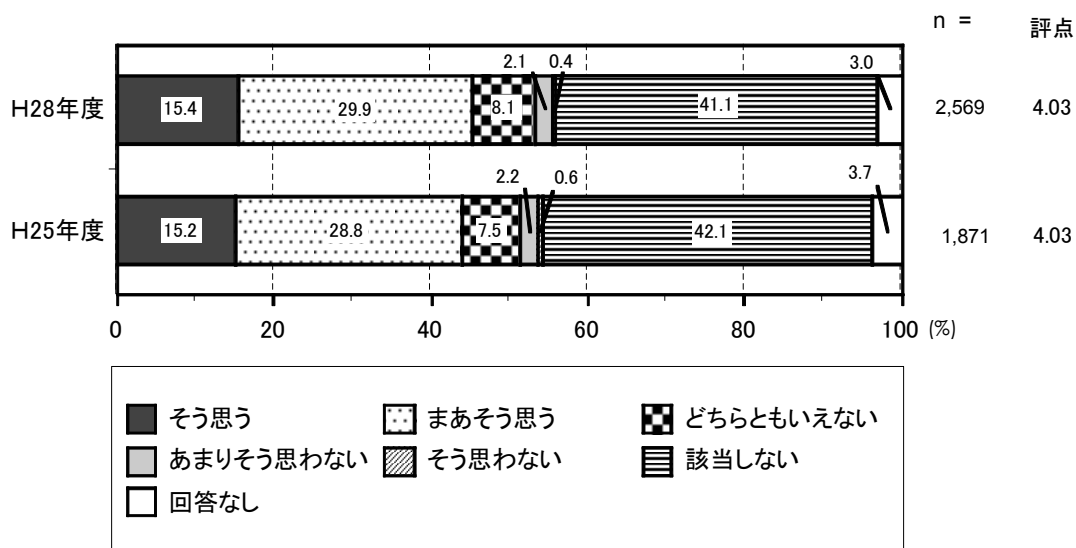
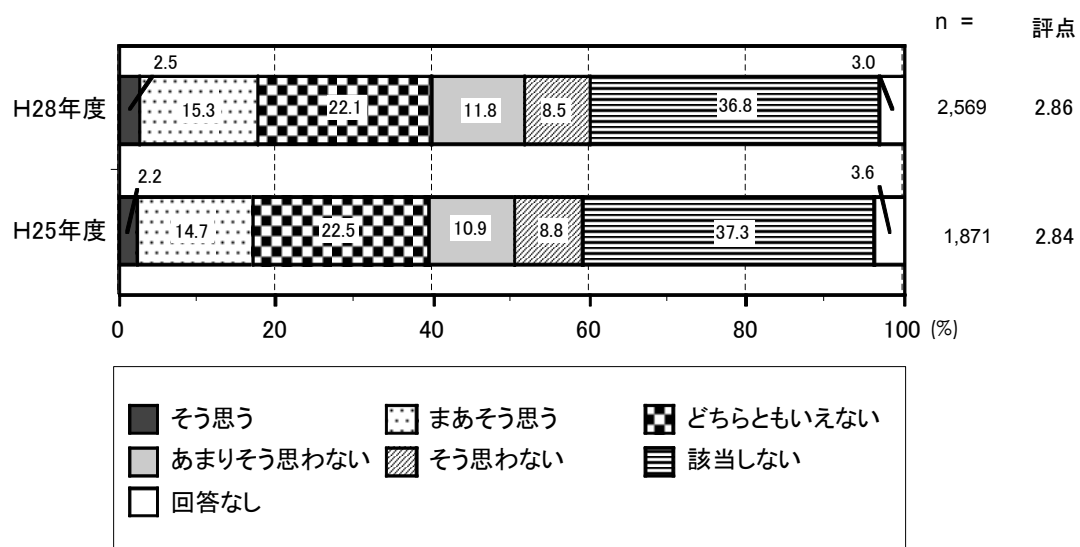


図 4-2-9 地域における子どもとのコミュニケーション（前回比較）



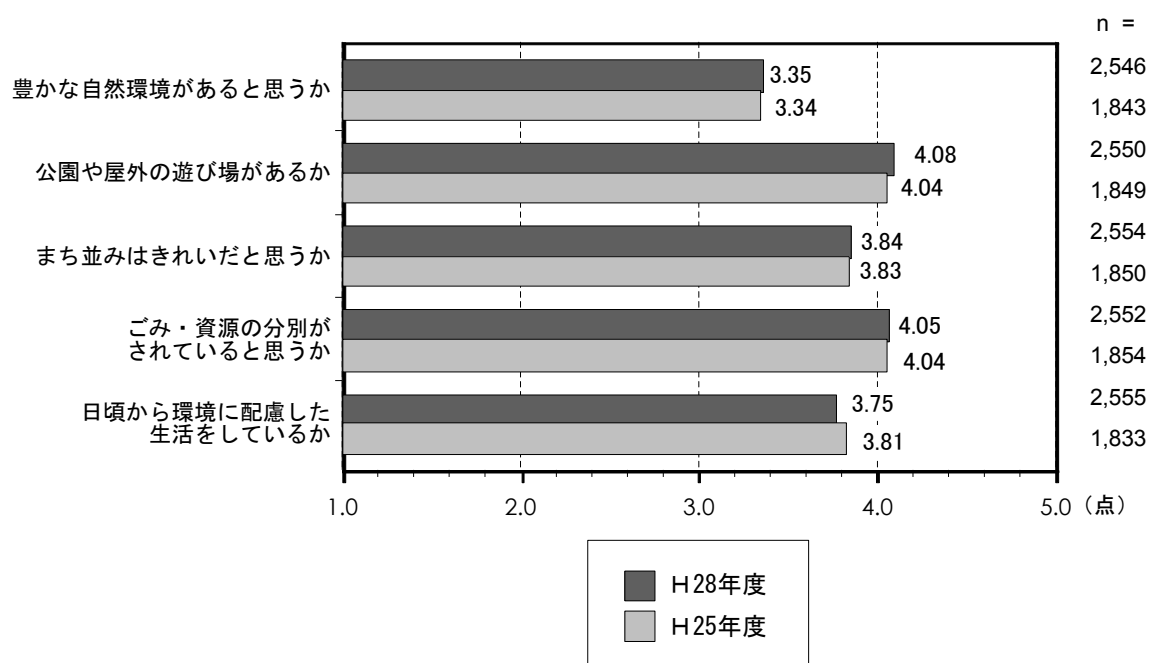
要点

公園や屋外の遊び場、ごみ・資源の分別の実践に対する実感は比較的高くなっています。その一方で、自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど豊かな自然環境があるという実感は、他の項目に比べて低くなっています。

全体

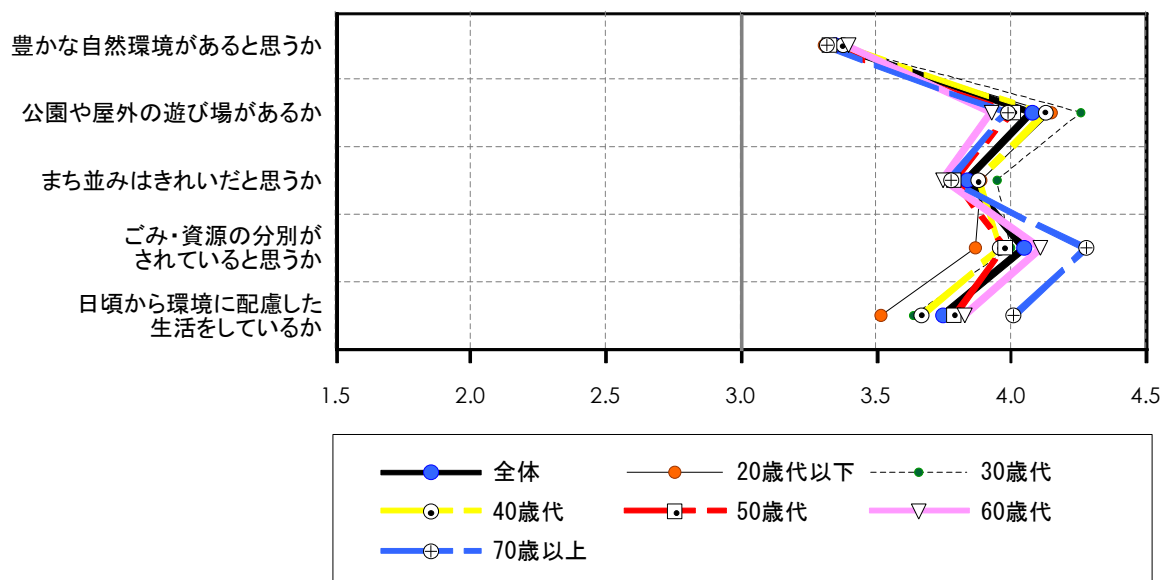
- 自然やごみなどの環境に関する5項目のうち、「公園や屋外の遊び場があると思うか」の評点が4.08と最も高く、次いで「ごみ・資源の分別がされていると思うか」が4.05と高くなっています。
- 一方、「（自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど）豊かな自然環境があると思うか」の評点は3.35と、他の項目に比べて低くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-3-1）。

図4-3-1 自然やごみなどの環境について（評点：前回比較）



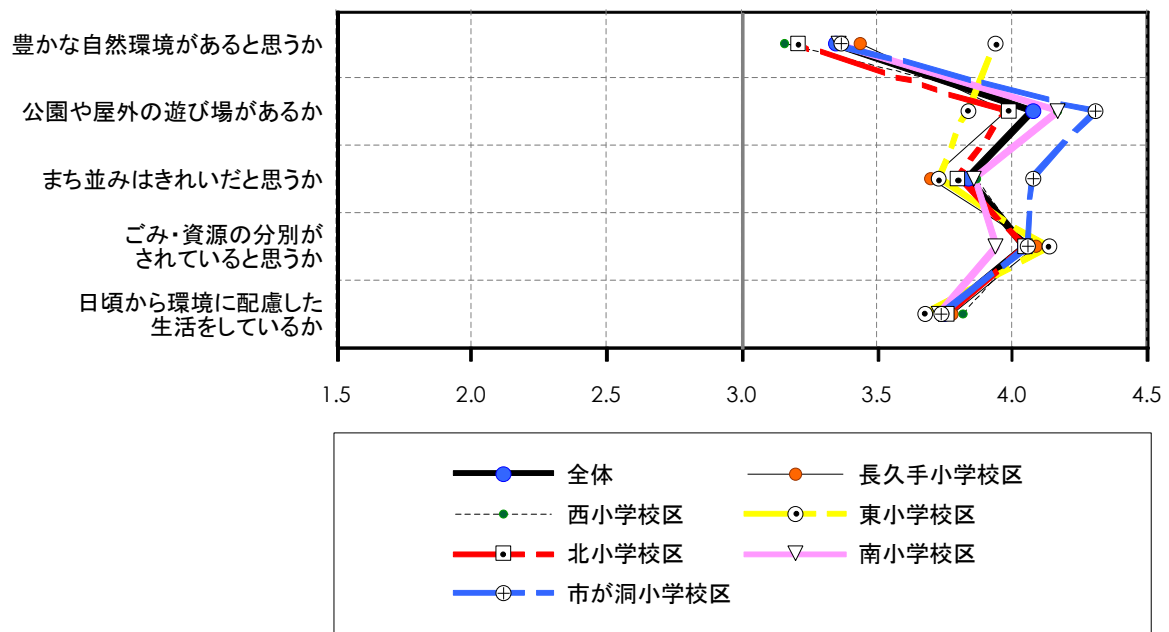
○年齢別にみると、「ごみ・資源の分別がされていると思うか」、「日頃から環境に配慮した生活をしているか」については、70歳以上で高く、20歳代以下で低くなっています。また、「公園や屋外の遊び場があるか」については、30歳代の評点が高くなっています（図4-3-2）。

図4-3-2 年齢 「自然やごみなどの環境について（評点）」



- 小学校区別にみると、「(自然の生き物(動植物)に触れ合うことができるなど) 豊かな自然環境があると思うか」の評点は、東小学校区 (3.94) が他の小学校区に比べて高くなっていることが特徴としてみられます。
- 「公園や屋外の遊び場があると思うか」の評点は、市が洞小学校区 (4.31) や南小学校区 (4.17) 及び西小学校区 (4.17) で高く、東小学校区 (3.84) で若干低くなっています。
- 「まち並みはきれいだと思うか」についても、市が洞小学校区において 4.08 と高くなっています (図 4-3-3)。

図 4-3-3 小学校区 「自然やごみなどの環境について (評点)」



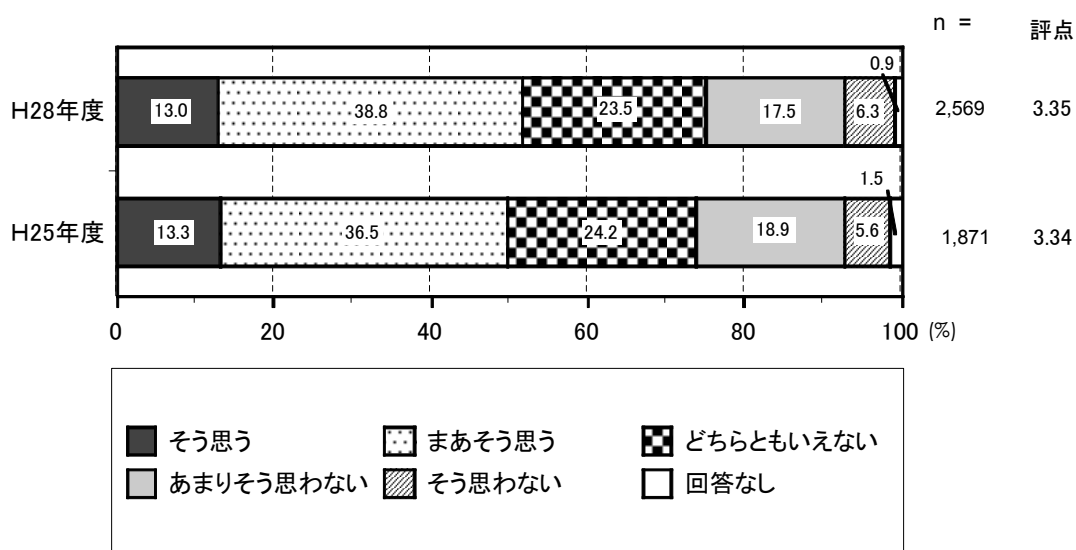
(1) 豊かな自然環境 (問 10 (1))

問 10 (1) お住まいの地域では、自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど、豊かな自然環境があると思いますか。【○は1つ】

○「(自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど) 豊かな自然環境があると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は51.8%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計 (23.8%) を 28.0 ポイント上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-3-4)。

図 4-3-4 豊かな自然環境 (前回比較)



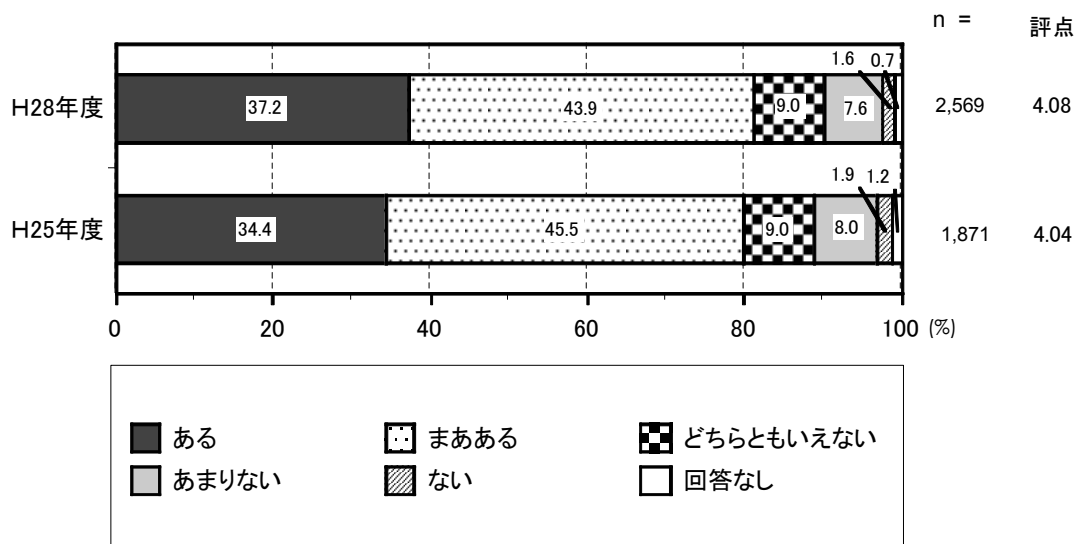
(2) 公園や遊び場 (問 10 (2))

問 10 (2) お住まいの地域には、公園や屋外の遊び場がありますか。【○は1つ】

○「公園や屋外の遊び場があると思うか」について、「ある」と「まあある」を合わせた割合は81.1%となっており、「ない」と「あまりない」の合計 (9.2%) を 71.9 ポイントも上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-3-5)。

図 4-3-5 公園や遊び場 (前回比較)



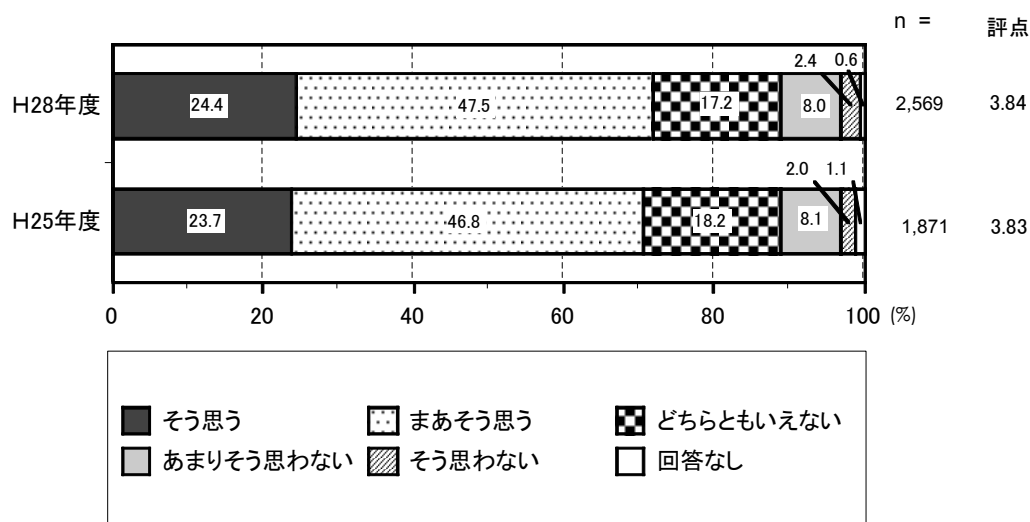
(3) 街並み（景観・風景）（問 10 (3)）

問 10 (3) お住まいの地域のまち並み（景観・風景）はきれいだと思いませんか。【〇は 1 つ】

○「まち並み（景観・風景）はきれいだと思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は 71.9% となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計（10.4%）を 61.5 ポイントも上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-3-6）。

図 4-3-6 街並み（前回比較）



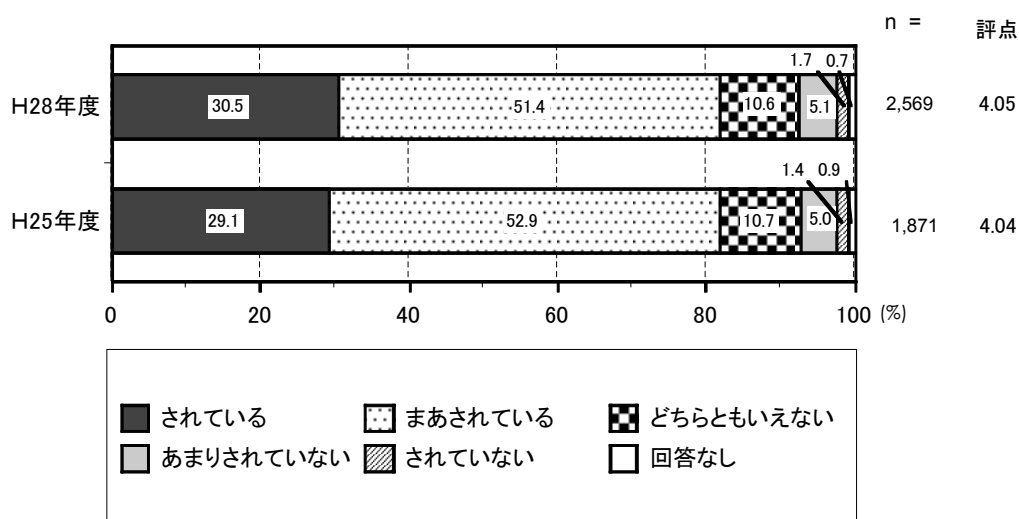
(4) ごみの分別（問 10 (4)）

問 10 (4) お住まいの地域では、ルールにしたがって、ごみ・資源の分別がされていると思いませんか。【〇は 1 つ】

○「ルールにしたがってごみ・資源の分別がされていると思うか」について、「されている」と「まあされている」を合わせた割合は 81.9% となっており、「あまりされていない」と「されていない」の合計（6.8%）を 75.1 ポイントも上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-3-7）。

図 4-3-7 ごみの分別（前回比較）

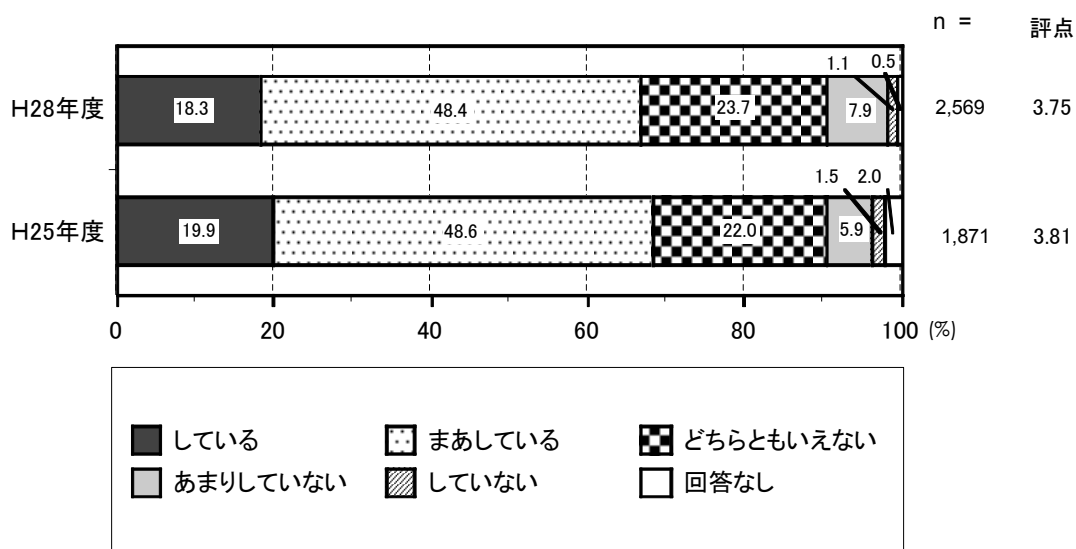


（５）環境に配慮した生活（問 10（５））

問 10（５） 節電や節水、環境に配慮した製品の購入など、日頃から環境に配慮した生活をしていますか。【○は１つ】

- 「節電や節水、環境に配慮した製品の購入など日頃から環境に配慮した生活をしていると思うか」について、「している」と「まあしている」を合わせた割合は66.7%となっており、「あまりしていない」と「していない」の合計（9.0%）を57.7ポイントも上回っています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-3-8）。

図 4-3-8 環境に配慮した生活（前回比較）



4-4 人や地域のつながりについて（問 11）

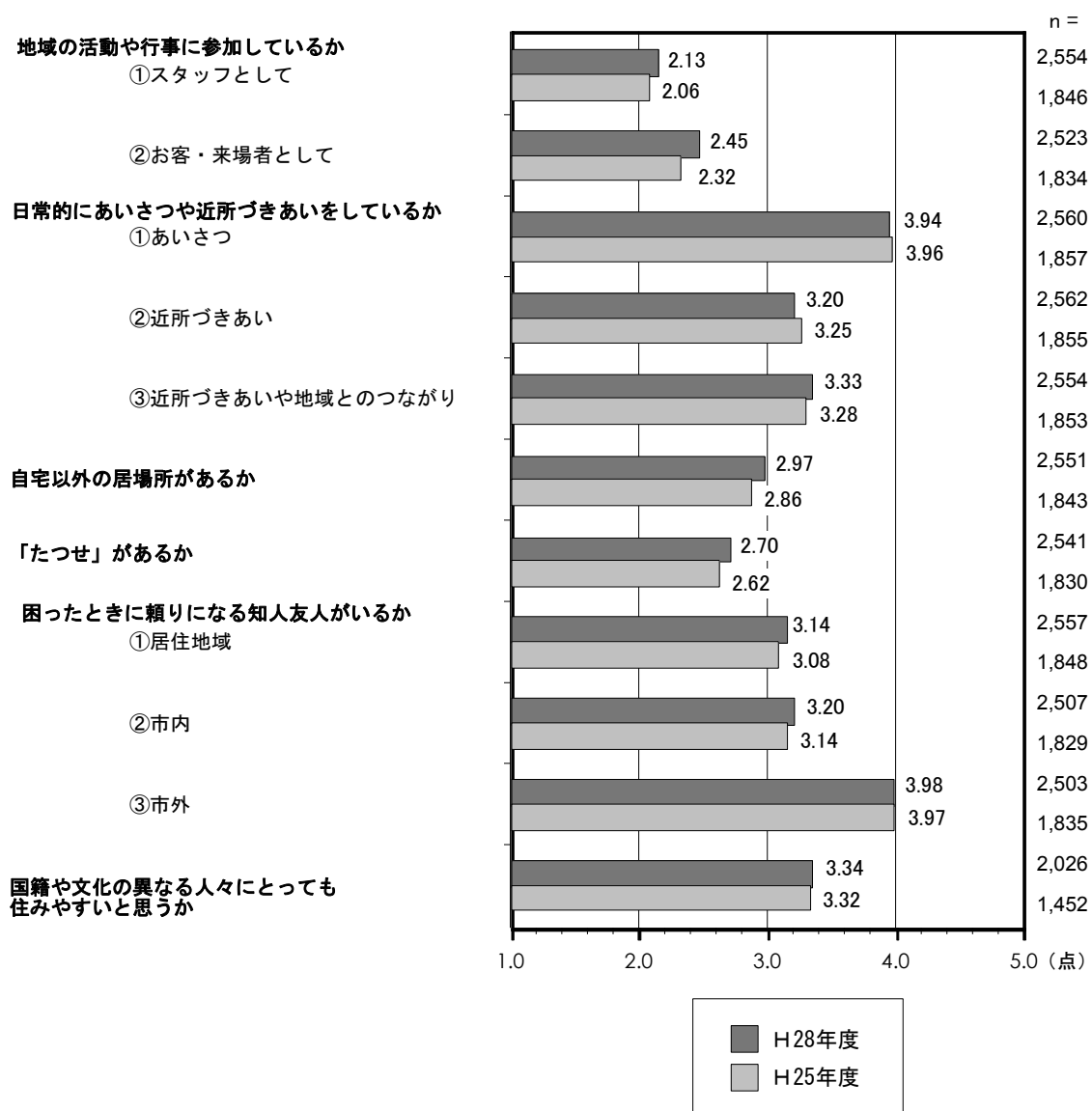
要点

日常的に「あいさつ」をしている人の評点は高いものの、地域を盛り上げていくための「地域の活動や行事に参加しているか」や、「たつせ」があるか」の評点は低く、「人や地域のつながりについて」の分野は、他の分野に比較して全般的に評点が低くなっています。特に、地域活動や行事への参加、近所づきあいについては、20 歳代以下や 30 歳代などの若年層の評点が低くなっています。また、「困ったときに頼りになる友人や知人がいるか」では、「市外」の評点が高くなっています。

全体

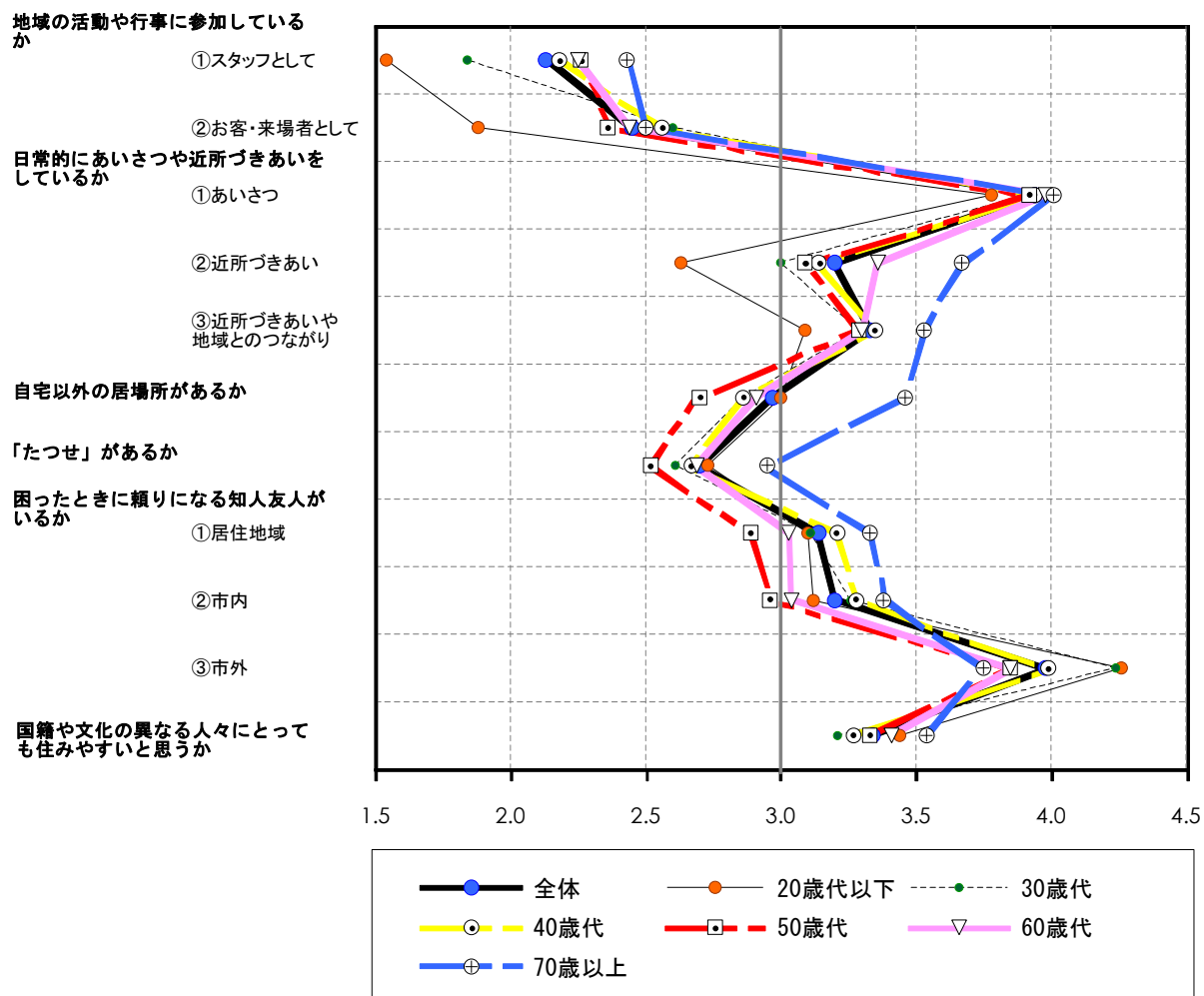
- 他の分野に比べると全般的に評点が低く、特に、「地域の活動や行事に参加しているか」における「スタッフとして」（2.13）や「お客・来場者として」（2.45）、「たつせ」があるか」（2.70）、「自宅以外の居場所がある」（2.97）などの評点が低くなっています。
- 「困ったときに頼りになる友人や知人がいるか」については、「お住まいの地域」や「市内」に比べて「市外」の評点の方が高くなっています。
- 平成 25 年調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-4-1）。

図 4-4-1 人や地域のつながりについて（評点：前回比較）



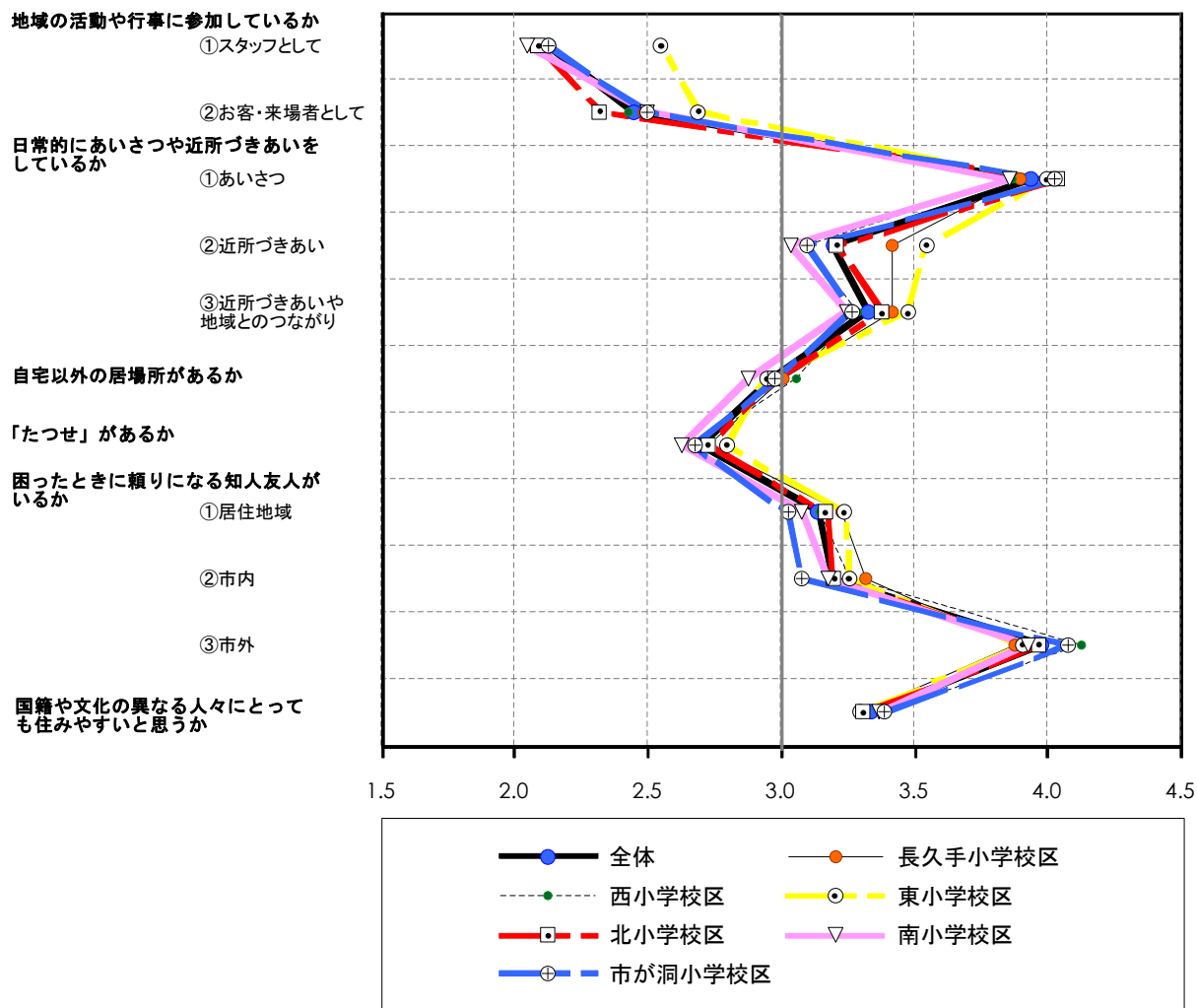
- 「地域の活動や行事に参加しているか」や「近所づきあい」については、20歳代以下や30歳代など若年層よりも60歳代や70歳以上の高齢者層の評点の方が高くなっています。
- 「自宅以外の居場所があるか」、「たつせ」があるか、「困ったときに頼りになる知人友人がいるか」（そのうち「居住地域」と「市内」）については、50歳代の評点が低くなっています（図4-4-2）。

図4-4-2 年齢 「人や地域のつながりについて（評点）」



○東小学校区では、「地域の活動や行事に参加しているか」のうち「スタッフとして」の評点が2.55となっており、他の校区と比較すると高くなっています。また、「日常的にあいさつや近所づきあいをしているか」のうち「近所づきあい」及び「近所づきあいや地域とのつながり」の評点も、他の校区と比較すると高くなっています（図4-4-3）。

図4-4-3 小学校区 「人や地域のつながりについて（評点）」



(1) 地域を盛り上げていく活動や行事への参加－1 (問11 (1) -1)

問11 (1) -1 過去3年以内に、お住まいの地域を良くしたり、地域を盛り上げたりしていくための活動や行事に参加していますか。【〇は1つ】

①スタッフとして

(2) 地域を盛り上げていく活動や行事への参加－2 (問11 (1) -2)

問11 (1) -2 過去3年以内に、お住まいの地域を良くしたり、地域を盛り上げたりしていくための活動や行事に参加していますか。【〇は1つ】

②お客・来場者として

○「地域の活動や行事に参加しているか」について、スタッフとして「参加している」と「まあ参加している」を合わせた割合は22.0%、「参加していない」と「あまり参加していない」の合計は68.1%であり、参加している人の割合は少なくなっています(図4-4-4)。

○お客・来場者として「参加している」と「まあ参加している」を合わせた割合は28.0%となっています(図4-4-5)。

○平成25年度調査結果と比べると、お客・来場者として「参加している」の割合がわずかながら増えていきます。

図4-4-4 地域を盛り上げていく活動や行事への参加－スタッフとして (前回比較)

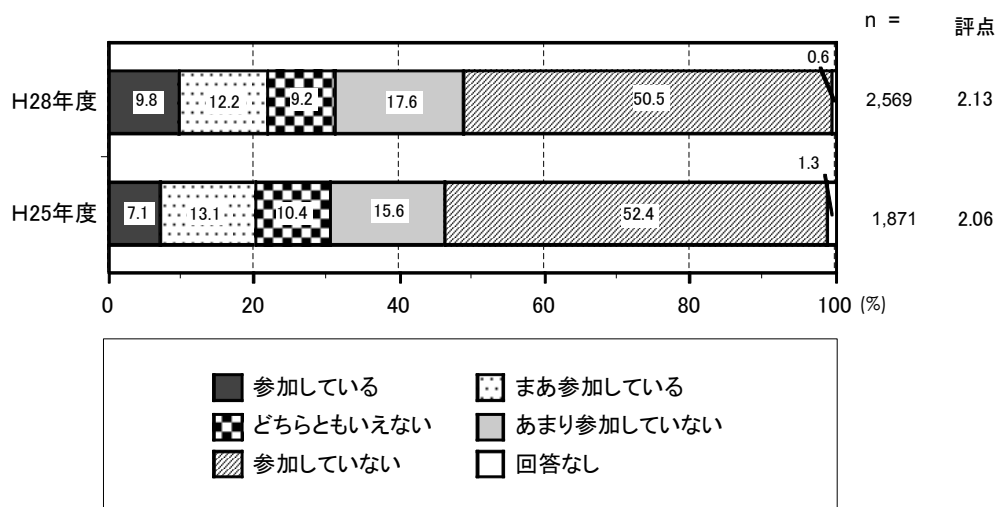
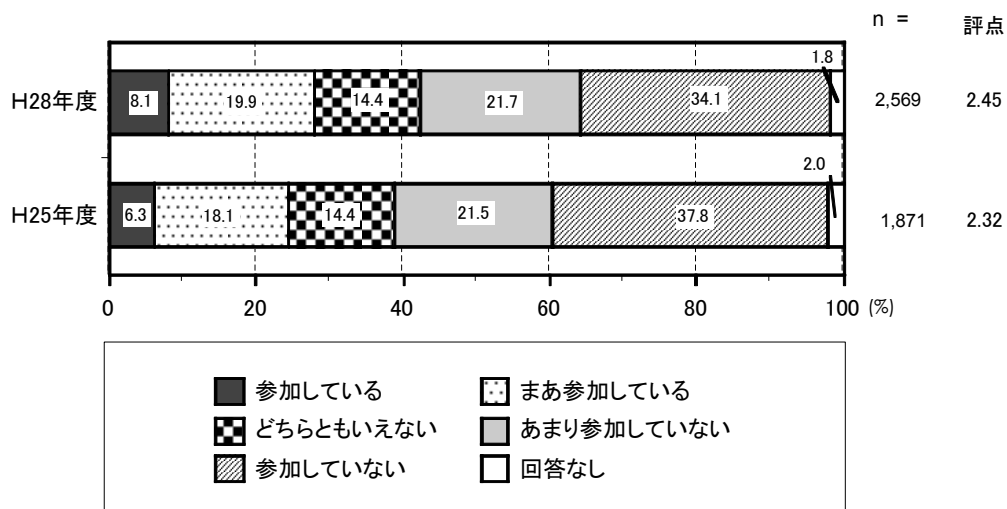


図4-4-5 地域を盛り上げていく活動や行事への参加－お客・来場者として (前回比較)



(3) あいさつや近所づきあい—1 (問11 (2) -1)

問11 (2) -1 日常的にあいさつや近所づきあいをしていますか。また、近所づきあいや地域とのつながりに満足していますか。【○は1つ】

① あいさつ

(4) あいさつや近所づきあい—2 (問11 (2) -2)

問11 (2) -2 日常的にあいさつや近所づきあいをしていますか。また、近所づきあいや地域とのつながりに満足していますか。【○は1つ】

② 近所づきあい

(5) あいさつや近所づきあい—3 (問11 (2) -3)

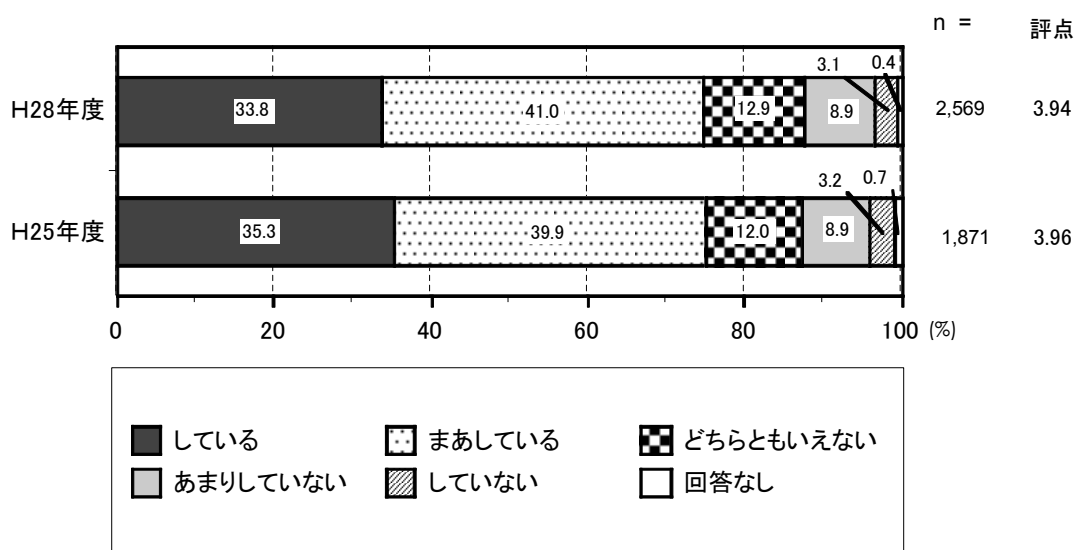
問11 (2) -3 日常的にあいさつや近所づきあいをしていますか。また、近所づきあいや地域とのつながりに満足していますか。【○は1つ】

③ 近所づきあいや地域とのつながり

○日常的な「あいさつ」について、「している」と「まあしている」を合わせると74.8%と多くなっています。

○平成25年度調査結果と比べるとほとんど変化はみられません (図4-4-6)。

図4-4-6 あいさつや近所づきあい—あいさつ (前回比較)



○一方で「近所づきあい」について、「している」と「まあしている」を合わせた割合が47.8%と、ほぼ半数にとどまっています（図4-4-7）。

○また、「近所づきあいや地域とのつながり」の満足度について、「している」は8.0%と少なく、「まあしている」（34.0%）を合わせても42.0%にとどまっています（図4-4-8）。

○どちらも平成25年度調査結果と比べるとほとんど変化はみられません。

図4-4-7 あいさつや近所づきあいー近所づきあい（前回比較）

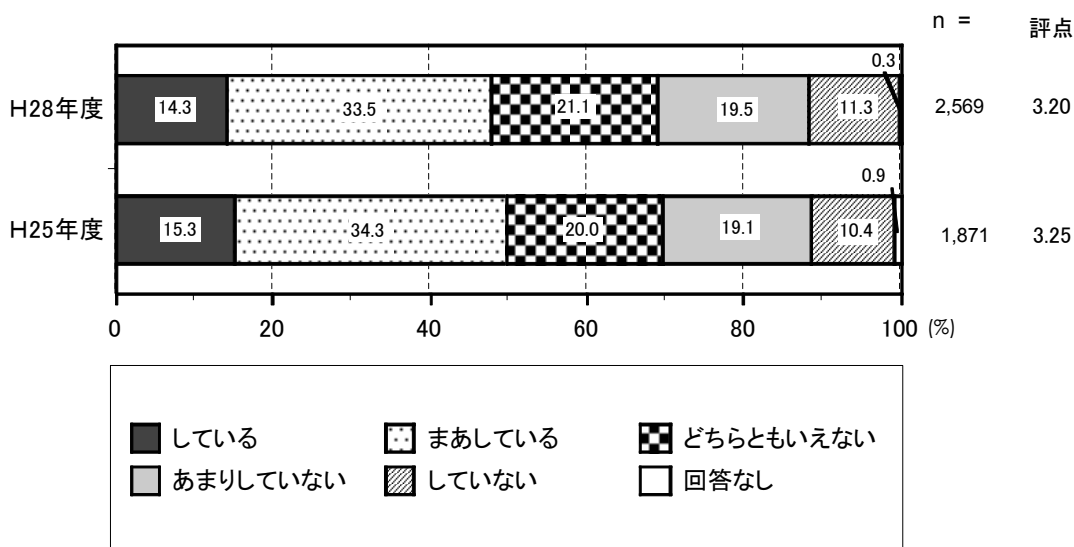
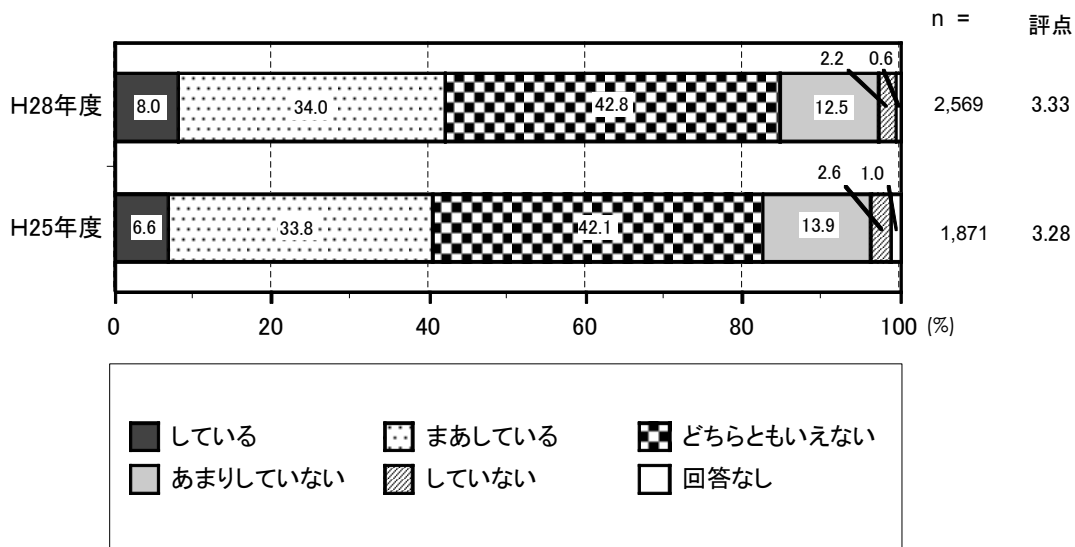


図4-4-8 あいさつや近所づきあいー近所づきあいや地域とのつながり（前回比較）



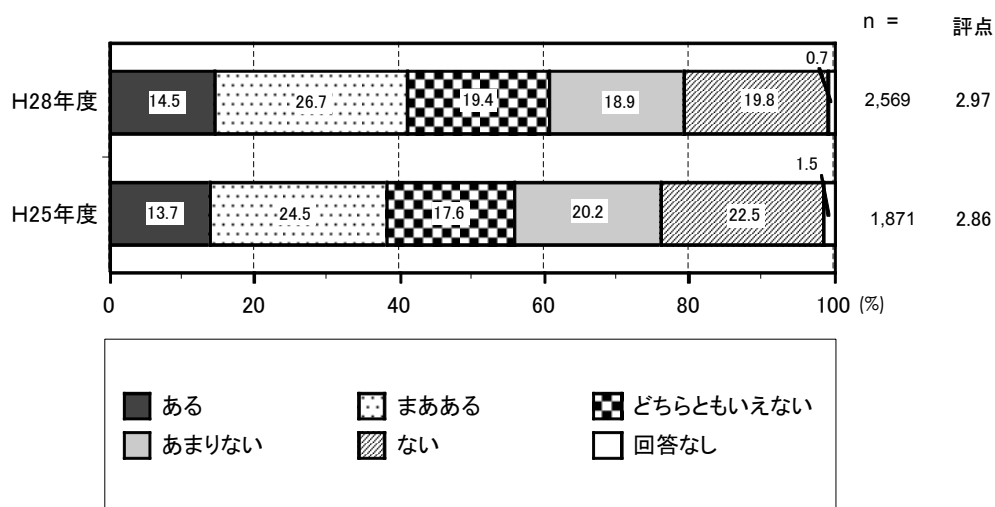
（６）自宅以外の居場所（問 11（３））

問 11（３） お住まいの地域には、自宅以外の居場所がありますか（集える場所、行きつけのお店など）。【○は１つ】

○自宅以外の居場所について、「まあある」26.7%と最も多く、「ある」(14.5%) と合わせると 41.2%の人が自宅以外の地域の居場所があると回答しています。一方で、「あまりない」(18.9%) と「ない」(19.8%) と合わせると 38.7%となっており、自宅以外の居場所があると答えた人とはほぼ同じ割合となっています。

○平成 25 年度調査結果と比べると、わずかながら、自宅以外の居場所がない人が減り、自宅以外の居場所があると答えた人が増えています（図 4-4-9）。

図 4-4-9 自宅以外の居場所（前回比較）



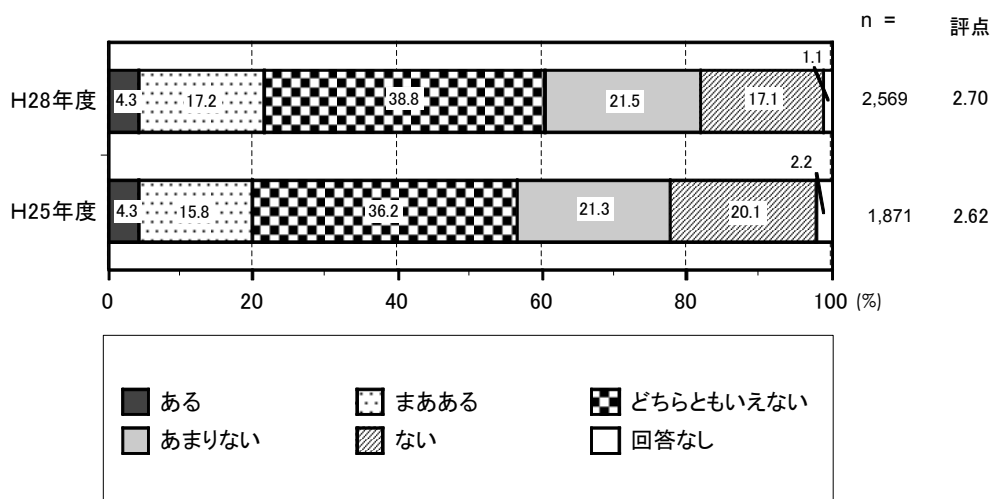
（７）「たつせ」があるか（問 11（４））

問 11（４） お住まいの地域であなたは「たつせ」がありますか。【○は１つ】

○「どちらともいえない」が 38.8%と最も多く、「あまりない」(21.5%) や「ない」(17.1%) と回答した人が多くなっています。

○「ある」は 4.3%と少なく、「まあある」(17.2%) と合わせても 2 割弱にとどまっています（図 4-4-10）。

図 4-4-10 「たつせ」があるか（前回比較）



(8) 困ったときに頼りになる相談相手—1 (問11 (5) -1)

問11 (5) -1 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。【○はそれぞれ1つ】

① 住まいの地域

(9) 困ったときに頼りになる相談相手—2 (問11 (5) -2)

問11 (5) -2 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。【○はそれぞれ1つ】

② 市内

(10) 困ったときに頼りになる相談相手—3 (問11 (5) -3)

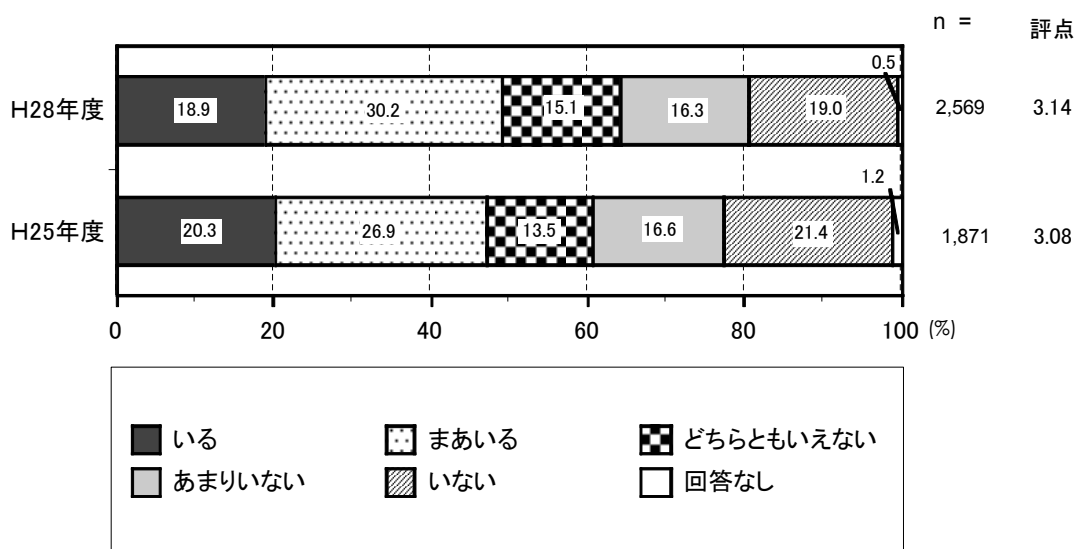
問11 (5) -3 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。【○はそれぞれ1つ】

③ 市外

○「困ったときに頼りになる友人や知人がいるか」のうち「お住まいの地域」については、「いる」(18.9%)と「まあいる」(30.2%)の合計が49.1%となっています。

○平成25年度調査と比べるとほとんど変化はみられません(図4-4-11)。

図4-4-11 困ったときに頼りになる相談相手—住まいの地域 (前回比較)



○困ったときに頼りになる友人や知人が「いる」と「まあいる」の合計は、「市内」では49.6%、「市外」では74.0%となっており、「市外」の割合が多くなっています（図4-4-12、図4-4-13）。

○どちらも平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません。

図4-4-12 困ったときに頼りになる相談相手—市内（前回比較）

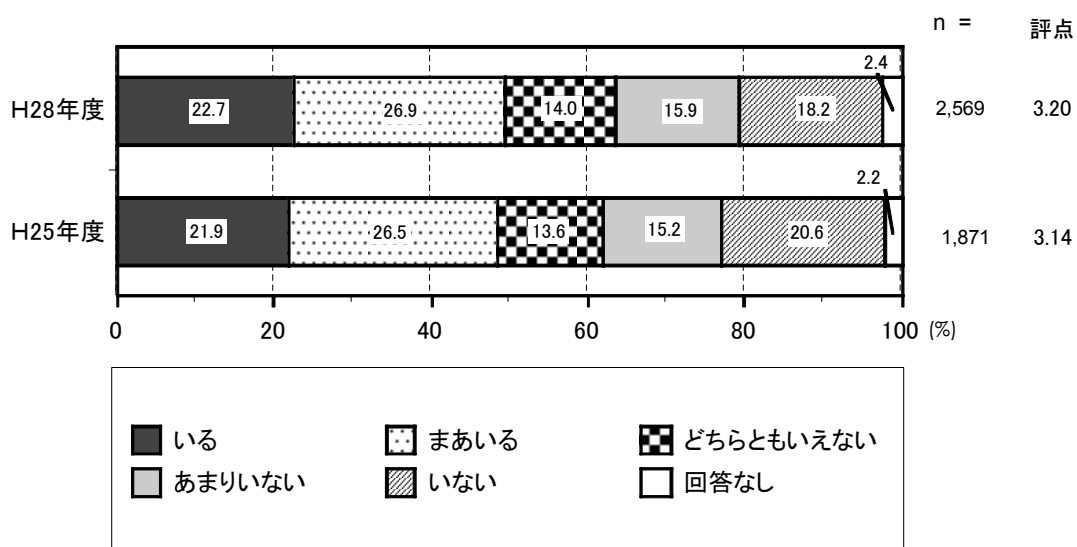
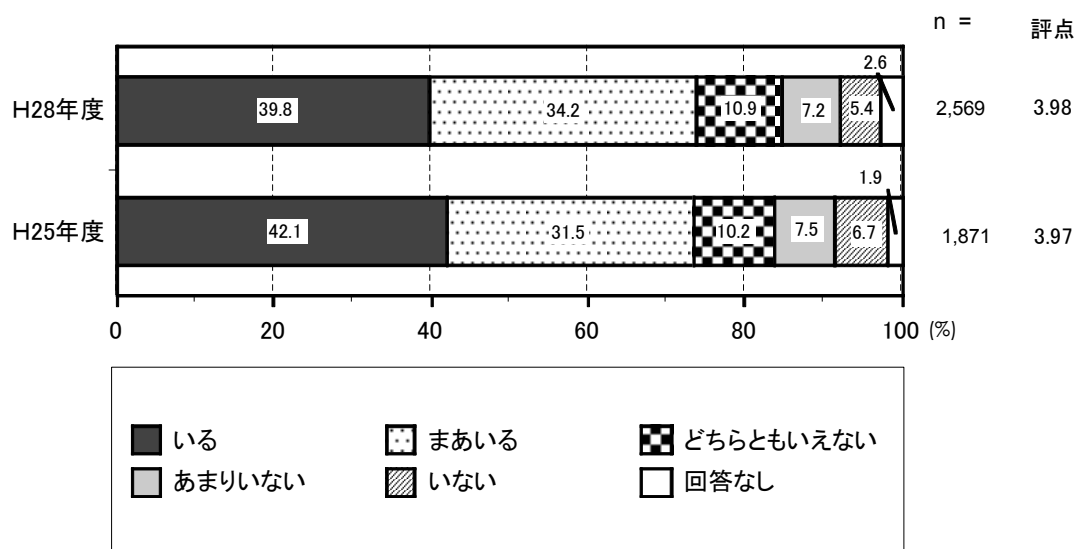


図4-4-13 困ったときに頼りになる相談相手—市外（前回比較）

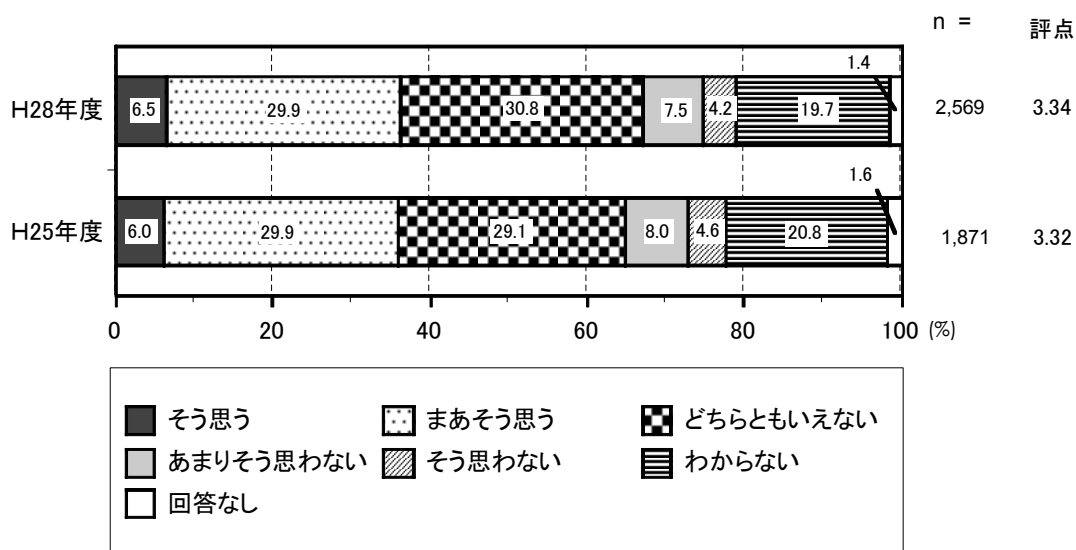


(11) 国籍・文化の異なる人にとっての住みやすさ (問 11 (6))

問 11 (6) 長久手市は、国籍や文化の異なる人々にとっても住みやすいと思いますか。【〇は1つ】

- 「国籍・文化の異なる人にとっての住みやすさ」について、「まあそう思う」が 29.9%と多く、「そう思う」(6.5%) と合わせて 36.4%の人が住みやすいと考えています。
- 一方で、「どちらともいえない」(30.8%) や「わからない」(19.7%) も多く、こうした問題に関する市民の関心や認知度が低いことが考えられます。
- 平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-4-14)。

図 4-4-14 国籍・文化の異なる人にとっての住みやすさ (前回比較)



要点

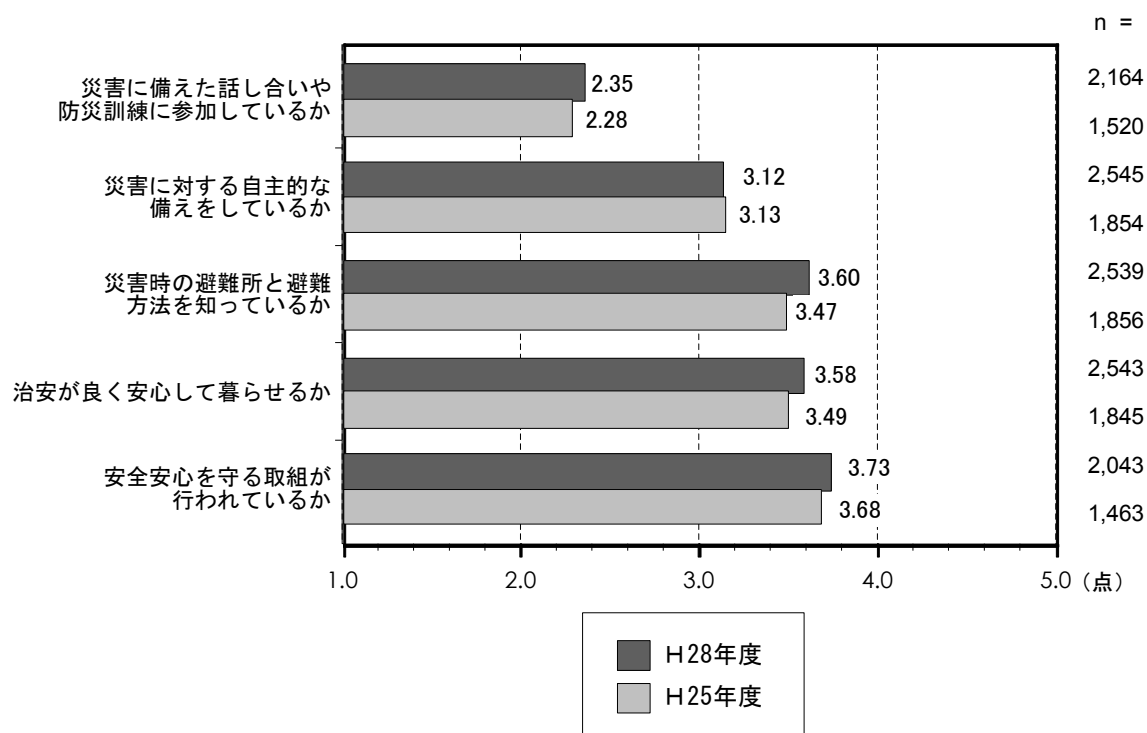
防災・防犯について「安全安心を守る取組が行われているか」の評点が最も高く、そのほかの項目も高い一方で、「災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか」の評点が、他の項目に比べて低くなっています。

また、「災害時に対する自主的な備えをしているか」や「災害時の避難場所と避難方法を知っているか」では、20 歳代以下の評点が低くなっています。

全体

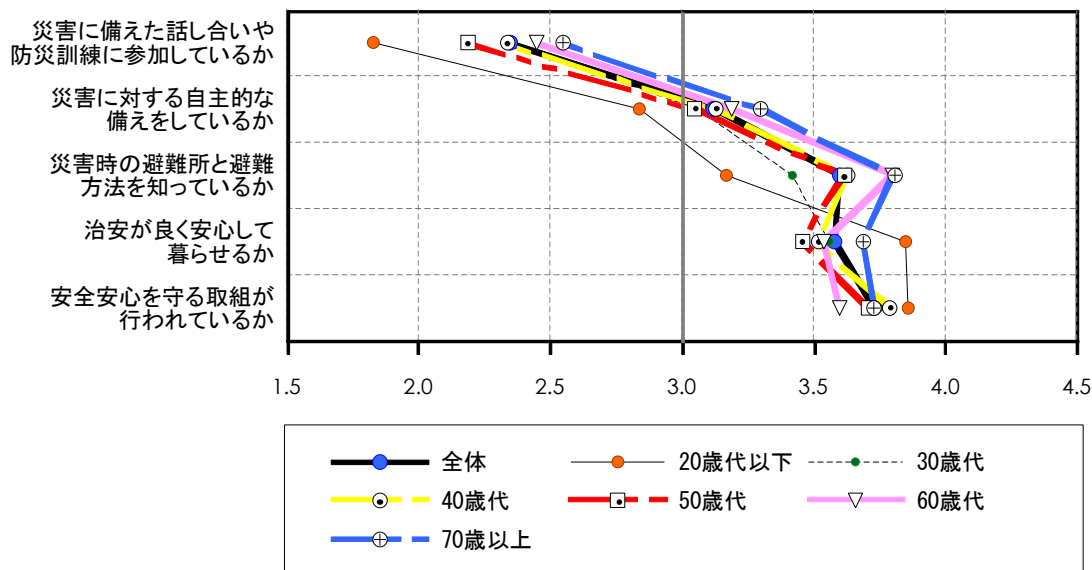
- 「安全安心な取組が行われているか」の評点が 3.73 と最も高く、次いで「災害時の避難所と避難方法を知っているか」(3.60) や「治安がよく、安心して暮らせるか」(3.58) の順で高くなっています。
- 一方で、「災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか」の評点が 2.35 と最も低くなっています。
- 平成 25 年度調査結果と比べると、「災害時の避難所と避難方法を知っているか」が 0.13 ポイント上昇している以外は、ほとんど変化はみられません（図 4-5-1）。

図 4-5-1 防災・防犯について（評点：前回比較）



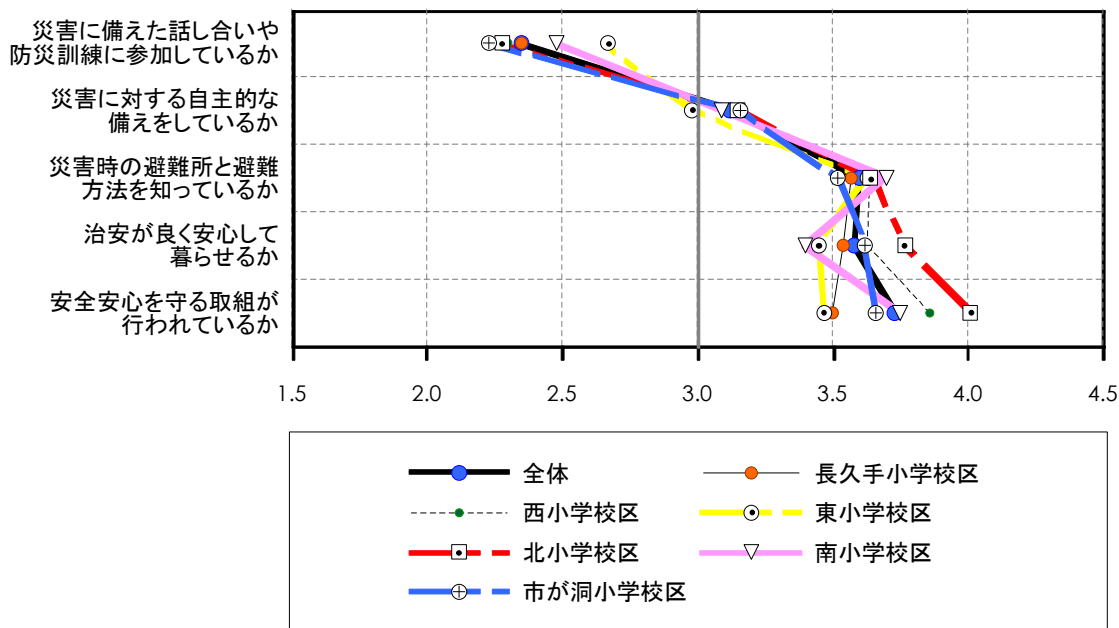
- 防災対策の項目については、年齢が若くなるにつれて評点は低くなっており、特に20歳代以下の評点が低くなっています。具体的には、20歳代以下の評点は、「災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか」では1.83と極めて低く、そのほか「災害に対する自主的な備えをしているか」では2.84、「災害時の避難所と避難方法を知っているか」では3.17となっています。
- 一方で、「治安が良く安心して暮らせるか」や「安全安心を守る取組が行われているか」については、年齢差はほとんどみられませんが、20歳代以下の評点がやや高くなっています（図4-5-2）。

図4-5-2 年齢 「防災・防犯について（評点）」



- 全般的に、小学校区別に大きな違いはみられません。
- ただし、北小学校区では「安全安心を守る取組が行われているか」の評点4.01で、他の小学校区よりも若干高くなっています（図4-5-3）。

図4-5-3 小学校区 「防災・防犯について（評点）」



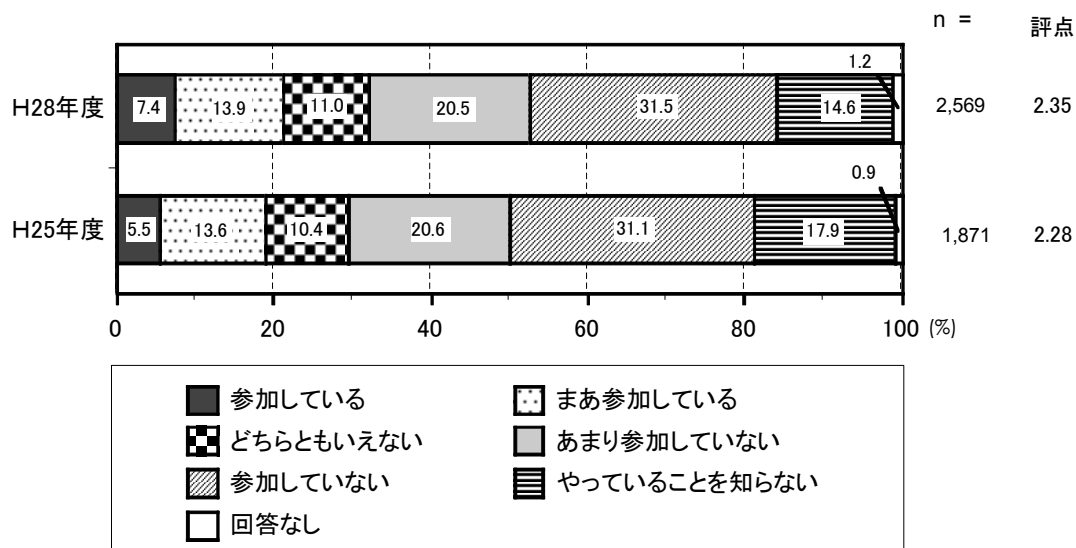
（１）災害に備えた話し合いや防災訓練への参加（問 12（1））

問12（１） お住まいの地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に参加していますか。【○は1つ】

○「参加していない」が31.5%で最も多く、次いで「あまり参加していない」(20.5%) や「やっていることを知らない」(14.6%) が多くなっている一方で、「参加している」と「まあ参加している」の合計は21.3%にとどまっています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-5-4）。

図 4-5-4 災害に備えた話し合いや防災訓練への参加（前回比較）



（２）家庭内での災害に対する自主的備え（問 12（２））

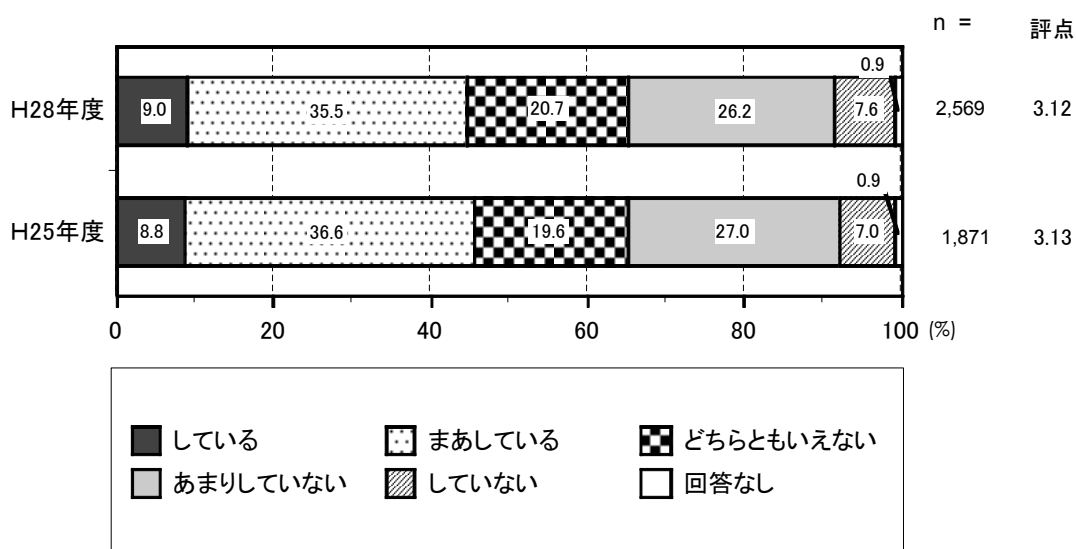
問 12（２） あなたの家庭では、災害に対する自主的な備えをしていますか。【○は 1 つ】

○「まあしている」が 35.5%と最も多く、「している」(9.0%) と合わせて 44.5%が家庭での自主的な災害対策をしていることがわかります。

○一方で、「あまりしていない」(26.2%) と「していない」(7.6%) を合わせると 33.8%あり、「どちらともいえない」も 20.7%あります。今後も、家庭における災害対策の必要性を普及啓発していくことが必要であるといえます。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-5-5）。

図 4-5-5 家庭内での災害に対する自主的備え（前回比較）



(3) 災害時における避難場所、避難方法の周知（問 12 (3)）

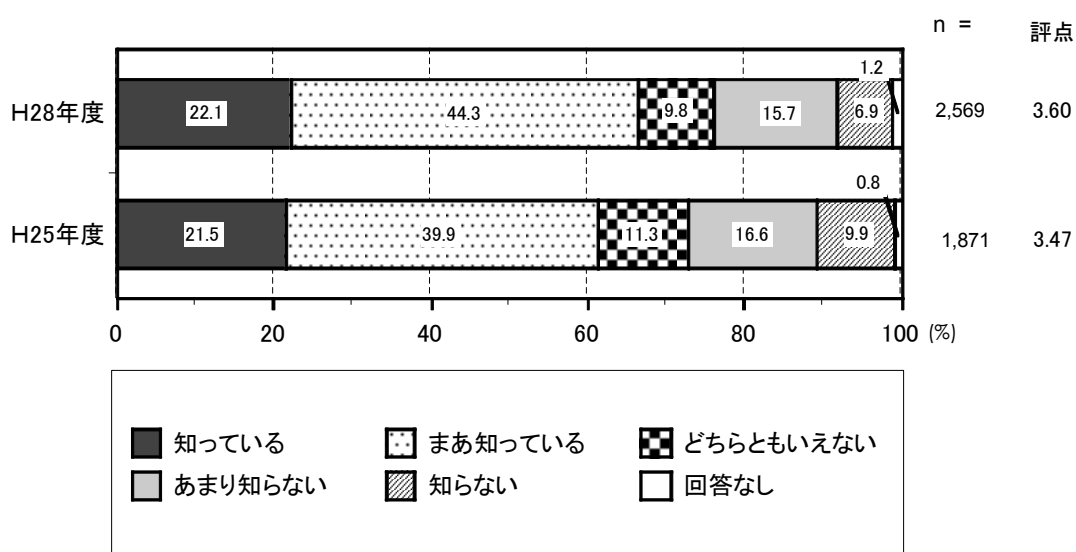
問 12 (3) 災害時の避難所と避難方法を知っていますか。【○は1つ】

○「まあ知っている」が44.3%と最も多く、次いで「知っている」が22.1%となっており、全体の約7割が災害時の避難場所や避難方法を知っていると回答しています。

○一方で、「あまり知らない」(15.7%) や「知らない」(6.9%) を合わせると22.6%となり、全体の約5分の1を占めています。

○前回調査と比較すると、「まあ知っている」が4.4ポイント高くなっており、「知っている」と「まあ知っている」を合わせた割合は、前回調査において61.4%であったのに対して、今回調査では66.4%と5.0ポイント高くなっています（図4-5-6）。

図 4-5-6 災害時における避難場所、避難方法の周知（前回比較）



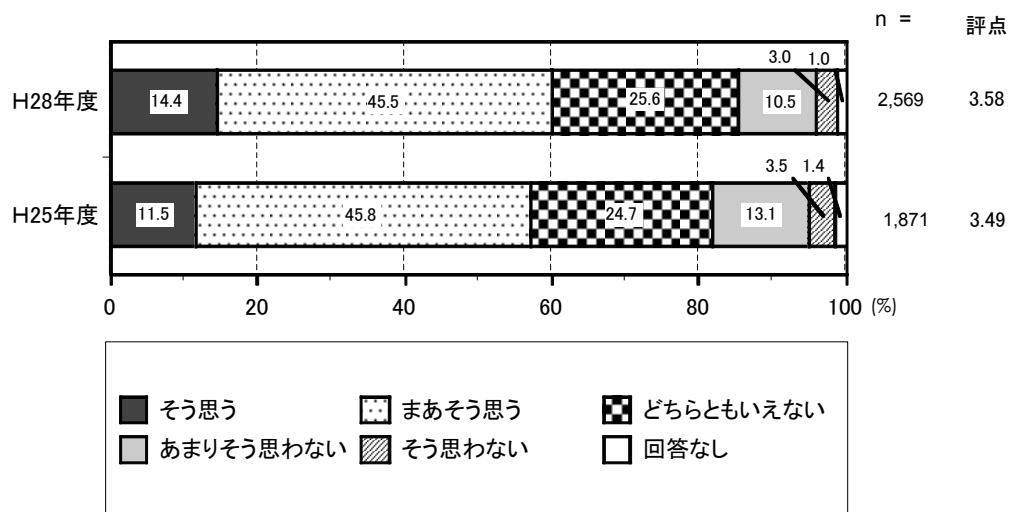
(4) 地域における治安（問 12 (4)）

問 12 (4) お住まいの地域は、治安が良く、安心して暮らせますか。【〇は1つ】

○「まあそう思う」が45.5%と最も多く、「そう思う」(14.4%) と合わせると6割弱の人が治安がよいと感じています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-5-7）。

図 4-5-7 地域における治安（前回比較）



（５）地域における安全安心の取り組み（問 12（５））

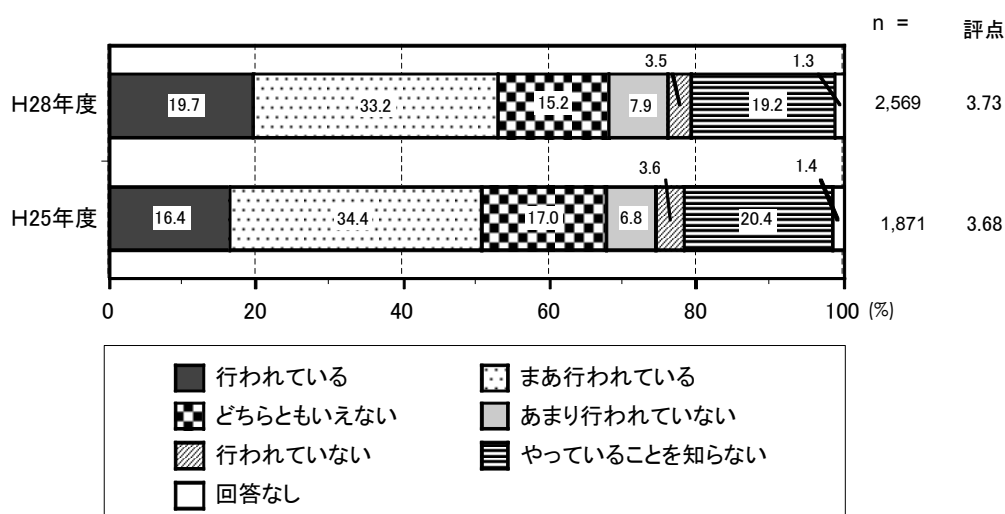
問 12（５） お住まいの地域では、住民による登下校の見守り、夜間パトロールや防犯灯設置など、安全安心を守る取組が行われていますか。【〇は１つ】

○地域における安全安心の取組が「まあ行われている」と考える人の割合が 33.2%で最も多く、「行われている」（19.7%）と合わせると約半数の 52.9%が“行われている”と認識しています。

○一方で「やっていることを知らない」が 19.2%みられます。

○平成 25 年度調査結果と比較すると、「行われている」が 3.3 ポイント高くなっていますが、そのほかほとんど変化はみられません（図 4-5-8）。

図 4-5-8 地域における安全安心の取り組み（前回比較）



4-6 福祉について（問 13）

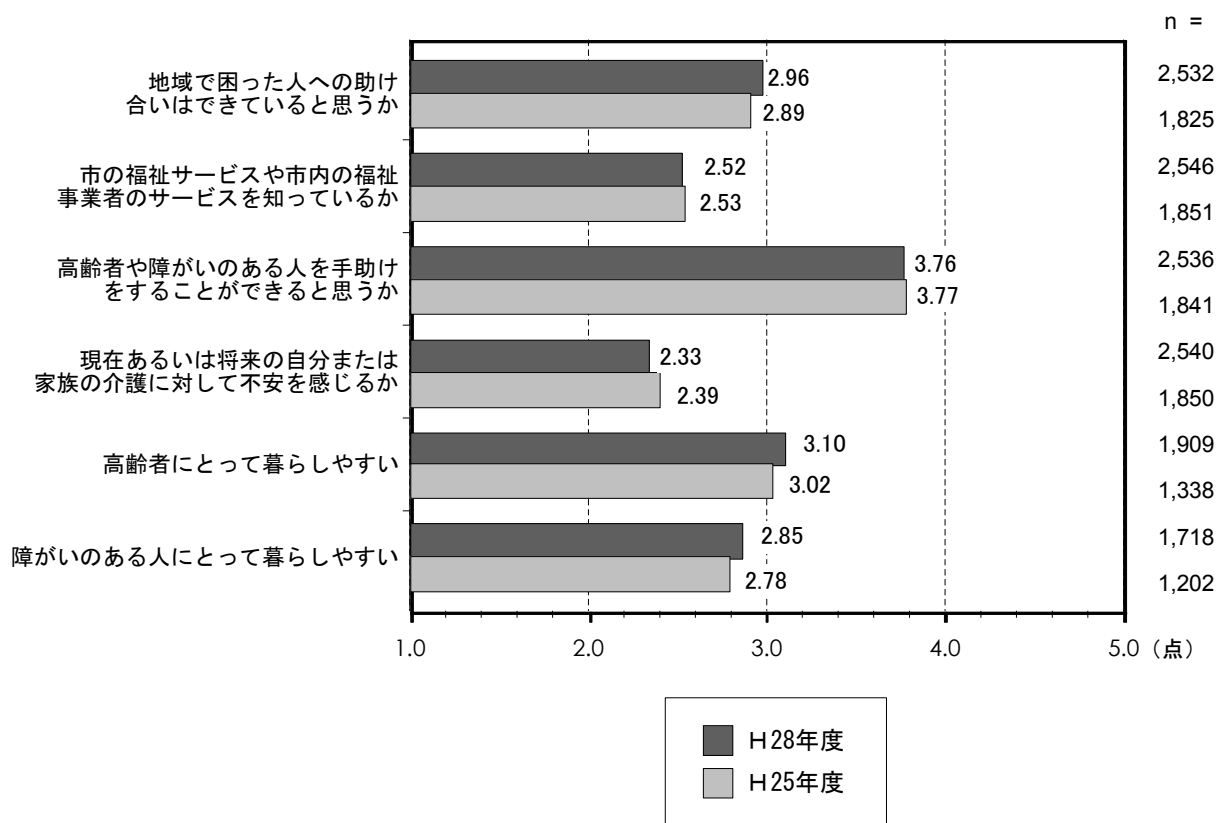
要点

「高齢者や障がいのある人を手助けすることができると思うか」の評点が最も高い一方で、「現在（あるいは将来）自分または家族の介護に対して不安を感じるか」や「市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか」は他の項目に比べて低くなっています。福祉サービスに関する認識不足にあることと、介護への不安を感じている人が多いことがわかります。

全体

- 「高齢者や障がいのある人を手助けすることができると思うか」の評点が3.76と最も高い一方で、「地域で困った人への助け合いはできていると思うか」の評点は2.96にとどまっています。
- また、「現在（あるいは将来）自分または家族の介護に対して不安を感じるか」（2.33）や「市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか」（2.52）と他の項目に比べて低くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-6-1）。

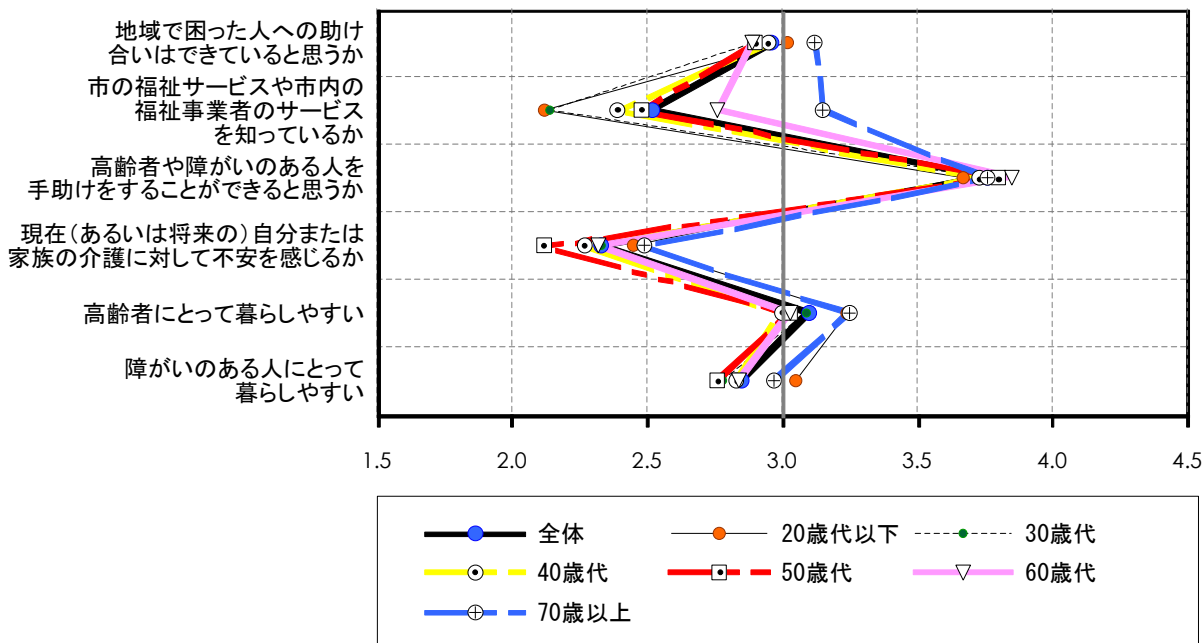
図4-6-1 福祉について（評点：前回比較）



年齢別

- 「市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか」において年齢差がみられます。具体的には、20歳代以下（2.12）や30歳代（2.14）といった若い世代の評点が低くなっているのに比べると、70歳代（3.15）の評点が高くなっています（図4-6-2）。

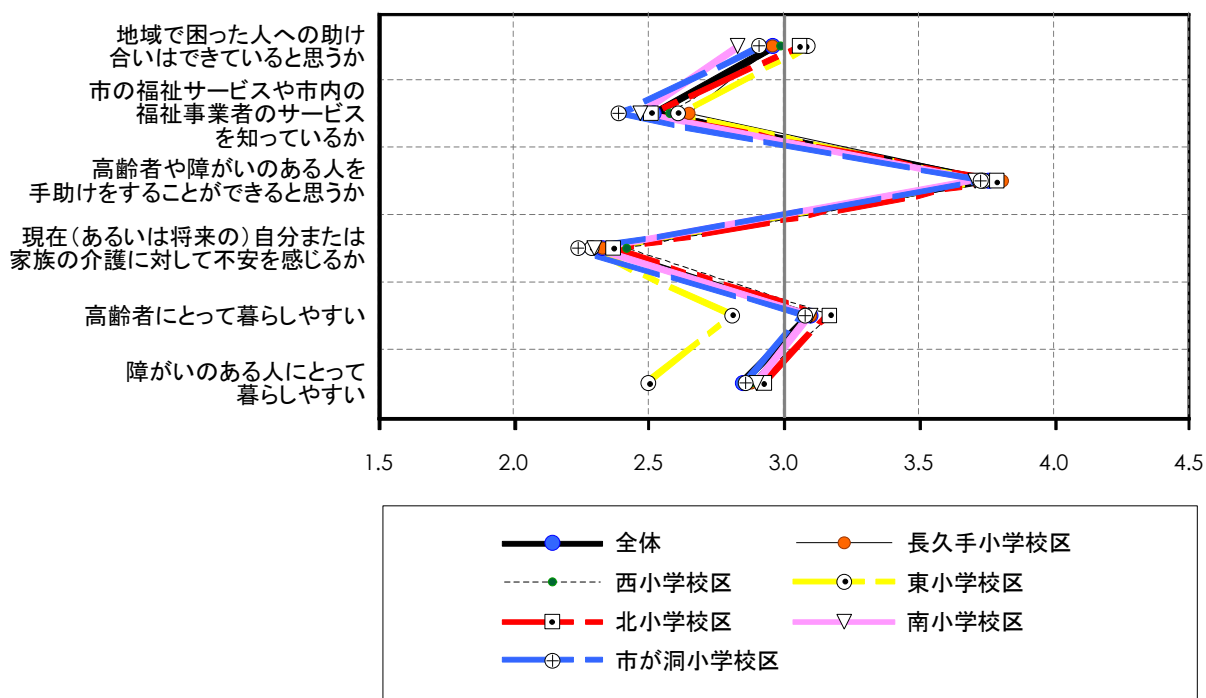
図4-6-2 年齢 「福祉について（評点）」



区別
小学校

- 「高齢者にとって暮らしやすい」と「障がいのある人にとって暮らしやすい」は、どちらも東小学校区の評点が他の小学校区よりも低くなっています（図4-6-3）。

図4-6-3 小学校区「福祉について（評点）」



(1) 地域の助け合い (問 13 (1))

問13 (1) お住まいの地域では、地域で困った人への助け合いはできていると思いますか。

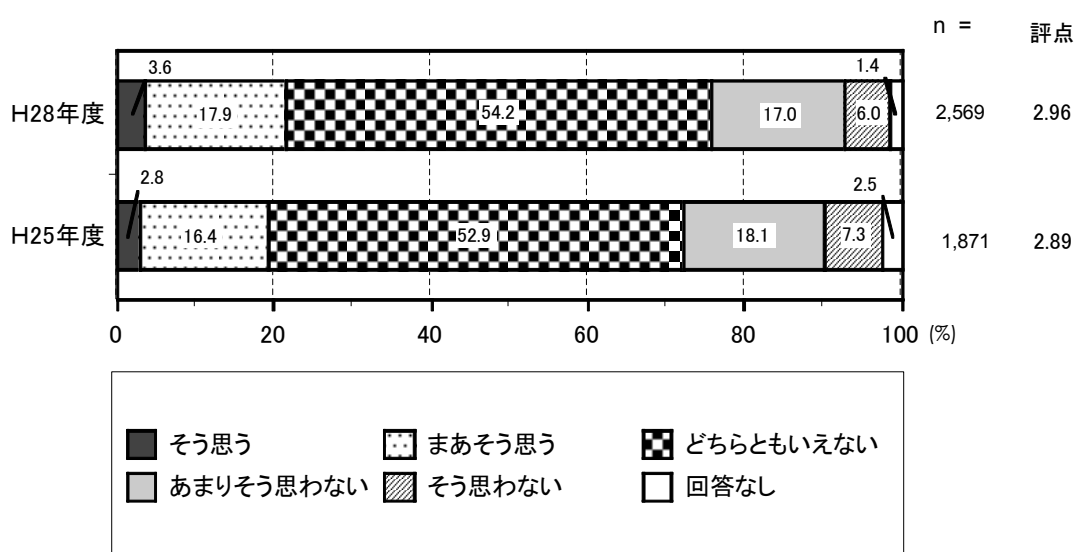
【〇は1つ】

○地域で困った人への助け合いができていると思うかについて、「どちらともいえない」が54.2%と最も多くなっています。

○「そう思う」(3.6%)、「まあそう思う」(17.9%)の合計は21.5%と少なく、「あまりそう思わない」(17.0%)、「そう思わない」(6.0%)の合計が23.0%と、地域での助け合いの意識は積極的であるとはいえない状況にあります。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図4-6-4)。

図4-6-4 地域の助け合い (前回比較)



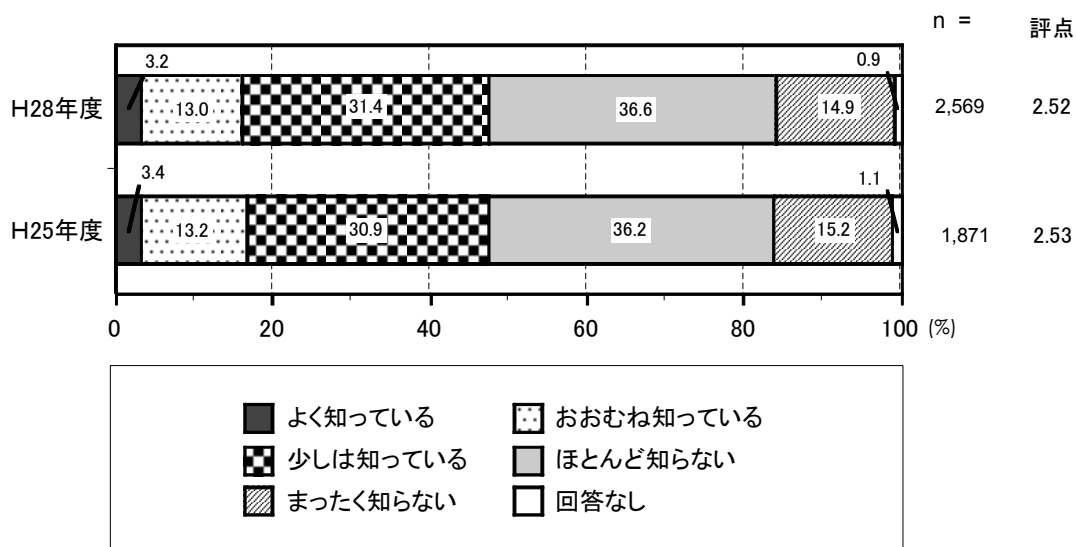
(2) 市・業者による福祉サービスの周知（問 13（2））

問 13（2） 市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っていますか。【○は一つ】

○福祉サービスについて、「よく知っている」(3.2%)、「おおむね知っている」(13.0%) の合計は16.2%にとどまり、「少しは知っている」(31.4%) を合わせても半数弱となります。一方、「まったく知らない」(14.9%)、「ほとんど知らない」(36.6%) の合計は51.5%を占めており、今後も福祉に関する関心を高め、施策やサービスの内容を周知する必要があります。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-6-5）。

図 4-6-5 市・業者による福祉サービスの周知（前回比較）



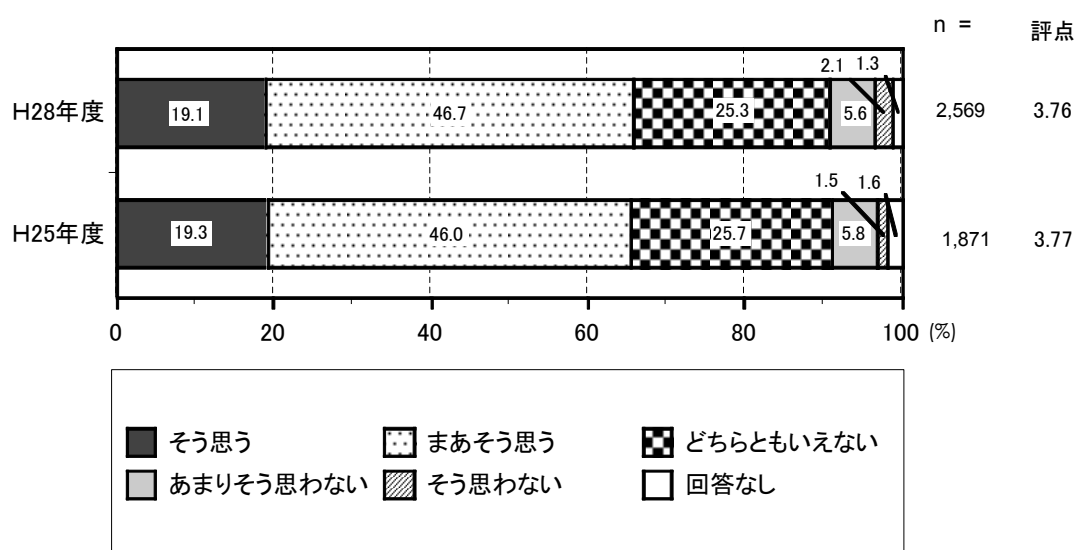
(3) 高齢者や障がい者を手助けできるか（問13 (3)）

問13 (3) 高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人など、まちで困っている人がいるとき、手助けをすることができますか。【○は1つ】

○高齢者や障がい者などまちで困った人を見かけたとき手助けするかについて、「まあそう思う」が46.7%で最も多く、「そう思う」(19.1%)と合わせると65.8%を占めています。「そう思わない」(2.1%)、「あまりそう思わない」(5.6%)を合わせた7.7%を大きく上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-6-6）。

図4-6-6 高齢者や障がい者を手助けできるか（前回比較）



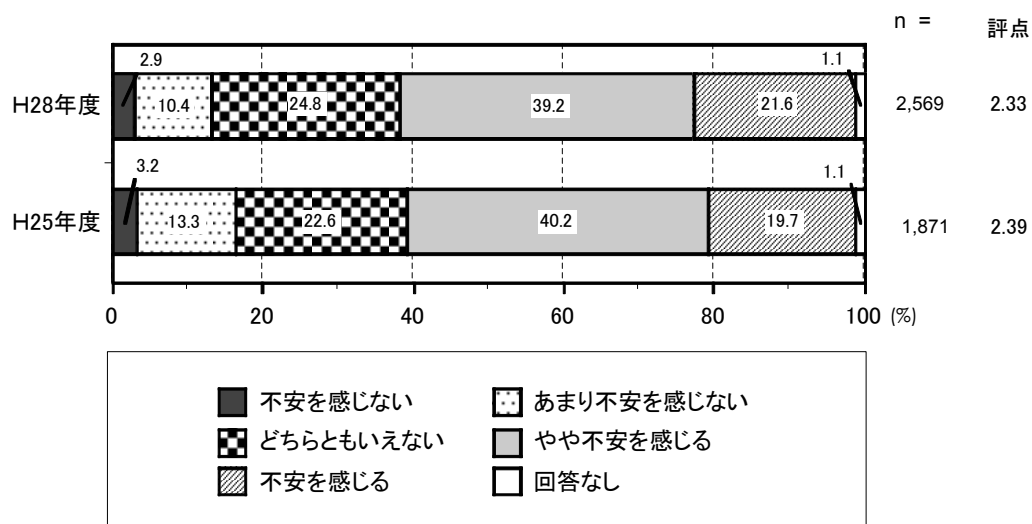
(4) 自分または家族の介護についての不安 (問 13 (4))

問 13 (4) 現在 (あるいは将来の)、自分または家族の介護に対して不安を感じますか。【○は1つ】

○現在 (あるいは将来の) 介護に対する不安の有無について、「やや不安を感じる」が 39.2%と最も多く、「不安を感じる」(21.6%) と合わせると 60.8%と多くなっています。「不安を感じない」(2.9%)、「あまり不安を感じない」(10.4%) の割合は合計で 13.3%にとどまっています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-6-7)。

図 4-6-7 自分または家族の介護についての不安 (前回比較)



(5) 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいかー1 (問13 (5) -1)

問13 (5) -1 お住まいの地域は、高齢者にとって暮らしやすい地域であると思いますか。障がいのある人にとって暮らしやすい地域であると思いますか。【〇は1つ】

①高齢者にとって暮らしやすい

(6) 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいかー2 (問13 (5) -2)

問13 (5) -2 お住まいの地域は、高齢者にとって暮らしやすい地域であると思いますか。障がいのある人にとって暮らしやすい地域であると思いますか。【〇は1つ】

②障がいのある人にとって暮らしやすい

- 「高齢者や障がいのある人にとって暮らしやすい地域であるか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、高齢者27.2%と少なく、障がい者では15.0%とさらに少ない割合にとどまっています。
- ただし、「該当しない」（高齢者：24.6%、障がい者：31.8%）を除けば、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、高齢者では36.1%に相当し、障がい者でも22.0%に相当します。
- 同様に「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計は、「該当しない」を除けば、高齢者では24.5%、障がい者で30.2%に相当します。
- したがって、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた割合よりも、高齢者では11.6ポイント上回っていることに相当する一方で、障がい者では8.2ポイント下回っていることに相当することとなります。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-6-8、図4-6-9）。

図4-6-8 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいかー高齢者にとって暮らしやすい（前回比較）

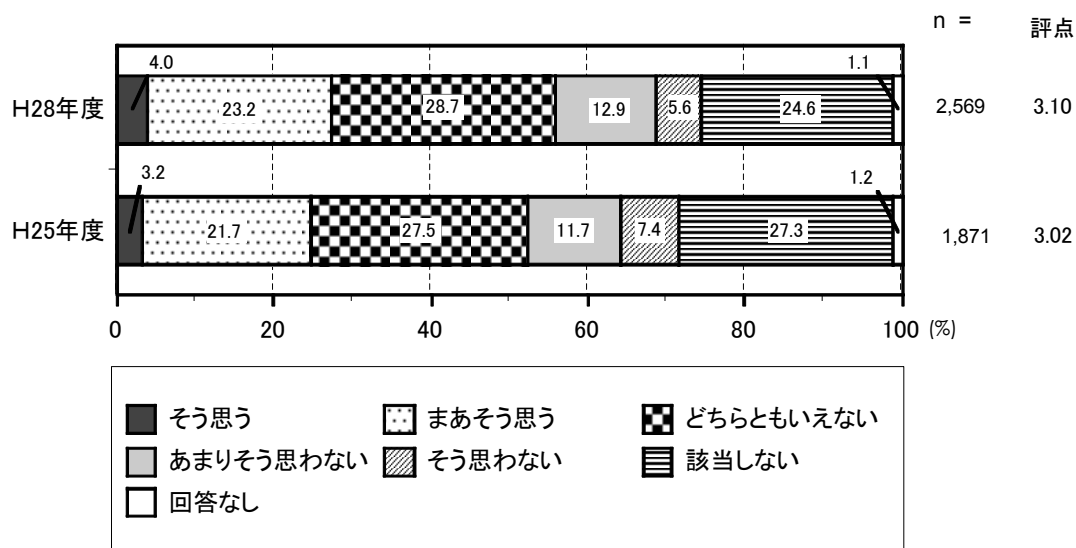
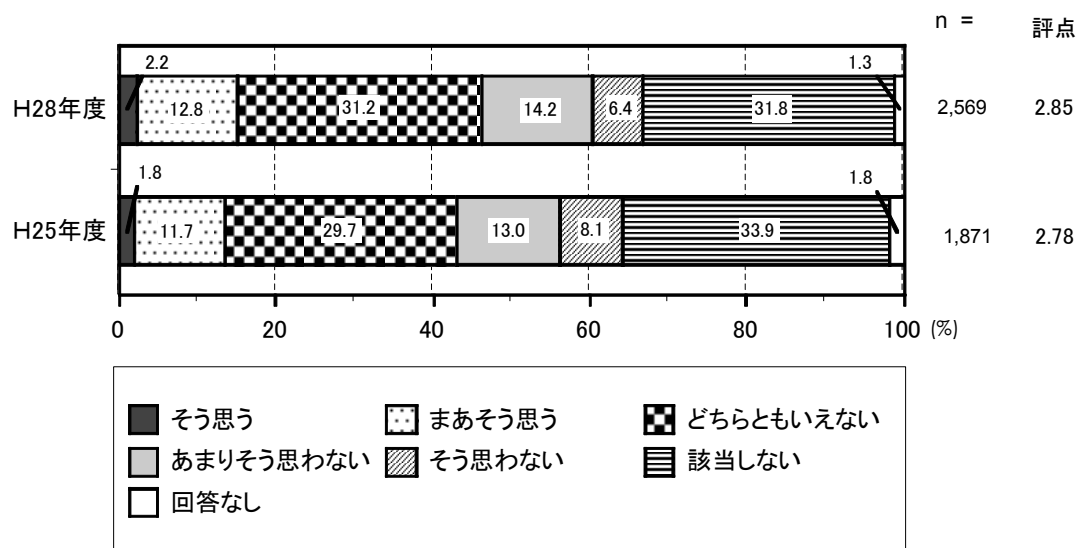


図 4-6-9 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいかー障害者にとって暮らしやすい（前回比較）



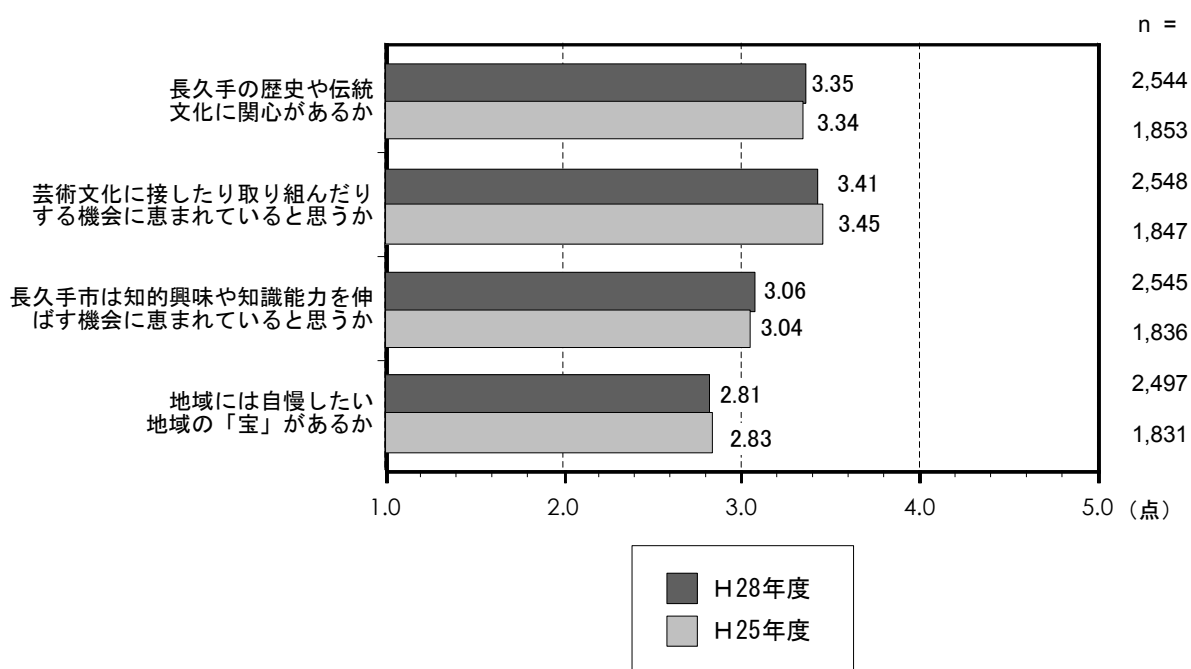
要点

「長久手市は芸術文化に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思うか」の評点が最も高い一方で、「お住まいの地域には、自慢したい「宝」があるか」の評点が他の項目に比べて低くなっています。また、「長久手市はあなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会に恵まれていると思うか」の評点は、歴史や伝統文化への関心、芸術文化に親しむ機会と比べて低くなっています。

全体

- 「長久手市は芸術文化に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思うか」の評点が3.41と最も高い一方で、「お住まいの地域には、自慢したい「宝」があるか」の評点が2.81と低くなっています。
- 「長久手市はあなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会に恵まれていると思うか」の評点も3.06と他の項目と比べると若干低くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-7-1）。

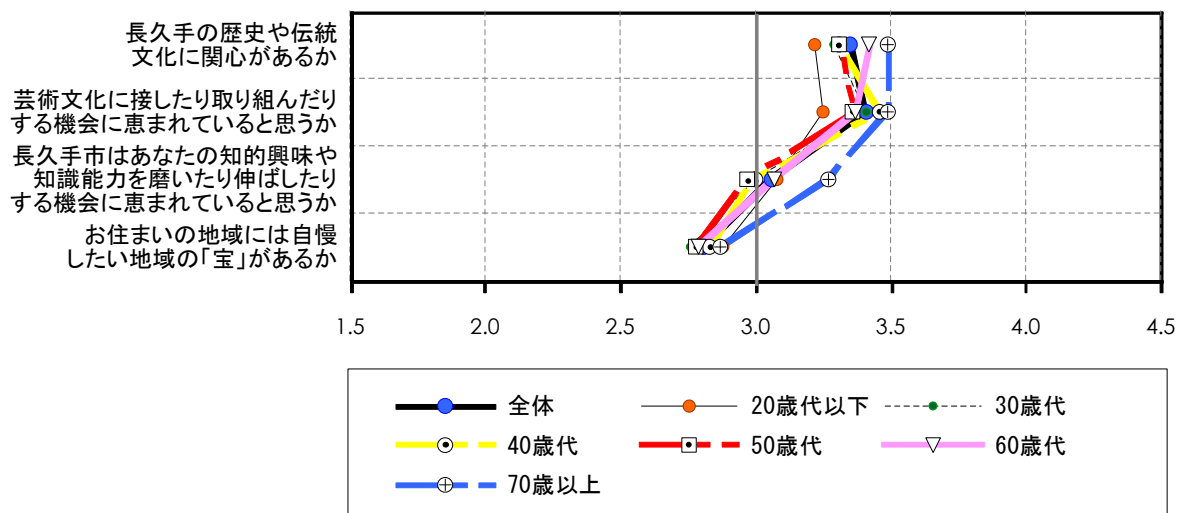
図4-7-1 文化・生涯学習について（評点：前回比較）



年齢別

○70 歳代の評点が全体的に比べて若干高くなっています。また、「長久手の歴史や伝統文化に関心があるか」については、年齢が高くなるにつれて評点が若干高くなる傾向がみられるものの、年齢別による大きな違いはみられません（図 4-7-2）。

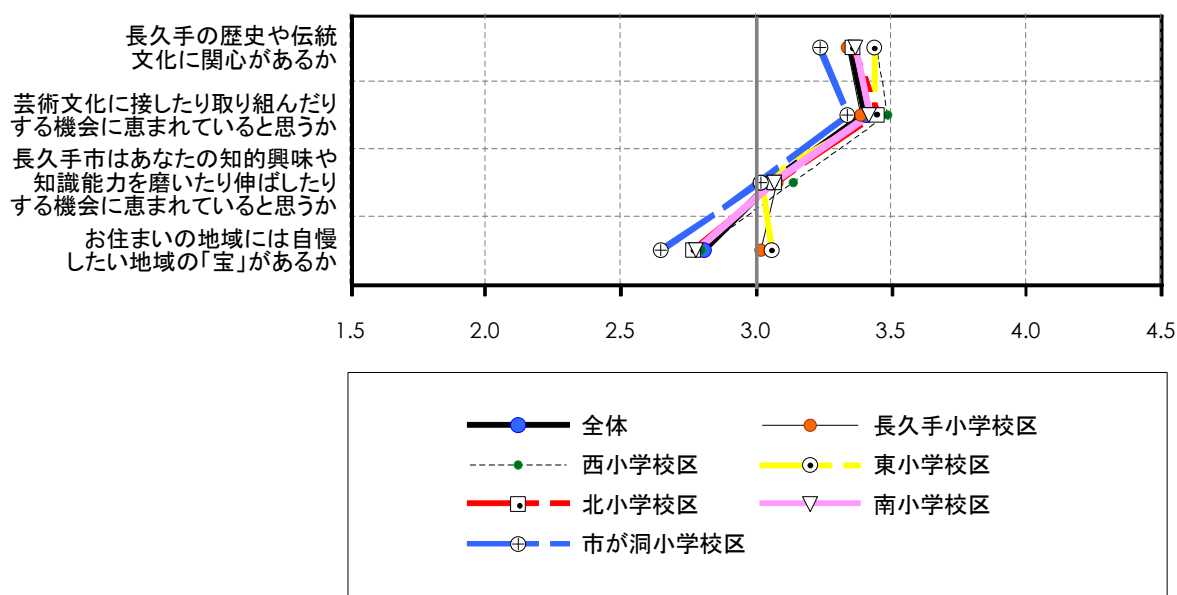
図 4-7-2 年齢 「文化・生涯学習について（評点）」



小学校区別

○「お住まいの地域には自慢したい地域の「宝」があるか」については、東小学校区（3.06）や長久手小学校区（3.02）において評点が高くなっています。
○市が洞小学校区がすべての項目で全体よりも評点が低くなっています（図 4-7-3）。

図 4-7-3 小学校区 「文化・生涯学習について（評点）」



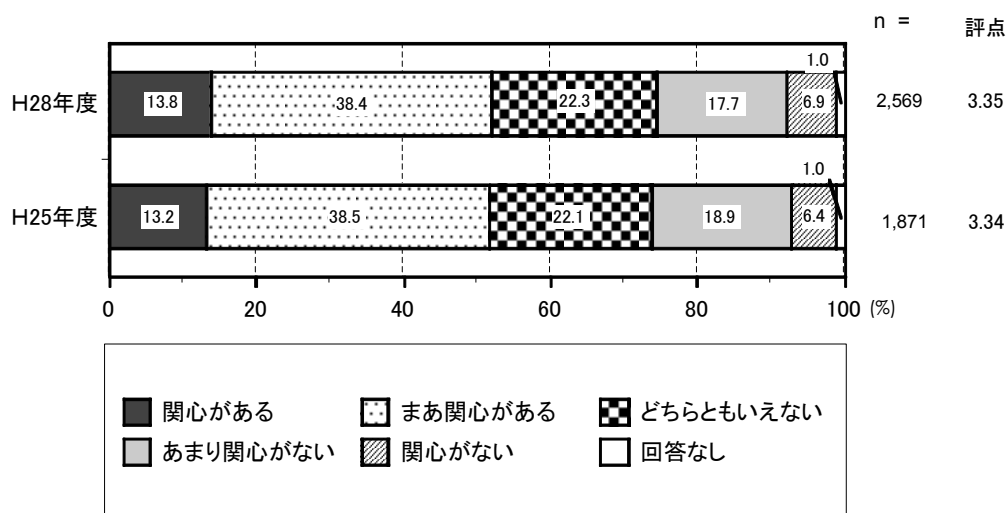
(1) 伝統・文化への関心 (問 14 (1))

問 14 (1) 長久手の歴史や伝統文化(「小牧・長久手の戦い」の地になったことや地域の昔話、棒の手等のお祭りなど)に関心がありますか。【〇は1つ】

○伝統・文化への関心は、「まあ関心がある」が38.4%と最も多く、「関心がある」(13.8%)と合わせた割合は52.2%で、「あまり関心がない」(17.7%)及び「関心がない」(6.9%)を合わせた24.6%より多くなっています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-7-4)。

図4-7-4 伝統・文化への関心(前回比較)



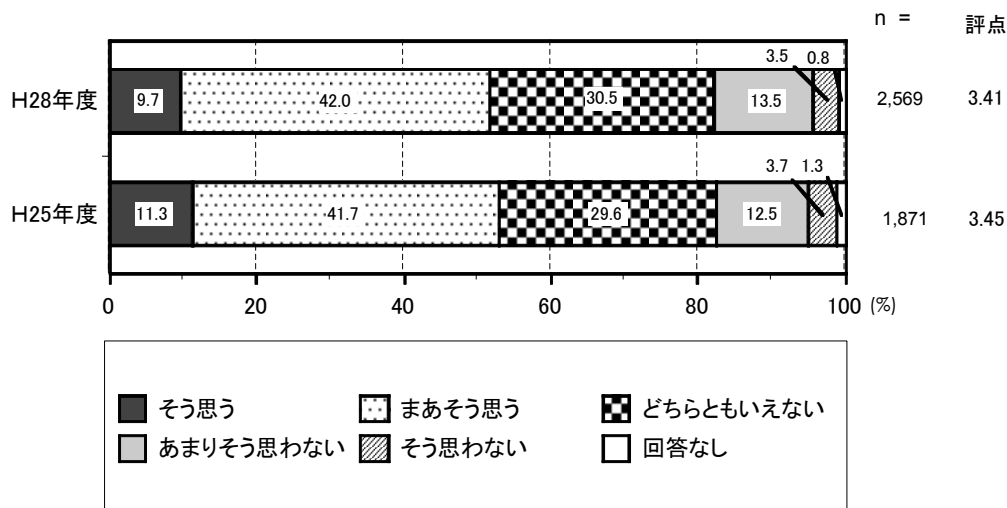
(2) 芸術文化に接する機会(問 14 (2))

問 14 (2) 長久手市は、芸術文化(演劇やコンサート、美術展など)に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思いますか。【〇は1つ】

○「芸術文化に接する機会に恵まれているか」について、「まあそう思う」が42.0%で最も多く、「そう思う」(9.7%)と合わせた割合は51.7%で、「あまりそう思わない」(13.5%)及び「そう思わない」(3.5%)を合わせた17.0%より多くなっています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-7-5)。

図4-7-5 芸術文化に接する機会(前回比較)

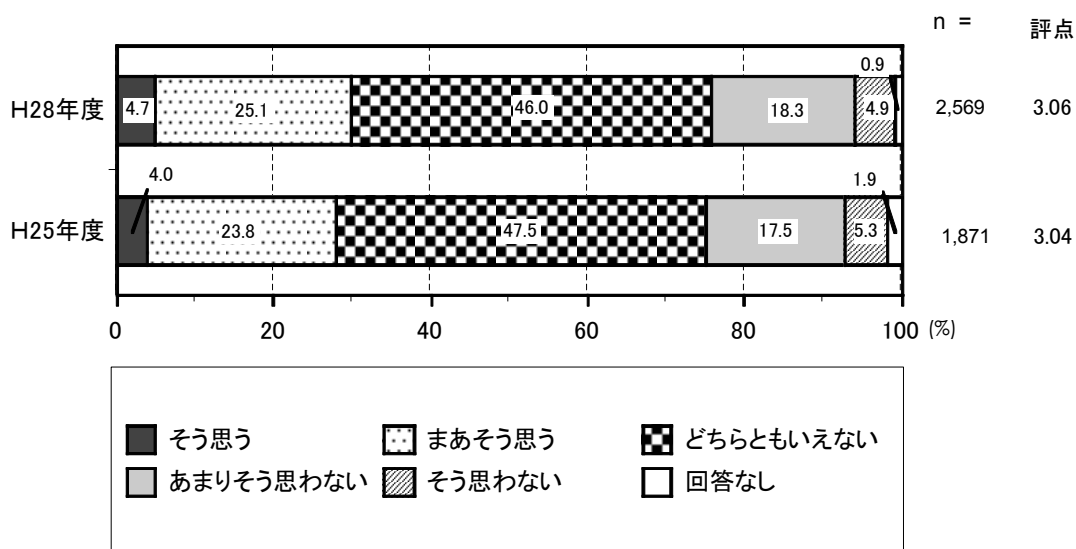


(3) 知識・能力を伸ばす機会 (問 14 (3))

問 14 (3) 長久手市は、あなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会（生涯学習活動を行う機会）に恵まれていると思いますか。【○は1つ】

- 「自己の興味や知識・能力を伸ばす機会に恵まれているか」について、「どちらともいえない」の46.0%が最も多くなっています。
- 「そう思う」(4.7%)、「まあそう思う」(25.1%)の合計は29.8%で、「あまりそう思わない」(18.3%)及び「そう思わない」(4.9%)の合計23.2%より若干多くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-7-6)。

図4-7-6 知識・能力を伸ばす機会 (前回比較)



(4) 地域における自慢すべき「宝」の有無（問 14 (4)）

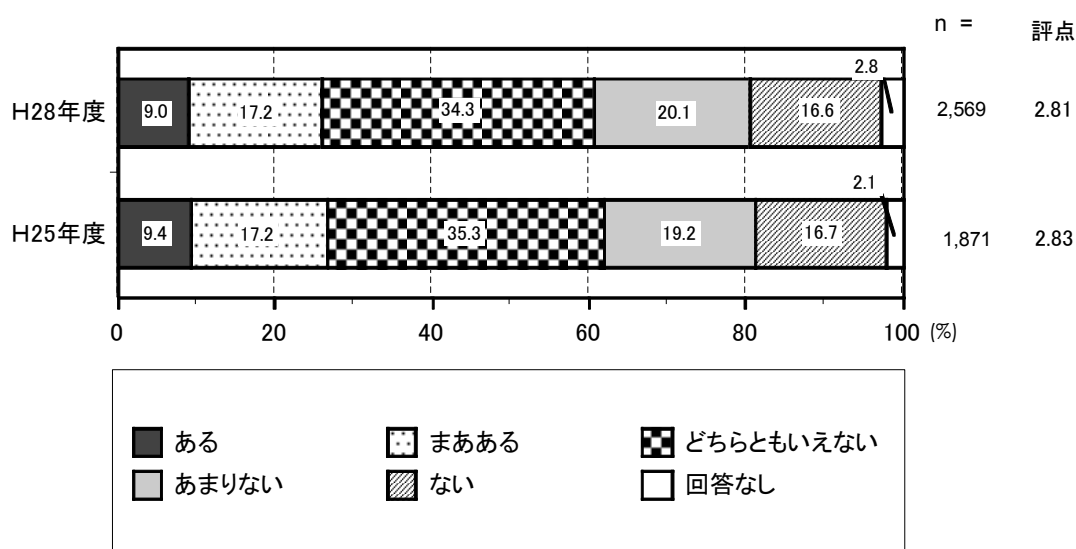
問 14 (4) お住まいの地域には、自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化、行事など）がありますか。【〇は1つ】

○地域における自慢すべき「宝」の有無について、「どちらともいえない」の34.3%が最も多くなっています。

○「ある」（9.0%）、「まあある」（17.2%）の合計は26.2%であり、「あまりない」（20.1%）及び「ない」（16.6%）を合わせた36.7%を大きく下回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-7-7）。

図 4-7-7 地域における自慢すべき「宝」の有無（前回比較）



(4) で「1. ある」「2. まあある」に「○」を付けた方は、あなたがお住まいの地域の「宝」であると思うものを、具体的にあげてください。

○モリコロパークや古戦場公園、リニモなどをはじめとした「各種施設・公園」(343 件) が最も多くなっています。

○また、「長湫の警固祭り、岩作のオマント」や「棒の手」をはじめとした「歴史・伝統・文化」(281 件)、「自然・景観」(139 件) や「古戦場」といった「史跡、寺社・仏閣」(102 件) など数多くあげられています。

○さらに、その他にも生活者の視点からバラエティに富んだ地域の「宝」があげられています(表 4-7-1)。

表 4-7-1 地域における自慢すべき「宝」

■ 1. 歴史・伝統・文化 (281 件)

- ・長湫の警固祭り、岩作のオマント (122)
- ・棒の手 (99)
- ・火縄銃 (13)
- ・各種祭り (4)
- ・神楽 (4)
- ・その他 (39)
お月見どろぼう、左義長、山車
子供獅子、太鼓、大黒、歴史 等

■ 2. 史跡、寺社・仏閣 (102 件)

- ・古戦場 (41)
- ・寺社 (25)
景行天皇社、岩作神社、富士社、安昌寺
多度社 等
- ・史跡 (21)
- ・塚 (9)
- ・弘法 (3)
- ・その他 (3)
古窯、地藏、しょうぎ石

■ 3. 各種施設・公園 (342 件)

- ・愛・地球博公園(モリコロパーク) (100)
- ・リニモ (36)
- ・古戦場公園 (47)
- ・各種公園 (15)
- ・杵ヶ池公園 (21)
- ・色金山歴史公園 (5)
- ・血池公園 (5)
- ・せせらぎの径 (5)
- ・各種公共施設 (14)
共生ステーション、平成こども塾 等
- ・文化の家 (25)
- ・図書館 (8)
- ・名都美術館 (4)
- ・トヨタ博物館 (12)
- ・あぐりん村・ゴジカラ村 (10)
- ・長久手温泉ござらっせ (12)
- ・各種大学 (5)
- ・イオン・アピタ・イケヤ (7)
- ・その他 (11)
地下鉄の駅、グリーンロード
映画館、個人の美術館 等

■ 4. 自然・景観 (139 件)

- ・自然 (21)
- ・様々な小動物・昆虫 (3)
ホタル、メダカなどの生き物
- ・自然景観 (25)
田園風景、自然の風景 等
- ・街並み景観 (17)
- ・田園・田畑 (2)
- ・緑地 (11)
- ・山・川 (37)
御嶽山、香流川 等
- ・桜 (7)
古戦場公園の桜 等
- ・杵ヶ池 (9)
- ・その他 (7)
愛・地球博記念公園「大観覧車」の風景
リニモのある風景 等

■ 5. 行事、イベント (50 件)

- ・地区等のお祭り (30)
子ども祭り、学区夏祭り
桜祭り、夏祭り 等
- ・花火大会 (8)
- ・その他のイベント (12)
シニア会、うまいもの祭り、大学祭
福祉祭り、里山交流行事 等

■ 6. その他 (52 件)

- ・住みやすさ (13)
商業施設
住みやすさ全国ランキング上位 等
- ・住民 (7)
若い、親切 等
- ・安心安全 (4)
地域のまとまり、消防団 等
- ・子ども (3)
子どもが多い、学校が多い 等
- ・その他 (25)
N/バス、音楽、ケーキ屋、パン屋 等

要点

「買い物や通院に便利か」の評点が最も高く、次いで「出かける際の移動が便利か」や「出かける際の移動の安全が確保されていると思うか」といった交通基盤や公共交通に関する評点はいずれも高くなっています。一方で、「就業しやすい環境にあると思うか」の評点が低くなっています。

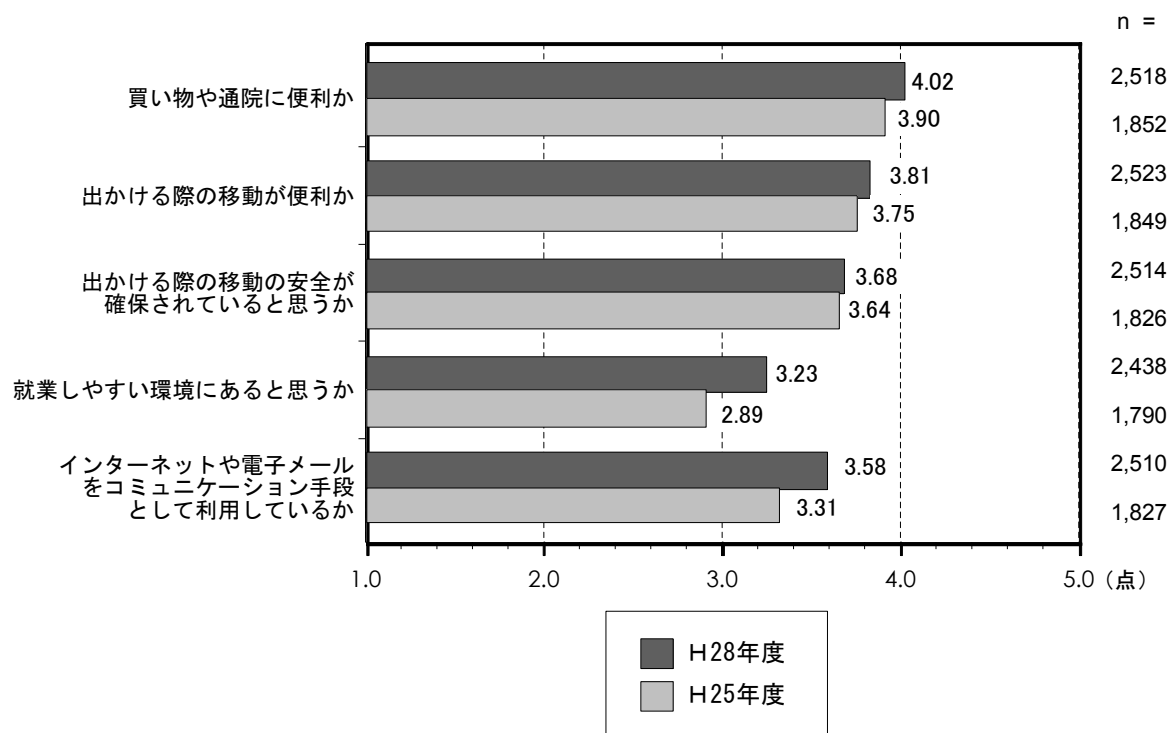
年齢別にみると、「インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか」については、20歳代以下をはじめとする若い世代の評点が高くなっています。

また、小学校区別にみると移動手段や移動の安全、インターネット利用などについては、東小学校区の評点が低くなっています。

全体

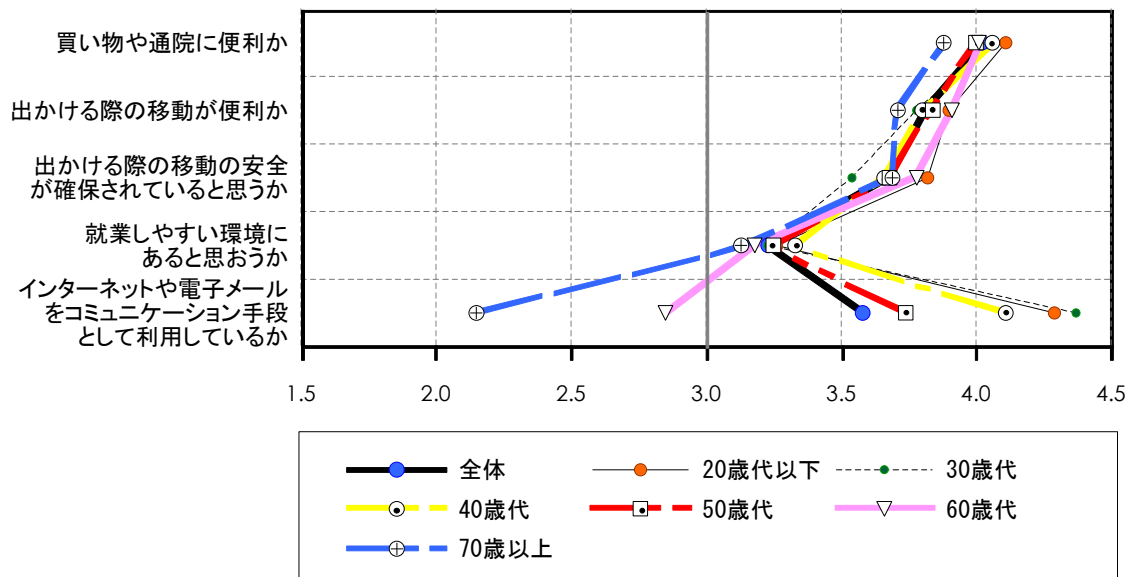
- 「買い物や通院に便利か」の評点が4.02と最も高くなっています。また、「出かける際の移動が便利か」（3.81）や「出かける際の移動の安全が確保されていると思うか」（3.68）などの評点も高くなっています。一方で、「就業しやすい環境にあると思うか」の評点が3.23と低くなっています。
- 前回調査と比較すると、「就業しやすい環境にあると思うか」と「インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか」については、前回調査よりも評点が高くなっています（図4-8-1）。

図4-8-1 生活インフラについて（評点：前回比較）



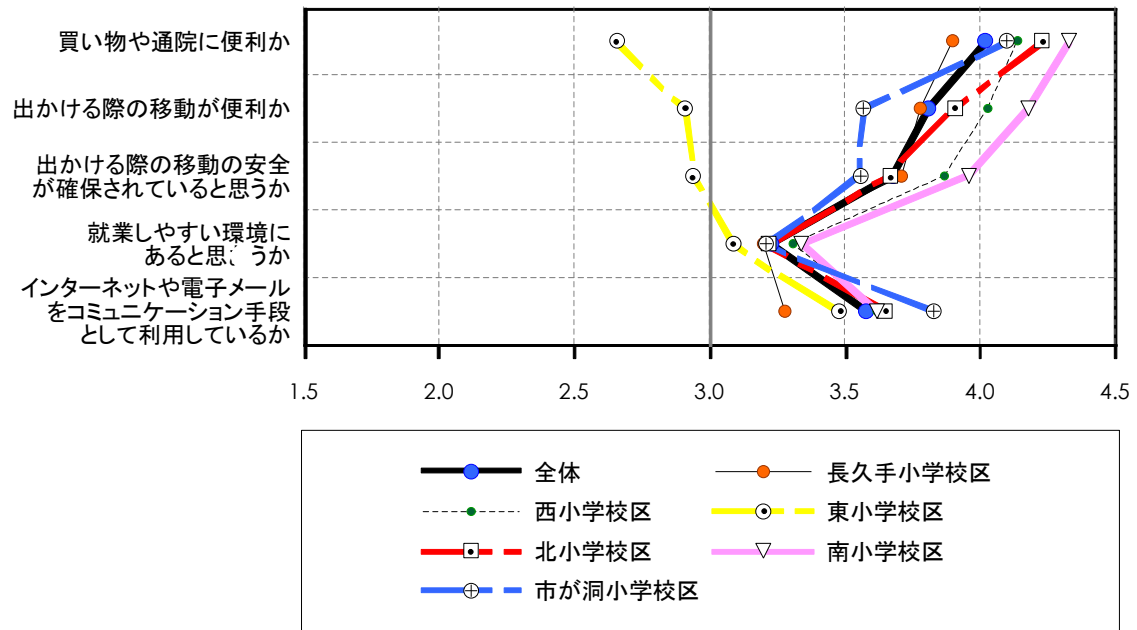
○「インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか」では大きな年齢差がみられます。具体的には、70歳以上（2.15）や60歳代（2.85）の評点が全体を大きく下回る一方で、30歳代（4.37）をはじめ、20歳代以下（4.29）や40歳代（4.11）といった若い世代の評点が高くなっています（図4-8-2）。

図4-8-2 年齢 「生活インフラについて（評点）」



- 「買い物や通院に便利か」については、東小学校区の評点が2.66と極端に低い一方で、西小学校区（4.14）や北小学校区（4.23）、南小学校区（4.33）では、他の小学校区よりも評点が高くなっています。
- 東小学校区では、「インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか」以外の4項目において他の小学校区よりも評点が低くなっています（図4-8-3）。

図4-8-3 小学校区 「生活インフラについて（評点）」



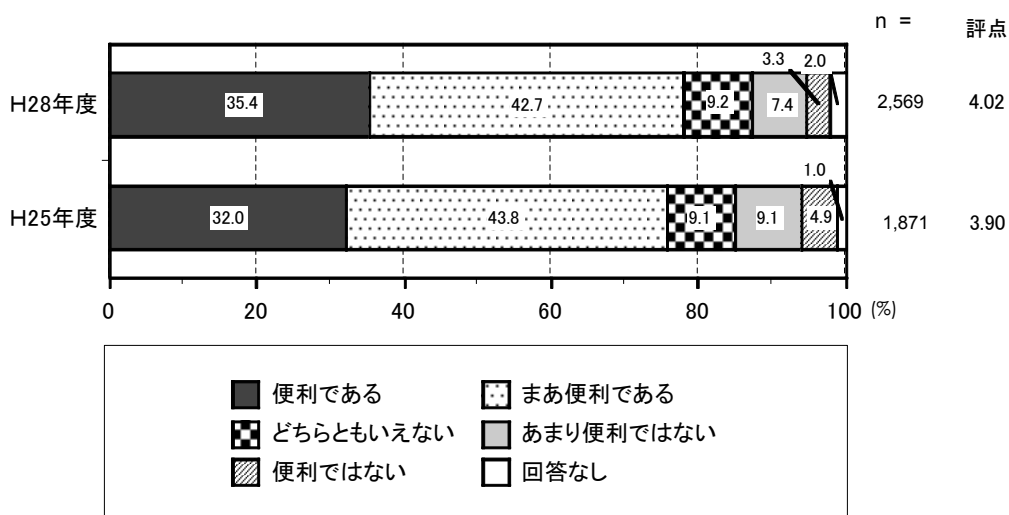
(1) 買い物、通院の便 (問 15 (1))

問 15 (1) お住まいの地域は、買い物や通院に便利ですか。【〇は1つ】

○買い物や通院の利便性について、「まあ便利である」が42.7%で最も多く、「便利である」(35.4%)と合わせた割合は78.1%で、「便利でない」(3.3%)及び「あまり便利でない」(7.4%)の合計10.7%を大きく上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-8-4)。

図4-8-4 買い物、通院の便 (前回比較)



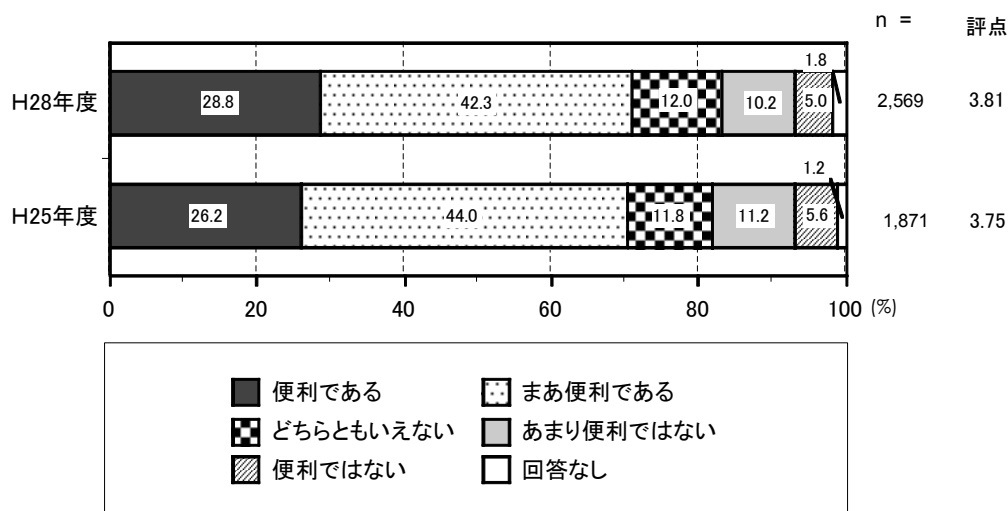
(2) 出かける際の移動の便 (問 15 (2))

問 15 (2) お住まいの地域は、出かける際の移動が便利ですか。【〇は1つ】

○出かける際の移動が便利かについて、「まあ便利である」が42.3%で最も多く、「便利である」(28.8%)と合わせた割合は71.1%で、「便利でない」(5.0%)及び「あまり便利でない」(10.2%)の合計15.2%を大きく上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-8-5)。

図4-8-5 出かける際の移動の便 (前回比較)



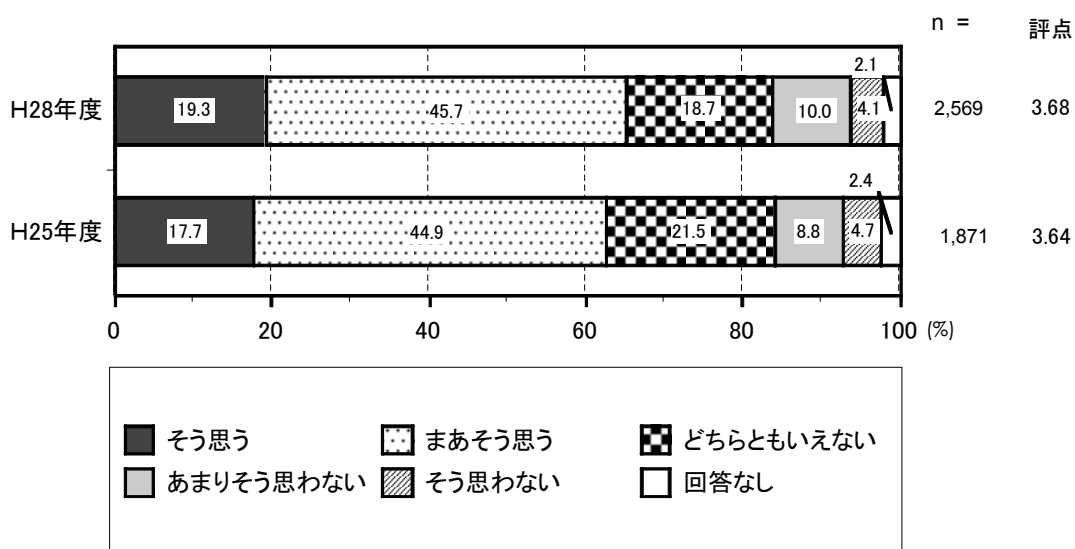
(3) 出かける際の移動の安全 (問 15 (3))

問 15 (3) お住まいの地域は、出かける際の移動の安全が確保されていると思いますか。【○は1つ】

○出かける際の移動の安全について、「まあそう思う」が45.7%で最も多く、「そう思う」(19.3%) と合わせた割合は65.0%で、「そう思わない」(4.1%) 及び「あまりそう思わない」(10.0%) の合計14.1%を大きく上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-8-6)。

図 4-8-6 出かける際の移動の安全 (前回比較)



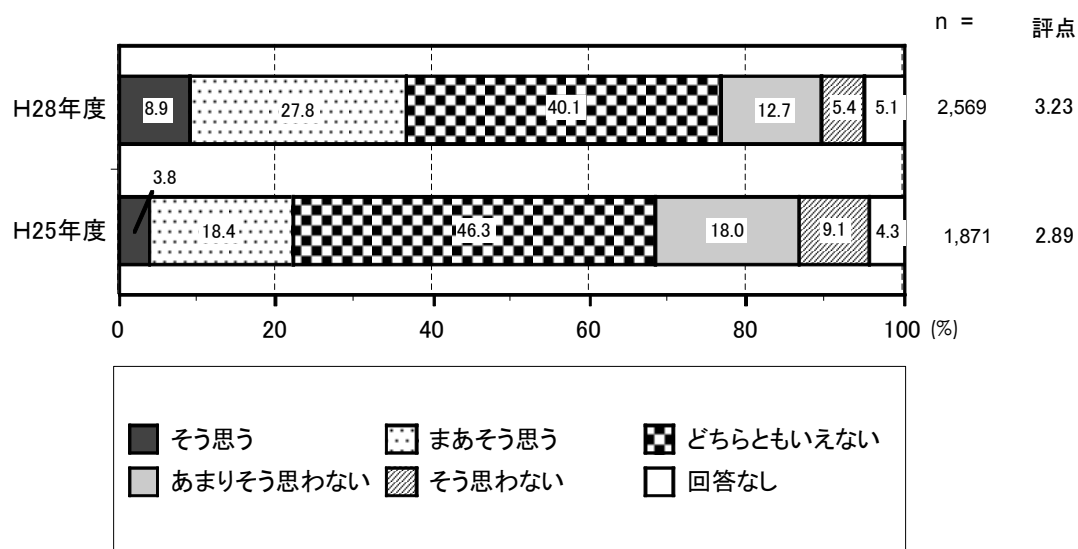
(4) 就業環境 (問 15 (4))

問 15 (4) お住まいの地域（長久手市及びその周辺地域）では、仕事が見つかりやすく就業しやすい環境（パート労働も含む）にあると思いますか。【〇は1つ】

○住まいの地域が就業しやすい環境にあると思うかについて、「どちらともいえない」が40.1%と最も多くなっていますが、「そう思う」及び「まあそう思う」を合わせた割合も36.7%と多く、「そう思わない」及び「あまりそう思わない」の合計（18.1%）と比べて18.6ポイント高くなっています。

○平成25年度調査結果と比べると、「そう思う」が5.1ポイント、「まあそう思う」が9.4ポイント高くなっており、就業しやすい環境だと評価する人が多くなっています（図4-8-7）

図4-8-7 就業環境（前回比較）



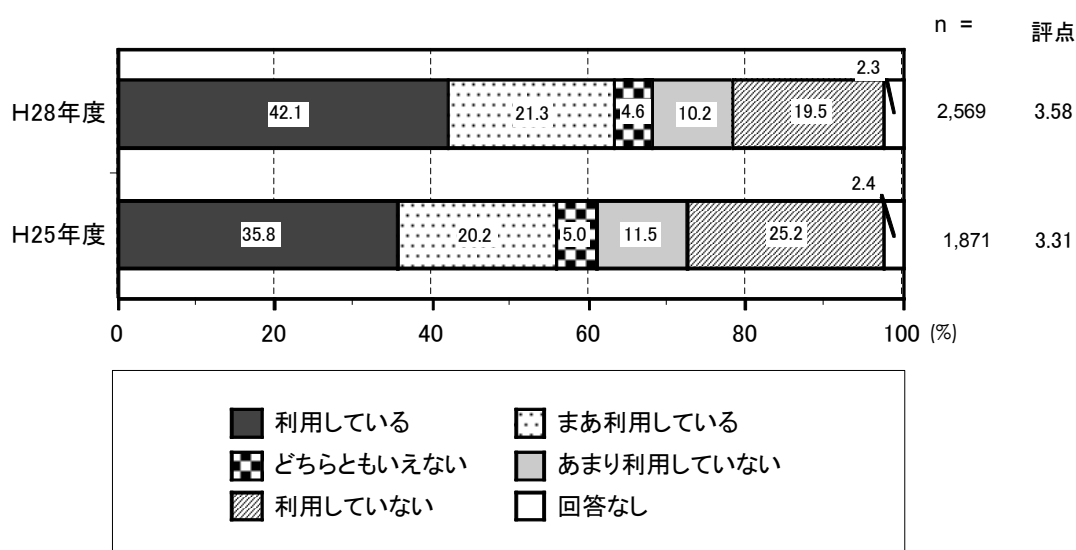
(5) インターネットや電子メールの利用 (問 15 (5))

問 15 (5) インターネット (ツイッターやフェイスブック、ライン等も含む) や電子メールをコミュニケーション手段として利用していますか。【○は1つ】

○インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているかについて、「利用している」が42.1%で最も多く、「まあ利用している」(21.3%) と合わせた割合は63.4%あり、半数以上がインターネット等を利用しています。

○平成 25 年度調査結果よりも「利用している」が6.3 ポイント高くなっており、インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用している人は7.4 ポイント高くなっています (図 4-8-8)。

図 4-8-8 インターネットや電子メールの利用 (前回比較)



要点

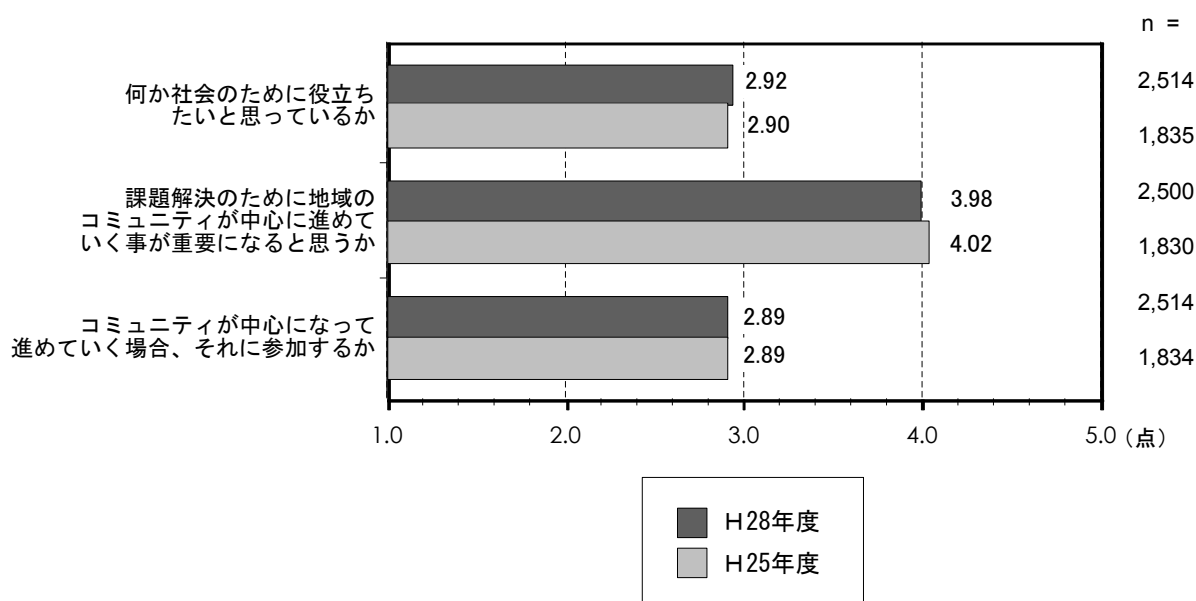
「課題解決のために地域のコミュニティが中心に進めていく事が重要になると思うか」の評点が最も高い一方で、「何か社会のために役立ちたいと思っているか」や「コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか」の評点が低い水準にとどまっています。地域が主体となったコミュニティ活動の重要性への理解に比べて、自らが地域づくりの担い手として役割を持ち活動に参加するという意識は低い状況にあることがうかがえます。

また、この結果は前回調査とほぼ同様の結果となっています。

全体

- 「課題解決のために地域のコミュニティが中心に進めていく事が重要になると思うか」の評点が3.98に比べて、「コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか」の評点が2.89と低く、また「何か社会のために役立ちたいと思っているか」の評点も2.92と低くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-9-1）。

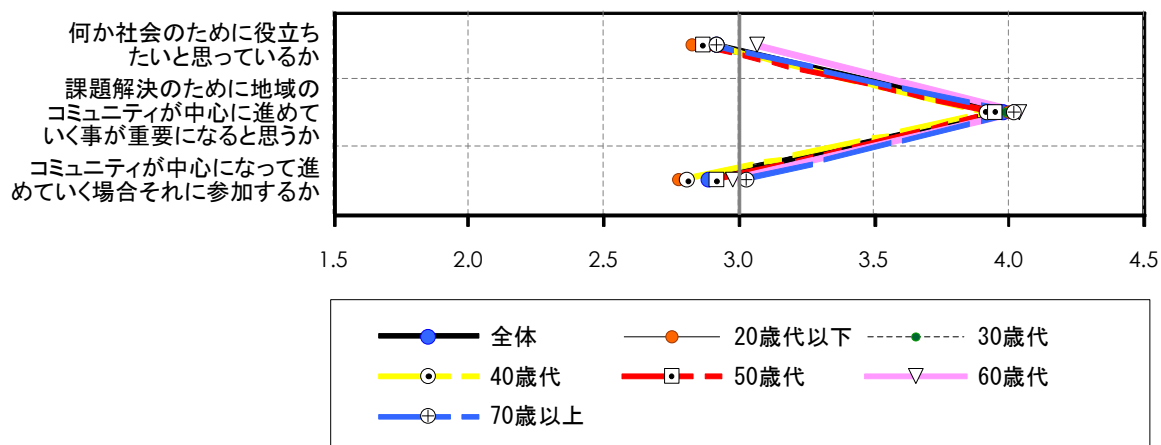
図4-9-1 まちづくりにおける地域の役割について（評点：前回比較）



年齢別

- 「何か社会のために役立ちたいと思っているか」については、60 歳代（3.07）の評点が若干高くなっていますが、年齢別による大きな違いはみられません。
- 「コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか」については、大きな違いはみられませんが、若干年齢が高くなるにつれて評点が高くなっており、70 歳代以上で3.03 となっています（図 4-9-2）。

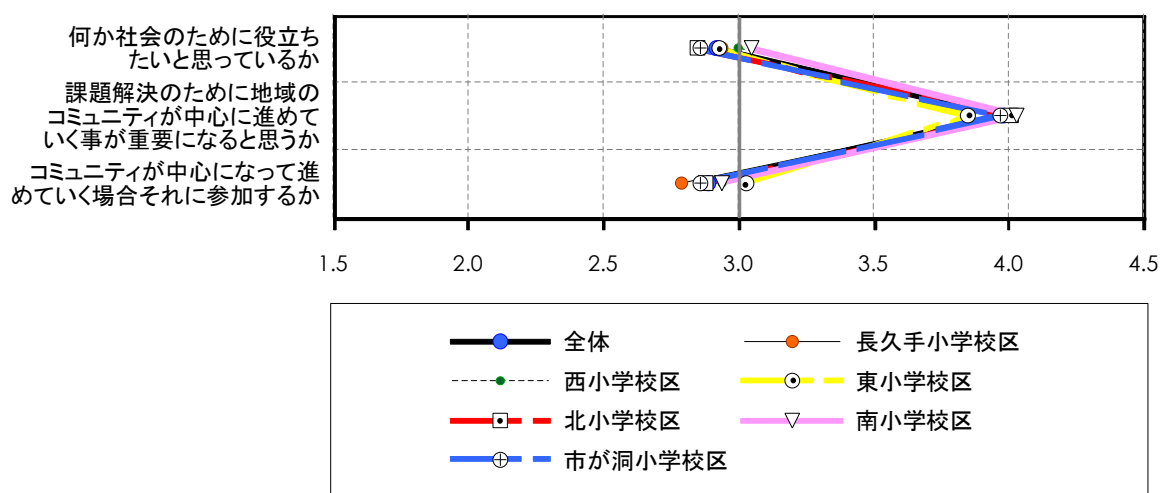
図 4-9-2 年齢 「まちづくりにおける地域の役割について（評点）」



小学校区別

- 小学校区別に見ても、全体平均と比べて大きな違いはみられません（図 4-9-3）。

図 4-9-3 小学校区 「まちづくりにおける地域の役割について（評点）」



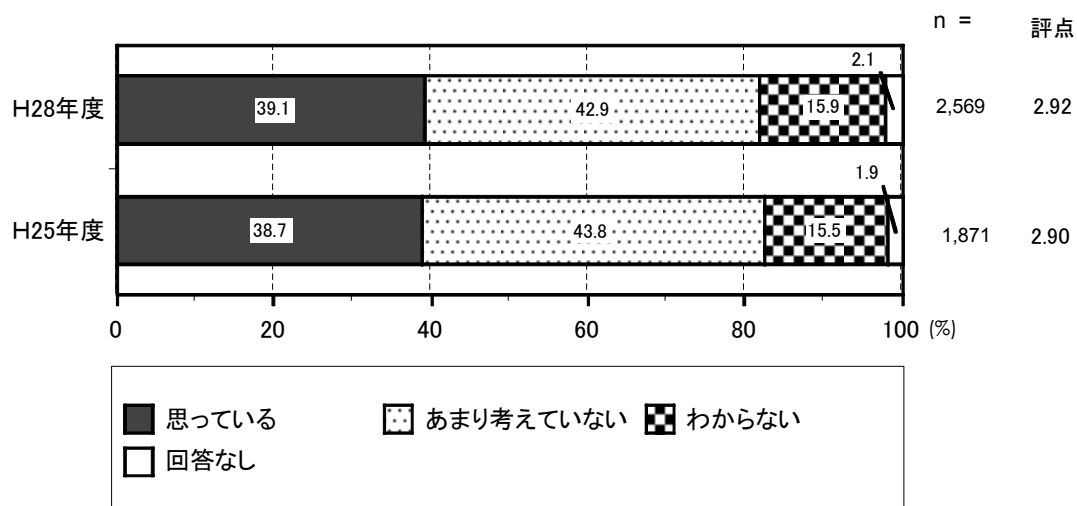
（１）地域における社会貢献の意思（問 16）

問 16 あなたは、日ごろ地域社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。【○は1つ】

○社会のために役立ちたいと思っているかについて、「あまり考えていない」が42.9%と最も多く、「思っている」(39.1%)を3.8ポイント上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-9-4）。

図 4-9-4 地域における社会貢献の意思（前回比較）



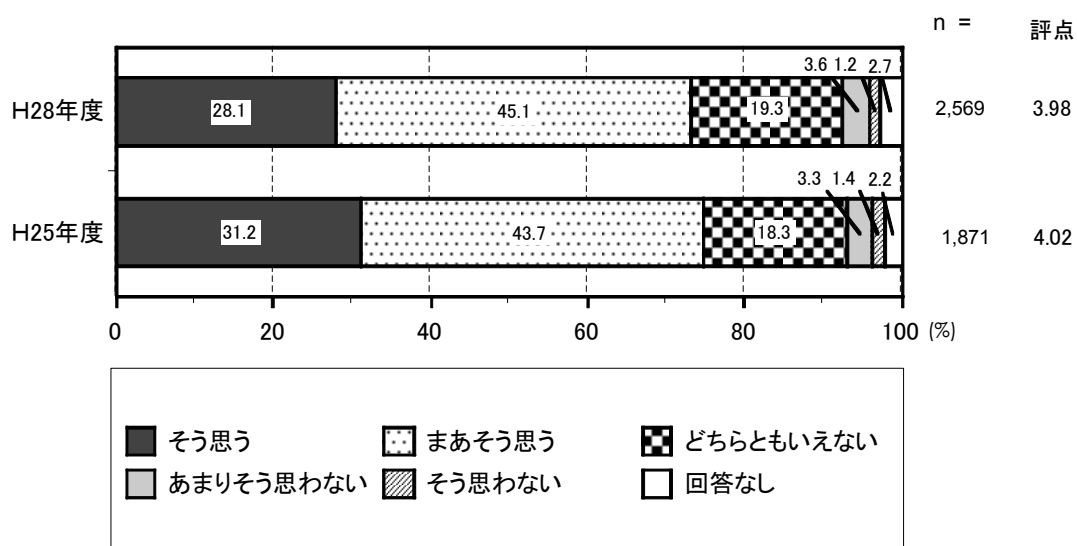
（２）課題解決におけるコミュニティの重要性（問 17）

問 17 地域にはさまざまな課題があると思われますが、このような課題を解決していくためには、地域のコミュニティが中心になって進めていくことが今後ますます重要になると思いますか。【○は1つ】

○地域の課題解決のためにコミュニティの役割が重要かについて、「まあそう思う」が45.1%で最も多く、「そう思う」(28.1%)との合計は73.2%で、多くの人が地域コミュニティの重要性を認識しています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-9-5）。

図 4-9-5 課題解決におけるコミュニティの重要性（前回比較）



(3) 地域コミュニティへの参加の意思 (問18)

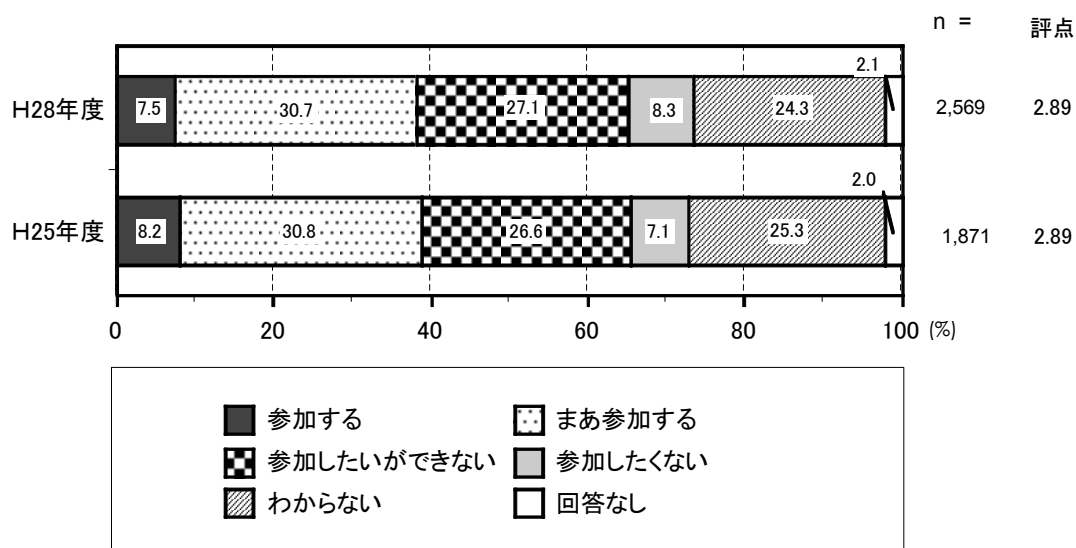
問18 問17のような取組などを地域コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加しますか。
【〇は1つ】

○地域コミュニティへの参加の意思について、「まあ参加する」が30.7%で最も多く、「参加する」(7.5%)と合わせた割合は38.2%となっています。さらに、「参加したいができない」の27.1%を加えると、全体の65.3%が参加の意向を示しています。問17の結果でみたように、多くの市民がコミュニティの重要性を感じていながらも、実際はなかなか参加できない状況にある市民が少なくない状況にあります。

○「参加したくない」は8.3%にとどまっています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-9-6)。

図4-9-6 地域コミュニティへの参加の意思 (前回比較)



問18で「3. 参加したいができない」「4. 参加したくない」に「○」を付けた方は、その理由をご記入ください。

○「仕事で忙しい」という理由が280件と最も多くあげられています。これも含めて、「子育てで忙しい」(58件)や「とにかく時間がない」(77件)など、忙しさを理由としてあげる市民が多い状況です。

○また、「健康上の理由」(77件)や「高齢のため」(66件)など健康面や加齢による体力の衰えなどを理由としてあげる市民も少なくありません。

○問17の結果でみたように多くの市民がコミュニティの重要性を感じていながらもその一方で、「ご近所づきあいが煩わしく面倒」(22件)や「自分や家族のことを優先」(32件)、「苦手、自信がない」(28件)という理由をあげる市民もみられます。また、「(参加の)きっかけや機会がない、わからない」(35件)というコミュニティ推進の施策的課題につながるような理由もみられます(図4-9-7)。

図4-9-7 地域コミュニティの活動に「参加したいができない」「参加したくない」理由

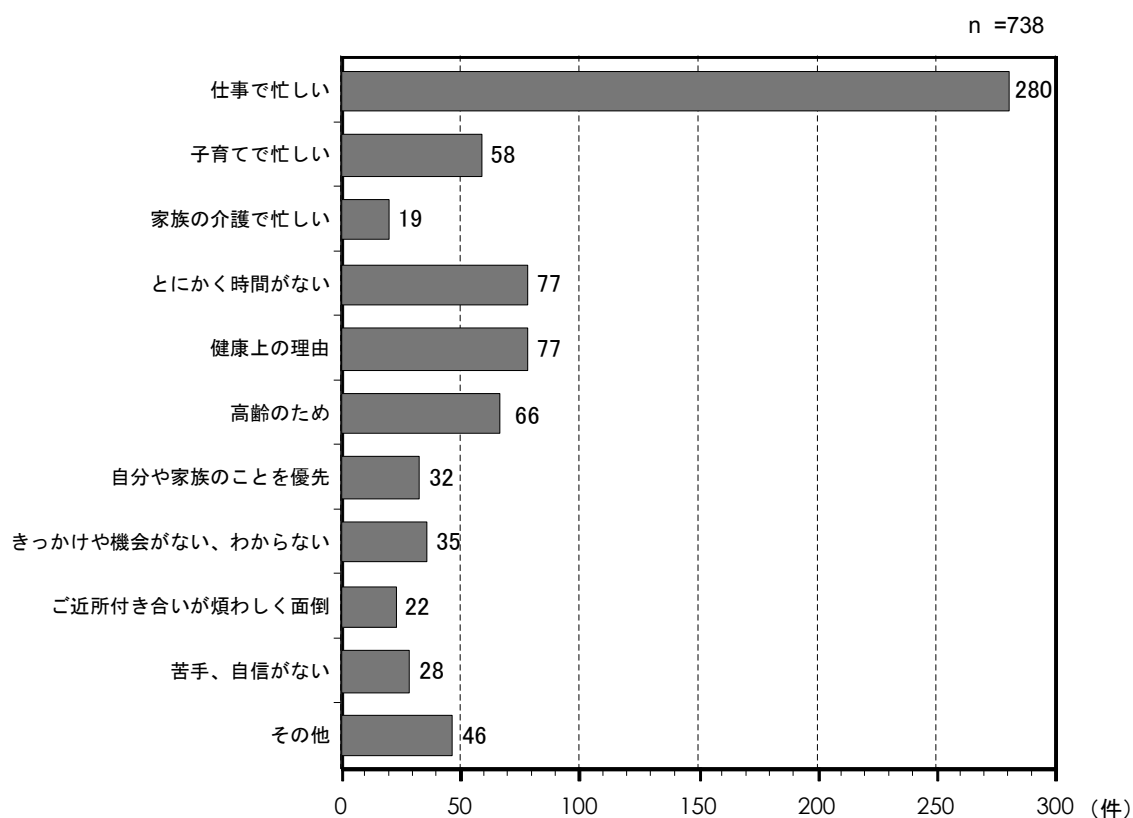


表4-9-1 地域コミュニティの活動に「参加したいができない」「参加したくない」主な理由(抜粋)

分類	主なご意見(抜粋)
1: 仕事で忙しい	・仕事が忙しいため。 ・仕事と育児があるため。 ・就業中のため、体力的に無理。 ・単身赴任のため。 ・仕事が土日関係なく入るため。土日出勤、平日休みなど。 ・フルタイムで夫婦共働きのため。
2: 子育てで忙しい	・子どもが小さいため。 ・育児があるため。 ・子どもがまだ小さく、仕事もあり時間的に余裕がない。 ・子どもがまだ小さい。移動する手段がない。 ・子連れだとむずかしい。預け先が確保できない。 ・子育て、家事で時間が取れない。

分類	主なご意見（抜粋）
3：家族の介護で忙しい	・介護があるため。 ・夫が2年半ほど病院に入っている。時間に余裕がない。 ・介護が必要な主人がいるのもっと自由な時間が欲しい。 ・遠距離で両親の介護をしているため。 ・義母を静岡市内まで主人と交代で介護に出かけている。 ・認知症の主人がいるため。
4：とにかく時間がない	・時間がつくれない。 ・時間がない。 ・忙しいので。 ・余裕がない。 ・日時的に予定があり、合わない事が多い。 ・ほとんど家にいないため。
5：健康上の理由	・健康上の理由から。 ・障がい者なので。 ・自分の身体に自信がない。 ・体力的に無理があるため。 ・身体がしんどくなる。 ・歩行が困難なため。
6：高齢のため	・高齢のため。 ・年齢的に無理。 ・高齢となり体力的に動けなく他人に迷惑をかける。 ・96歳の老齢にて参加したいができないと思う。 ・高齢のためあまり役に立つとも思われない。 ・高齢なので足でまといになるから。
7：自分や家族のことを優先	・現在、娘夫婦の孫の面倒をみているため。 ・自分の生活で手いっぱい。余裕がない。 ・旅行をしていることが多いため。 ・家を空けるのがむずかしい。 ・自分と家族の健康面のため。 ・家族に高齢者がいるから。
8：参加のきっかけや機会、必要な情報が不足	・地域コミュニティ内容とか活動状態を知らないため。 ・参加したことがないので、その輪に入りにくい。 ・ご近所等お付き合いもなく参加しづらい。 ・どこで何をしているのかわからない。 ・地域の人はほとんど知らないため。 ・溶け込みにくい。
9：ご近所づきあいが煩わしく面倒	・面倒。 ・自分が人から干渉されるのが好きではないので。 ・マンションに住んでいるので、マンション内だけで良い。 ・声の大きな人が幅をきかせているから。 ・人と交わるのがおっくう。 ・他人と話しをしたくない。
10：苦手、自信がない	・人付き合いが苦手。 ・人とのコミュニケーションが苦手。 ・人に迷惑をかけるのは嫌い。かけられるのも嫌い。 ・一緒に参加する人がいないので、一人では不安。 ・他人に対して協調性がない。 ・参加する勇気がない。
11：その他	・独り暮らしのため。 ・興味がない。 ・本来は市が行うべきだと思うので。 ・将来的に転出する予定だから。 ・常時住んでいないので。 ・関わりたくない。